

JCCA

Kyushu Branch, Japan Civil Engineering Consultants Association

九州支部

支部だより

Vol. 43 2019. 7

支部長のご挨拶…………… 1
支部組織図…………… 2
R1 事業運営方針とH30 事業報告・3

総務・企画部会、特別部会 …… 13
対外活動部会…………… 61
技術部会…………… 62

夢アイデア部会・共助研…………… 66
令和元年度会員名簿 …… 83



日頃より、一般社団法人建設コンサルタンツ協会並びに同九州支部の活動に格別のご理解、ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当九州支部は、九州・沖縄の8県全てに会員を有し、その総数は153社（5月1日現在）を数える国内最大規模の支部として、創設51年目を迎えるまでに継続、成長してまいりました。これもひとえに、関係する皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

この組織力を背景に、会員相互並びに関係諸機関や地域の皆様と連携しながら、会員各社の得意分野を中心にして、九州・沖縄地域で暮らす14百万人を超える人々の安全・安心の確保と、その基盤である道路、鉄道、空港、港湾、河川、ダム、上下水道などの社会資本整備における企画、調査、設計、施工監理等の業務に事業者の技術的パートナーとして活動しています。

ここ九州・沖縄では、2016年の熊本地震の復興途上にある中で、2017年7月の九州北部豪雨災害、同9月の台風18号災害等により、またまた多くの人的被害が発生し、公共土木施設にも甚大な損失が生じました。更に、昨年の西日本豪雨災害でも九州北部を中心に土砂災害等に見舞われました。これらの「忘れる間もなく連続的に発生する災害」の影響により、未だ避難生活を余儀なくされておられる被災者の方々も多く、喪失・被災したインフラの復興、地域の再生に向けて会員各社はもとより、支部としても積極的な対応を継続しているところです。最前線で活動する会員各社への後方支援に加えて個社の枠を超えた連携強化を行い、業界全体としての取組み成果を積上げていくことが従来に増して強く求められている時だと認識して、支部一丸となって活動しています。

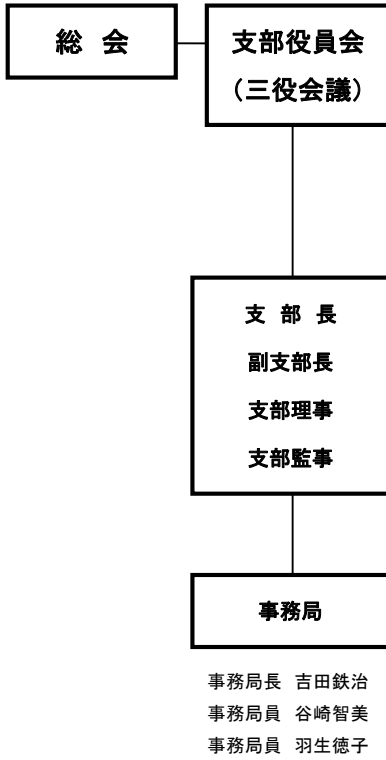
また、支部活動は復旧・復興支援以外にも、ホームページに掲載しているとおり多岐にわたっています。大規模災害発生時に備えた国や自治体等との災害協定締結を始めとする危機管理事前活動はもとより、会員会社の技術水準や経営水準の向上を目指した研修等の諸施策をはじめ、支部の独自活動である「夢アイデア事業」を通じて、地域の皆様とともにそこに暮らす人々の笑顔あふれる地域社会の育成支援活動を行うなど、ハード・ソフト両面で広い意味の社会資本の形成に努めています。更に本年4月に施行された改正労働基準法を踏まえた働き方改革の推進にも、全力をあげて取り組んでいるところです。

我が国の現状は、人口減少、少子高齢化、インフラの老朽化、多発する大規模災害、地政学上のリスクの増大等、取り巻く環境が近年大きく変化し、今までに経験したことのない領域に向かって急速に進んでいます。我々建設コンサルタンツは、過去と現在の客観的事実に基づいて、明日へ続く社会を構築する技術・技法の供給源として日々研鑽に努め、発注者としての行政機関や地域の皆様の頼れるパートナーとして、国民に常に必要とされる公器となるべく活動することをその使命としています。

引き続きまして、支部・会員各社に対するご理解と一層のご支援をお願いするとともに、お気づきの点に関しましてのご要望やご意見を賜れば幸甚でございます。

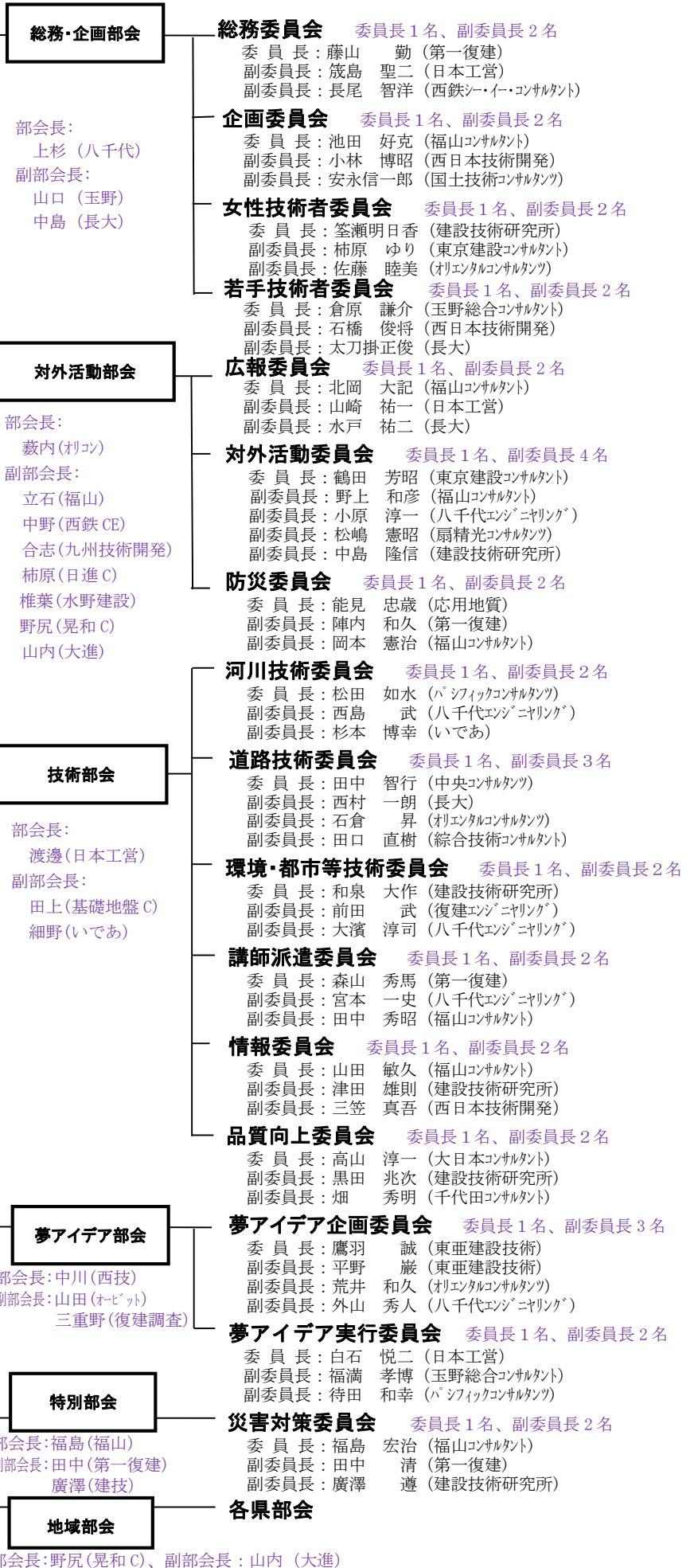
令和元年5月
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会九州支部
支部長

福島 宏浩



支部役員		
支部長	福島 宏治	福山コンサルタント
副支部長	田中 清	第一復建
副支部長	廣澤 遵	建設技術研究所
支部理事	山田 益司	オビット
支部理事	藪内 一彦	オリエタルコンサルタント
支部理事	田上 裕	基礎地盤コンサルタント
支部理事	山口 貴康	玉野総合コンサルタント
支部理事	中島 城二	長大
支部理事	中川 裕	西日本技術開発
支部理事	渡邊 俊光	日本工営
支部理事	立石 亮祐	福山コンサルタント
支部理事	三重野秀信	復建調査設計
支部理事	上杉 泰右	八千代エンジニアリング
福岡(理事)	中野 安久	西鉄シーイーコンサルタント
佐賀(理事)	合志 勉	九州技術開発
大分(理事)	柿原 俊二	日進コンサルタント
熊本(理事)	椎葉 晃吉	水野建設コンサルタント
宮崎(理事)	野尻 周男	晃和コンサルタント
鹿児島(理)	山内 康功	大進
監事	藤田 茂久	東亜建設技術
監事	細野 典明	いであ

令和元年7月1日現在



近年の地球温暖化に伴う異常気象等により、我が国では毎年甚大な自然災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしています。九州においても例外ではなく、2012年の九州北部豪雨、2016年の熊本地震、2017年の再度の九州北部豪雨、そして昨年2018年7月の西日本豪雨などが記憶に新しいところです。九州地方整備局や関係自治体の行政機関では、これらの災害から住民の安心・安全を確保してゆくために、さまざまな対応を行っております。また、我々建設コンサルタントは、災害対応を行う行政機関に対して速やかに協力できるように、災害協定を締結して支援を行っており、防災・減災対策の推進に向けて協力しています。さらに、災害を未然に防ぐために総事業費約7兆円の「防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策」が掲げられたところです。この緊急対策事業の達成に向け上位計画を担う建設コンサルタントの役割はますます重要となります。

我々建設コンサルタントは、国民の安心・安全な暮らしを支える強靱で持続ある国土形成のために、社会資本の確実な整備と維持管理の計画的・持続的推進が重要である認識のもと、この役割を担うために優れた品質の成果物を継続的に提供していくことが、発注者のパートナーとして与えられた社会的使命であると考えています。

一方、我々をとりまく環境として、長年続いてきた公共事業の削減によって「建設コンサルタント企業の健全な発展」および「技術者の魅力向上と展望ある成長」が阻まれる状況にありました。しかし、ここ10年間の公共事業費の下げ止まり、7年連続での設計業務技術者単価の上昇、2014年の公共工物品質確保促進法の制定など建設コンサルタントにとって明るい兆しが見えてきました。さらに2019年にはこの品質法の改正が行われます。改正案は「災害時の緊急対応の強化」、「働き方改革の推進」、「生産性の向上」が柱となり、これまで「工事に準ずる」扱いとされてきた“調査等（測量、地質調査、点検・診断を含むその他調査、設計）業務”の品質の確保対応も明確化されています。我々は、改正品質法の基本理念である「適正な利潤を確保」しつつ、「担い手の中長期的な育成・確保」と「公共工物品質確保」を実現するための具体的な方策を掲げて活動する必要があります。さらに、建設現場の生産性向上等を目指して平成28年1月に打ち出された「i-Construction」施策は、現場の測量から、設計、施工、検査までに至る建設プロセス全体にICT技術を導入・活用する事により生産性向上を図るもので、建設コンサルタントにもその対応が求められてきています。

そのような状況にある中、我々は発注機関とのパートナーシップの維持向上と相互理解を図るとともに、会員企業共通の課題認識とその解消、さらに魅力ある職業としての確立等に向けて、①経営の安定と就業環境の改善、②技術力と品質の確保・向上および生産性の向上、③社会的な認知度の向上等に協会全体で取り組んでいく必要があります。

以上の状況を踏まえ、建設コンサルタンツ協会九州支部の2019年度事業は、以下の運営方針で進めてまいります。

(1) 建設コンサルタントの一層の魅力向上に向けた総合的な環境整備

- ① 発注機関との意見交換会の開催と「要望と提案」の提起
- ② 経営の安定化と就業環境の改善および職業基盤確立のための環境整備
- ③ 若手・女性技術者がより働きやすく、活躍できる職場環境作りの推進

(2) 技術力と品質の確保・向上の促進

- ① 各技術分野における技術力と品質の確保・向上施策の実施
- ② 生産性向上等各種の施策や先進技術等の情報提供と取組みの促進
- ③ 受発注者それぞれの役割を踏まえた今後の維持管理事業への取組みの促進

(3) 広報活動の強化と社会貢献活動の推進

- ① 建設コンサルタントの社会的役割と意義および業務内容等の産学官一体となった広報活動の強化
- ② 災害支援活動の充実と防災技術に関わる各種情報等の提供
- ③ 各種社会貢献活動等の継続と充実（夢アイデア交流会、講師派遣等含む）

(4) 職業倫理の保持と法令遵守の徹底

- ① 職業倫理の保持について啓蒙活動の推進
- ② 法令遵守の徹底と課題発生時における助言・支援等
- ③ 労働法制改正への対応支援

(5) 会員であることによる便益向上の一層の促進

- ① 上記4項目による便益についての理解の促進
- ② 企業経営等に関わる各種研修会・講習会による情報提供
- ③ 各県部会所属会員のためのサテライト講習会の拡充

[補足説明] (各方針の具体的内容については別紙参照)

1) 事業運営の大きな柱として、(1)・(2)・(3)を立てる。(1)は建設コンサルタント事業の根幹に関わる方針、(2)は当該事業の立脚点である技術力と品質に関わる方針、(3)は当該事業の社会的位置と貢献に関わる方針である。

2) (4)は建設コンサルタント事業を営む上での絶対的条件である職業倫理と法令遵守に関わる方針である。

3) (5)は特に会員の便益向上の一層の促進に関わる方針である。

近年の地球温暖化に伴う異常気象等により、我が国では毎年甚大な自然災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしています。九州においても例外ではなく、2012年の九州北部豪雨、2016年の熊本地震、2017年の再度の九州北部豪雨、そして昨年2018年7月の西日本豪雨などが記憶に新しいところです。九州地方整備局や関係自治体の行政機関では、これらの災害から住民の安心・安全を確保してゆくために、さまざまな対応を行っております。また、我々建設コンサルタントは、災害対応を行う行政機関に対して速やかに協力できるように、災害協定を締結して支援を行っており、防災・減災対策の推進に向けて協力しています。さらに、災害を未然に防ぐために総事業費約7兆円の「防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策」が掲げられたところです。この緊急対策事業の達成に向け上位計画を担う建設コンサルタントの役割はますます重要となります。

我々建設コンサルタントは、国民の安心・安全な暮らしを支える強靱で持続ある国土形成のために、社会資本の確実な整備と維持管理の計画的・持続的推進が重要である認識のもと、この役割を担うために優れた品質の成果物を継続的に提供していくことが、発注者のパートナーとして与えられた社会的使命であると考えています。

一方、我々をとりまく環境として、長年続いてきた公共事業の削減によって「建設コンサルタント企業の健全な発展」および「技術者の魅力向上と展望ある成長」が阻まれる状況にありました。しかし、ここ10年間の公共事業費の下げ止まり、7年連続での設計業務技術者単価の上昇、2014年の公共工品質確保促進法の制定など建設コンサルタントにとって明るい兆しが見えてきました。さらに2019年にはこの品質法の改正が行われます。改正案は「災害時の緊急対応の強化」、「働き方改革の推進」、「生産性の向上」が柱となり、これまで“工事に準ずる”扱いとされてきた“調査等（測量、地質調査、点検・診断を含むその他調査、設計）業務”の品質の確保対応も明確化されています。我々は、改正品質法の基本理念である「適正な利潤を確保」しつつ、「担い手の中長期的な育成・確保」と「公共工品質の確保」を実現するための具体的な方策を掲げて活動する必要があります。さらに、建設現場の生産性向上等を目指して平成28年1月に打ち出された「i-Construction」施策は、現場の測量から、設計、施工、検査までに至る建設プロセス全体にICT技術を導入・活用する事により生産性向上を図るもので、建設コンサルタントにもその対応が求められてきています。

そのような状況にある中、我々は発注機関とのパートナーシップの維持向上と相互理解を図るとともに、会員企業共通の課題認識とその解消、さらに魅力ある職業としての確立等に向けて、①経営の安定と就業環境の改善、②技術力と品質の確保・向上および生産性の向上、③社会的な認知度の向上等に協会全体で取り組んでいく必要があります。

以上の状況を踏まえ、建設コンサルタンツ協会九州支部の2019年度事業は、以下の運営方針で進めてまいります。

近年我が国の広範囲の地域において自然災害が多発しています。平成27年には北関東豪雨、28年には熊本地震、九州豪雨、東北・北海道水害、鳥取県中部地震、29年には九州北部豪雨、30年には大阪府北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震などが発生し、とりわけ九州地域においては、毎年地震、豪雨、台風被害などが続いています。これらの全国規模の自然災害に対する国土強靱化や防災・減災対策の推進および被災地における復旧・復興等の社会的重要性は、従来にも増して強く認識されるものとなりました。今後も南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの発生が予想され、万全の対策が求められる状況です。

また、高度経済成長期に整備された社会資本の老朽化に対する適切な維持管理、長寿命化、更新等の必要性に対する社会的認識も一層高まり、我が国における財政事情の厳しさはありながらも、もはや遅滞の許されない状況となっています。これらの社会資本に関わる喫緊の課題に対して、建設コンサルタントの果たすべき社会的役割はますます増大しています。

近年におけるこれらの課題認識のもと、平成 25 年には「強くてしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」が成立し、同時に「南海トラフ巨大地震対策特別措置法案」、「首都直下地震対策特別措置法案」も可決されました。さらに「インフラ長寿命化基本計画」も策定され、建設コンサルタントが対処すべき領域についての制度的バックボーンとなる一連の法整備がなされました。

これらの社会的情勢を踏まえて、平成 26 年 6 月には改正品確法が施行され、「建設分野における担い手の中長期的な育成・確保の促進」を趣旨として、発注者責務である適正な利潤が確保できる予定価格の設定、計画的な発注、適切な工期設定等が明確に規定されるとともに、関係主体が取り組むべき事項等が明示されました。これを受けて、同年 9 月には「発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会」が設置されました。本会は、信頼性の高い良質な社会資本整備のための企画、調査、計画、設計、施工、維持管理などの事業の流れと、これらを執行していく主体の関わり方および相互の関係等を包括する建設生産システムの改善について議論することを目的としています。特に建設コンサルタント業務については、「調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会」が 25 年度以降継続的に開催され、種々の施策等が実施に移されています。さらに、27 年 1 月には国土交通省策定による運用指針が公共工事品質確保関係省庁連絡会議において取り決められ、その後種々の公共事業発注機関において履行促進が図られています。

また一方では、永年の懸案である長時間労働の改善や、女性活躍推進法を踏まえた女性技術者のための環境整備、労働と生活の調和を目指すワークライフバランスの推進など、「働き方改革」が社会全般の重要課題としてクローズアップされ、建設コンサルタント業界においても、これらへの取組みが大きな社会的要請事項となっています。とりわけ本業界では、若年層の離職が多く、その抑制を最重要課題として取り組みつつ、女性技術者が働きやすく活躍できる条件の更なる整備や技術の伝承を含めたシニア層の一層の活用推進など、将来の担い手の確保・育成のための労働環境改善が喫緊の課題となっています。

平成 30 年 6 月には、働き方改革関連法（「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」）案が可決され、建設コンサルタントの属するサービス業については、その施行は 31 年 4 月 1 日と決定されました。残業時間の上限規制を超えた場合には、法的に罰則を受けるのみならず、指名停止など極めて重いペナルティが課せられることから、正しく猶予のない厳重な取組みが要請される状況となりました。

建設コンサルタント業界の企業経営面を概観すると、平成 26 年度以降、公共事業予算は安定的に推移し、また同期間における技術者単価は継続的に上げられるとともに調査・設計積算基準も改定されるなど、経営環境は良好に推移しました。そのため 24 年度から 26 年度にかけて会員会社の業績は全般的に回復基調となりましたが、27 年度・28 年度と続いて 1 社あたりの平均売上高・営業利益率が減少に転じました。その後 29 年度は再び上昇しましたが、それが今後も継続するのか、変動の要因も含めその動向を慎重に注視すべき状況にあります。

以上のような建設コンサルタント業界を取り巻く状況とその実態を踏まえると、本業界が対処すべき根幹的課題は以下のように整理され、これらへの取組みを一層強く推進していく必要があります。

- (1) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備
- (2) 建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み強化

(3) 人材の確保・育成と新たな事業推進形態の環境整備

すなわち、具体的には、

(1) については、安定的な事業量の確保と技術者単価の継続的な引き上げ、実態に即した歩掛・積算体系への改善および整備

(2) については、履行期限（納期）の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化の取組強化、受発注者協働によるワークライフバランスの改善に向けての施策の推進・強化、BIM/CIM や 3次元情報管理の推進・普及による計画・設計・施工・維持管理に係る生産性向上、広域災害における迅速かつ適切な災害対応と改正労働基準法遵守との両立

(3) については、若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度の工夫改善の推進、生産性向上と品質向上に資する新たな事業推進形態（建設コンサルタントが担う事業促進 PPP、監理業務[PM・CM]等）の拡大と制度改善

に取り組んでいくことが必要です。

上記のような課題認識に基づき、平成 30 年度においても、九州支部は本部との緊密な連携のもと、国土交通省九州地方整備局、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県を含む管内 8 県および 3 政令指定都市と意見交換会等を開催し、これらを通じて種々の課題解決に向けた取組みを行いました。とりわけ九州地方整備局とは実務者による業務円滑化調整会議を 26 年度より継続して開催しており、その協議を踏まえつつ新たな試行業務など適切な改善策の実施も進んでいます。

しかし、課題はなお多く、九州支部全体が一体となって、さらに一層の努力を進めていく必要があります。そのような観点から、30 年度には次に示す運営方針を掲げ、会員各位のご尽力を頂きながら、様々な事業活動を展開して参りました。

[平成 30 年度運営方針]

(1) 魅力ある建設コンサルタントに向けた総合的な環境整備

- ① 発注機関との意見交換会の開催と「要望と提案」の提起
- ② 経営の安定化と就業環境の改善および魅力ある職業の確立のための環境整備
- ③ 若手・女性技術者が働きやすく、活躍できる職場環境作りの推進

(2) 技術力と品質の確保・向上の促進

- ① 各技術分野における技術力と品質の確保・向上施策の実施
- ② 生産性向上等各種の政策や先進技術等の情報提供と取組みの促進
- ③ 受発注者それぞれの役割を踏まえた今後の維持管理事業への取組みの促進

(3) 広報活動の強化と社会貢献活動の推進

- ① 建設コンサルタントの社会的役割と意義および業務内容等の産学官一体となった広報活動の強化
- ② 災害支援活動の充実と防災技術に関わる各種情報等の提供
- ③ 各種社会貢献活動等の継続と充実

(4) 職業倫理の保持と法令遵守の徹底

- ① 職業倫理の保持について啓蒙活動推進
- ② 法令遵守の徹底と課題発生時における助言・支援等

(5) 会員であることによる便益向上の一層の促進

- ① 上記 4 項目による便益について再認識の促進
- ② 企業経営等に関わる各種研修会・講習会による情報提供
- ③ 各県部会所属会員のためのサテライト講習会の拡充

(九州支部創立50周年記念事業の準備と実施)

[補足説明]

1) 事業運営の大きな柱として、(1)・(2)・(3)を立てます。(1)は建設コンサルタント事業の根幹に関わる方針、(2)は当該事業の立脚点である技術力と品質に関わる方針、(3)は当該事業の社会的位置と貢献に関わる方針です。

2) (4)は建設コンサルタント事業を営む上での絶対的条件である職業倫理と法令遵守に関わる方針です。

3) (5)は特に会員の便益向上に関わる方針です。

具体の事業活動については、支部役員会での審議結果に基づき、総務・企画部会、対外活動部会、技術部会、夢アイデア部会、特別部会、地域部会の6部会とその下部組織である合計17の委員会が中心となり、会員会社や事務局の支援・協力のもと、自律的かつ積極的な活動を展開して参りました。

これらの活動に対する広範な支持と賛同もあって、九州支部の会員数は、平成30年度末には153社(本社会社99社、支社会社54社)となりました。これは発足以来最大の規模であり、全国の支部の中でもトップクラスの陣容となっています。また、永年の懸案事項であった沖縄県本社会社の九州支部加入が実現し、沖縄エリアにおける支部活動の活発化に向けて新たな踏み出しが開始されました。

活動内容の詳細は、各部会報告に示すとおりですが、運営方針に沿った全体の総括を、以下にご報告いたします。

(1) 魅力ある建設コンサルタントに向けた総合的な環境整備

① 発注機関との意見交換会の開催と「要望と提案」の提起

既述のように、昨年度と同様、国土交通省九州地方整備局、内閣府沖縄総合事務局および各地方自治体と意見交換会等(国の機関とは本部・支部で、地方自治体とは支部単独で開催)を実施しました。九州地方整備局および沖縄総合事務局との意見交換会においては、本部作成の地方ブロック意見交換会「要望と提案」および関連資料に基づいて本部・支部の事前協議を行い、九州地域の特性を踏まえた意見交換を実施しました。また九州地方整備局とは、支部単独による意見交換会および実務者レベルの業務円滑化調整会議も実施しました。さらに、NEXCO西日本九州支社との定例的な意見交換会開催に向けて事前協議を開始しました。

九州地方整備局とは、通算して第5回、第6回の業務円滑化調整会議を実施しました。そしてその結果を踏まえて、整備局と支部との意見交換会を開催するという2段階の会議方式をとり、課題解決に向けた一層効果的な取組みを進めています。

各自治体との意見交換会では、建設コンサルタント白書に掲載された全国データに加え、支部会員会社へのアンケートによる発注者別のデータを充実させ、それぞれの特徴を考慮した「要望と提案」をとりまとめ、課題解決型の意見交換ができるように努めました。その際、昨年度と同様、各県部会が主体となって地元会員会社からの意見をとりまとめて頂き、意見交換内容の充実に努めました。

九州支部作成の「要望と提案」については会員の声を反映した論理構成による内容とするとともに、各要望項目の進捗状況を一覧表にするなど、目標の達成度合いを明確に比較検証できるように整理しました。このような工夫を行うことで、各発注者と充実した意見交換会ができるように改善されてきたことに加え、受注者側の認識する課題に対して発注者側の理解が一層進んで来たと評価されます。

② 経営の安定化と就業環境の改善および魅力ある職業の確立のための環境整備

上記の意見交換会においては、公共事業予算の動向を踏まえながら、国の機関および各自治体の今後の発注見通しについて可能な限りの情報提供を求めるとともに、それを踏まえた会員会社の雇用方針すなわち担い手の中長期的な育成・確保、および就業環境整備等の方向性検討による経営の安定化に資する取組みを進めました。建設分野におけるこの就業環境の改善への取組みは極めて重要な課題であり、とりわけ労働時間の削減とワークライフバランスの推進は、建設コンサルタント業界としても、受発注者双方で取り組むべき喫緊の課題です。平成30年度における発注者との意見交換会においても「必要な工期の確保と納期の平準化」、「日常業務遂行ルールの遵守(いわゆる「ウイークリースタンス」)」や「ノー残業デーへの理解」などを要望し、各発注者より前向きな回答を得ております。特に、九州地方整備局との業務円滑化調整会議においては、次項③の「若手・女性技術者の活用促進の取組み」を含め、「履行期限の平準化」、「労働環境の改善」、「総合評価落札方式の新たな取組み」を主要テーマに取り上げ、具体的な指針を盛り込んだ試行業務の実施まで、課題解決に向けた取組が進んでいます。

また「ノー残業デー」については、本部主催の全国一斉の取組みに呼応し、支部においても多くの会員会社が参加しています。

③ 若手・女性技術者が働きやすく、活躍できる職場環境作りの推進

上記の業務円滑化調整会議において、若手・女性技術者の活躍を促進するような業務発注のあり方を受発注者協働で検討を行い、具体的な試行業務の実施にまで施策を進めています。また、地方自治体へは、意見交換会において、九州地方整備局の取組みを紹介しつつ、少しずつでも具体的な取組みが進められるよう要望しています。

一方支部においては、昨年度に引き続き「若手技術者交流会」を開催し、若手技術者による業務成果の発表と活発な意見交換を行いました。この交流会には、大学生の参加も働きかけており、毎年多数の将来の担い手候補の皆さんが参加しています。発表会後の懇親会は、若手技術者相互のみならず学生と若手技術者の交流の機会とし、リクルート活動の一環としても効果的な場としています。また、若手技術者への支部活動に関する理解促進を目的に、広報委員会の活動内容の紹介を行ないました。また夢アイデア部会の「ばり！夢ばかなえ隊」と協働で「JOB CAFE」を開催し、若手メンバーによる本音のテーマトークを通じて、今後の展望やあり方について意見交換をしました。

さらに、女性技術者委員会の主催による「第2回女性技術者交流会」を開催し、『私らしい働き方をするために』をテーマとしたワークショップ形式による意見交換を行いました。その成果等をニューズレター第3号・第4号として発刊するとともに、対外活動委員会や男性技術者等との意見交換を行うなど、活発に活動中です。

(2) 技術力と品質の確保・向上の促進

① 各技術分野における技術力と品質の確保・向上施策の実施

会員会社の技術力向上の観点からは、河川、道路、環境・都市等の3技術分野、具体的には、河川、ダム、道路、橋梁、トンネル、環境、都市計画、地方創生等の多岐にわたる個別技術についての各種の技術講演会、現地見学会、技術セミナー、研究会、発注者との技術意見交換会等を実施しました。

河川技術分野については、「最近の災害の状況を踏まえた河川行政の現状について」および「九州北部豪雨災害から得た教訓と今後の防災・減災について」をテーマとした技術講演会、各地の災害復旧現場や建設工事現場等の見学会、「河川堤防の決壊を防ぐ研究の最前線」を題材にした技術セミナー等を開催するとともに、九州地方整備局河川部や自治体等との意見交換会を実施しました。

道路技術分野については、「高速道路の維持管理について」、「AIの基礎および道路分野への活用」、「道路橋示方書の改定と設計技術者への期待」をテーマとした技術講演会、各地の現場見学会、九州地方整備局との道路維持管理に関する意見交換会や道路工事課・企画課・九州技術事務所との意見交換会を実施しました。また橋梁については、PC建協・橋建協との意見交換会の開催や全国建設研修センターとの共催による「道路橋メンテナンス技術講習会」を開催しました。

環境・都市等技術分野については、風景デザイン研究会との共催で「風景・風景観の破壊と創造」をテーマとした景観分野の技術講習会、「環境DNA技術を用いた河川の生態調査への活用」と「新たな環境技術を活用した環境評価の今後の展開」をテーマとした環境分野の技術講習会、「持続可能な地域社会形成に向けた今後の10年戦略」と「これからの地域づくりにおいて技術者に期待すること」をテーマとした地域計画分野の技術講習会を開催するとともに、自治体等との意見交換会を実施しました。

品質向上の観点からは、多様な分野について継続的な改善施策の検討を行うとともに、効果的な情報提供と啓蒙活動を進めています。具体的には、発注者の技術職員研修会への講師派遣を継続的に実施するとともに、支部が開催を支援する本部主催の「マネジメントセミナー」や「品質セミナー」への発注者からの参加も促進し、委託業務に関わる事業全体の品質向上に大きく寄与しています。また、支部独自でエラー防止等に関する地域セミナーを、平成30年度は大分県、宮崎県、鹿児島県にて開催しています。

② 生産性向上等各種の政策や先進技術等の情報提供と取組みの促進

本部の関係委員会と連携しながら、各種の政策や先進技術等の情報収集を行うとともに、講習会等を通じて会員会社へ情報提供を実施しています。具体的には、「GIS講習会」、「CIMハンズオン講習会」、「ICTセミナー」を開催し、また地域会員向けにも「情報セミナー」を実施しています。

また、i-Constructionの推進に関する取組みの一環として、九州地方整備局の設置による「産学官連携会議（ICT・標準化作業部会）」へ参画し、最新情報の収集と提供を進めています。

③ 受発注者それぞれの役割を踏まえた今後の維持管理事業への取組みの促進

上記の技術分野のうち、河川、ダム、道路、橋梁、トンネル等については、九州地方整備局の各担当部局との意見交換会、勉強会、研究会等を開催し、その中で受発注者協働による今後の維持管理事業のあり方等について検討を進めています。特に橋梁については、「道路橋メンテナンス講習会」の実施や、PC建協・橋建協との合同研究会等による維持管理事業への取組みを進めています。

(3) 広報活動の強化と社会貢献活動の推進

① 建設コンサルタントの社会的役割と意義および業務内容等の産学官一体となった広報活動の強化

各種の産学官連携によるイベント等の機会を活用しながら、一般市民や学生等を対象に建設コンサルタントの社会的役割と意義および業務内容等について、広く情報発信を進めています。具体的には、「土木の日 ファミリーフェスタ 2018」におけるイベントの実施、「九州建設技術フォーラム」の一部管理・運営の実施と支部活動 PR ブースの設置および学生向けリクルーティング広報の実施等を行いました。また、「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」の事務局として、九州における社会資本の維持管理に関わる自治体活動や技術開発の推進等について支援を進めています。

さらに、掲載情報の質・量・更新頻度などについて多面的に配慮したホームページによる広報を継続するとともに、担い手の育成・確保という喫緊の最重要課題への根幹的な対応策である入職者の増加については、本部の広報戦略委員会と協働しながら、リクルートのための広報戦略強化を進めています。さらに、メディアへの対外広報として、業界紙各社に毎月 1 回定期的に取材可能情報を連絡するとともに、新聞社取材記事の HP へのアップロード等を適宜実施しています。

② 災害支援活動の充実と防災技術に関わる各種情報等の提供

平成 30 年度は、「関東地方で大規模地震（都心南部直下型）が発生」との想定のもと、本部と連携した協会全体の防災訓練を実施し、大規模災害発生時における会員会社への情報伝達および支援活動の即応性等の検証を行いました。各種団体との災害協定については、新たに熊本県および北九州市と締結しました。これにより、30 年度末における災害協定締結団体は、九州地方整備局、沖縄総合事務局、熊本県、北九州市、熊本市の 5 団体となりました。

7 月の西日本豪雨により多くの被災箇所が発生した北九州市からの支援要請については、その直前に締結した災害協定に基づき、会員会社による適切な対応が実施されました。

また、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震に焦点を当てた「防災シンポジウム」を開催しました。防災についての PR 活動としては、「九州建設技術フォーラム」において東日本大震災と九州北部豪雨の現状と復旧状況に関するパネル展示を行いました。

③ 各種社会貢献活動等の継続と充実

現在九州支部が取り組んでいる社会貢献活動は、夢アイデア事業と講師派遣を主要な柱としています（災害協定に基づく支援活動も社会貢献の重要な内容ですが、これについては前項で整理しています）。

夢アイデア事業については、提案された夢アイデアをいかに実現化に結び付けていくか、その具体的なアプローチを進めていくことが、何にもまして重要な社会貢献であると認識しています。そのため、さらに広範な一般市民の参画を促すとともに、事業推進プロセスの中で、業界をリードし社会貢献に対する強い意欲を持ち、夢アイデアを現実的な事業として推進していくことのできる有為な人材の育成に取り組んでいます。平成 30 年度も、夢アイデアの募集・審査・表彰とそれらの総括としての交流会の開催を、若手会員の尽力はもちろんのこと、支部全体が一丸となって実施しました。夢アイデアの応募は九州地域外からも増加し、当該事業の素晴らしさと九州支部の特徴的な取組みを全国に発信することができました。30 年度も留学生からのエントリーがあり、確実に国際化の方向に進展しています。夢アイデアのテーマについては、高齢化社会を反映して介護問題や高齢者活用に関する提案が増加しています。

夢アイデアの実現化に向けた取組みについては、平成 27 年に NPO として登録済みの「ヤギヒツジ ECO プロジェクト」関連諸活動、例えば福岡市舞鶴公園における「ふれあい動物園」の実施や、宮崎県西米良村における「思い出 NAVI プロジェクト」および福岡市唐人町商店街における「無礼講ストリート」等の各プロジェクトを実施しました。またファミリー向けイベントとして「食べられる公園ー子育て環境創出プロジェクト」を実施しました。

「九州郷づくり共助ネットワーク研究会活動」としては、大分県豊後大野市における柴北川プロジェクトや、長崎県雲仙市における雲仙プロジェクト等を着実に進めました。また、新しいプロジェクトの立ち上げへの取組みも開始しました。

講師派遣については、国土交通省や地方自治体および関連団体等の開催する研修会等へ、依頼に基づき最適な人材を派遣し、当該職員への情報提供とその技術力向上の促進に取り組んでいます。この講師派遣は、受発注者双方の共通目標である業務成果の品質向上にも大きく寄与する活動でもあります。30 年度においては、福岡県市町村職員、宮崎県建設技術センター、鹿児島県建設技術センター、福岡市技術職員、沖縄しまたて協会への講師派遣を実施しました。

(4) 職業倫理の保持と法令遵守の徹底

① 職業倫理の保持について啓蒙活動推進

「一般社団法人建設コンサルタンツ協会倫理綱領」および「建設コンサルタント技術者の倫理」を常に念頭に置いて業務遂行にあたるよう、役員会等を通じて会員会社への啓蒙に取り組んでいます。前者については、現在本部において改訂中であり、九州支部からも適宜必要な意見表明を行っています。

② 法令遵守の徹底と課題発生時における助言・支援等

会員会社における法令遵守の徹底を図るため、建設関連五団体共催による「コンプライアンス講習会（旧「独占禁止法遵守講習会」）」を開催しました。平成 30 年度は、「独占禁止法をめぐる最近の状況とその対応」および「消費税の軽減税率制度について」をテーマとして選定しました。

また、原則として毎月「独禁法に関する特別委員会」を開催し、必要な情報交換と重要課題に対する取組みについての審議等を実施しています。

さらに、コンプライアンスプログラム未策定会社への推奨案の提起等、必要な対応を継続的に実施中です。

(5) 会員であることによる便益向上の一層の促進

① 上記 4 項目による便益について再認識の促進

毎月開催の三役会議および役員会で種々の支部活動についての審議と方針決定を行い、これに基づき各部会および傘下の委員会活動を実施しています。そして、その成果と課題等についての検討と集約を各委員会および委員長交流会等において行い、その結果を再び三役会議および役員会にて審議し、新たな活動へ向けて展開していく、という PDCA サイクルによって支部活動を実践しています。その中で、常に上記 4 項目についての便益を、会員会社があまねく享受できるように留意するとともに、活動時期の平準化や委員会相互の情報交流の促進について検討を行い、「会員であることによる便益と満足度の向上」に努めています。特に、地域の会員会社のご意見等については、本部地域コンサルタント委員会および地域部会を通じて、より一層きめ細かく支部活動へ反映させる取組みを進めています。とりわけ、全会員会社共通の最重要課題である地域の担い手の確保・育成については、「(1)魅力ある建設コンサルタントに向けた総合的な環境整備」に記載の通り、若手技術者委員会・女性技術者委員会等の諸活動を通じて、支部全体の「便益と満足度向上」を増進し、将来に展望の持てる職業としての確立を目指し取り組んでいます。

また、30 年度においても、各部会および委員会活動における経費削減方針の徹底を進め、効率性の高い支部運営の実践に取り組んでいます。

この他、会員会社相互の親睦と福利厚生のために、軟式野球大会およびソフトボール大会を開催しました。

② 企業経営等に関わる各種研修会・講習会による情報提供

平成 28 年度の支部主催労務管理セミナー「実例から考える労働基準法」に続き、29 年度は本部主催の「契約のあり方講習会」（講師は大森文彦弁護士）を、さらに 30 年度は喫緊の最重要課題への対処のため、本部主催の「働き方改革セミナー」を開催しました。管理部門の職員のみならず、業務実施現場の技術管理者に必須の極めて実利的な講習内容であり、今後も機会あるごとに情報提供を進めていくことを予定しています。

また、本部主催の「経営分析説明会」を毎年継続的に開催しており、企業経営に関わる重要な現状分析と知見の提供を行っています。さらに本部主管の RCCM 資格試験の支援も毎年継続的に実施しています。

③ 各県部会所属会員のためのサテライト講習会の拡充

平成 28 年度から、福岡市で開催する各種講習会を各県部会の会員の方々が受講できるように、サテライト受講システムを導入しました。これも、上記①の「会員であることによる便益と満足度の向上」の取組みの一環です。30 年度においては、九州全県の 10 会場を結んで、発信側・受信側代表者、サテライト WG、企画委員会協働により、現システムおよび新システムによる中継テストを実施するとともに、各種トラブルに対する対処方策の検討を実施しました。今後も必要に応じてさらに機能向上や拡充を進めていく予定です。

30 年度においては、以上の定常的な活動とは別に、九州支部創立 50 周年記念事業を実施しました。

記念事業の内容は、以下の通りです。詳細については、後段の準備委員会報告および創立 50 周年記念誌をご参照ください。

- 創立 50 周年「提言」公表（下段参照）
- 創立 50 周年記念式典・記念講演・記念祝賀会開催
- つぶやき土木写真コンテスト実施
- CM 総選挙実施
- 若手技術者座談会開催
- 創立 50 周年記念誌・記念 DVD 発刊

創立 50 周年「提言」

地域に貢献し信頼される永続的産業として、地方支部のロールモデルを目指す

多発する大規模災害、老朽化が進む社会資本ストック、少子高齢化の急進による担い手不足、首都圏への過度な集中、財政規律の名のもとに制約が続く予算規模、多くの課題が我々の目前にあります。

全国的に広域編制された組織の西を守る九州支部は、地域に貢献し、地域の人々に認知され信頼され続ける産業として、地方支部としてのロールモデルを目指した活動を強化し、確かな未来をデザインしながら、次の 100 年へ繋げてまいります。

[提言 1] 産業としての社会的存在価値の強化

- 会員会社の安定的経営の持続
- 官・学・産・民の連携推進、オープン・イノベーションの加速

[提言 2] 国土強靱化施策への地理的特性を踏まえた積極的参画

[提言 3] 戦略的広報活動の強化

[提言 4] 地域活性化施策への能動的取り組みの強化

【総務・企画部会】

1. サテライト講習会運営をサポートしました（企画委員会 | 地域部会：各県部会）

地方会員へのサービス向上を目的に、福岡市および宮崎市で開催の講習会をライブ中継することで他県からも受講しやすい環境を提供した。平成30年度は、以下の講習会のサテライト中継をサポートした。

河川セミナー（第1回）	開催日 参加人数	平成30年8月20日 佐賀/13名（4社）、長崎18名（3社）、大分/36名（11社）、熊本/14名（6社）、宮崎/22名（9社）、鹿児島/5名（3社） 計 108名
若手技術者交流会	開催日 参加人数	平成30年8月24日 佐賀/3名（1社）、長崎/12名（2社）、大分/21名（2社）、熊本/8名（2社）、宮崎/4名（3社）、鹿児島/2名（2社） 計 50名
河川技術講演会	開催日 参加人数	平成30年9月4日 佐賀/9名（4社）、長崎/10名（2社）、大分/24名（10社）、熊本/9名（6社）、宮崎/23名（10社）、鹿児島/16名（7社） 計 91名
情報セミナー in 宮崎	開催日 参加人数	平成30年9月6日 佐賀/4名（2社）、長崎/8名（2社）、大分/11名（8社）、熊本/4名（3社）、鹿児島/5名（3社） 計 32名
環境セミナー	開催日 参加人数	平成30年9月14日 佐賀/6名（4社）、長崎/29名（6社）、大分/22名（7社）、熊本/7名（4社）、宮崎/10名（7社）、鹿児島/3名（3社） 計 77名
道路技術講演会	開催日 参加人数	平成30年10月5日 佐賀/6名（4社）、長崎/22名（8社）、大分/20名（8社）、熊本/7名（4社）、宮崎/14名（8社）、鹿児島/11名（5社） 計 80名
品質セミナー“エラー防止のために”（午前/午後）	開催日 参加人数	平成30年10月31日 【午前】 佐賀/9名（4社）、長崎/8名（2社）、大分/25名（7社）、熊本/7名（4社）、宮崎/10名（6社）、鹿児島/3名（2社） 計 62名 【午後】 佐賀/11名（4社）、長崎/8名（2社）、大分/25名（7社）、熊本/5名（4社）、宮崎/10名（6社）、鹿児島/3名（2社） 計 62名
河川技術セミナー（第2回）	開催日 参加人数	平成30年11月7日 佐賀/3名（2社）、長崎/12名（6社）、大分/6名（5社）、熊本/2名（2社）、宮崎/7名（4社）、鹿児島/2名（1社） 計 32名
対流による地域活性化を目指して～対流促進型国土を支える多様な活動について～	開催日 参加人数	平成30年11月14日 佐賀/9名（6社）、長崎/12名（4社）、大分/9名（6社）、熊本/3名（2社）、宮崎/10名（6社）、鹿児島/4名（4社） 計 47名
平成30年度防災シンポジウム	開催日 参加人数	平成30年12月7日 佐賀6名（3社）、長崎/4名（1社）、大分/11名（5社）、熊本/1名（1社）、宮崎/12名（6社）、鹿児島/5名（3社）、沖縄/5名（3社） 計 46名

2. 2019 年定時総会（総務委員会）

平成 31 年 4 月 17 日、2019 年度定時総会を開催し、下記のとおり報告ならびに決議した。

議 案		
(審議)	第一号議案	平成 30 年度事業報告（案）について
	第二号議案	平成 30 年度決算（案）及び監査報告について
	第三号議案	役員の改選（案）について
(報告)	第一号議案	2019 年度事業計画について
	第二号議案	2019 年度予算について
	第三号議案	支部組織の変更について

場 所：オリエンタルホテル福岡博多ステーション 3 階「YAMAKASA」



▲2019 年度定時総会の様子

3. 令和元年度委員長交流会（企画委員会）

- イベント名 令和元年度第 1 回委員長交流会
 開催日 令和元年 6 月 4 日（火）15：00～17：00
 場 所 カンファレンスアスクビル
 参加者 24 名（各委員長、企画委員会）
 議 事
- 1.平成 30 年度第 2 回委員長交流会議事録について
 - 2.2019 年度事業運営方針について
 - 3.2019 年度予算計画について
 - 4.2019 年度事業計画について（各委員長 事業計画の確認）
 - 5.その他事項
 - ・サテライト勉強会開催について
 - ・JCCA 商標のデザインマニュアルについて



▲第 1 回委員長交流会の様子

4. 建設関連業五団体主催「コンプライアンスに関する会員研修会」(総務委員会)

現在の社会情勢を踏まえて、改めてコンプライアンス遵守の重要性について、その役割を認識し法への理解を深めるための研修会を建設関連業五団体共催で開催した。

イベント名 建設関連業五団体主催「コンプライアンスに関する会員研修会」
開催日 令和元年6月19日(水) 13:30~17:00
場所 (財)福岡県中小企業振興センター「大ホール」(福岡市博多区吉塚本町9-15)
参加者 341名 (うち建コン会員 150名/73社)
主催団体 (一社)建設コンサルタンツ協会九州支部
(一社)福岡県測量設計コンサルタンツ協会
(一社)福岡県地質調査業協会
(一社)日本補償コンサルタント協会九州支部
(一社)全国上下水道コンサルタント協会九州支部

内 容 ■「建設業の課題への次の一手」
国土交通省九州地方整備局 建政部 建設産業調整官 天方 正彦 氏
■「職場におけるハラスメントの防止」
NPO法人 福岡ジェンダー研究所 理事 高木 里美 氏



▲コンプライアンスに関する会員研修会の様子

【特別部会】

1. NEXCO 西日本九州支社と災害協定を締結

内 容 NEXCO 西日本九州支社と災害協定を締結
締 結 日 令和元年6月17日(月)
場 所 NEXCO 西日本九州支社

2. 福北公社と災害協定を締結

内 容 福北公社と災害協定を締結
締 結 日 令和元年6月19日(水)
場 所 福北公社



◆第2回女性技術者交流会も大盛況でした♪

平成30年9月21日(金) 当委員会主催の第2回女性技術者交流会が開催され、九州地方で働く女性技術者が約60名集まりました。今回も2部構成で、テーマ「私らしい働き方をするために」について交流しました。第1部では「わたしの働き方」と題して委員会メンバー6名による子育て経験や現場での工夫、プライベートの充実についての紹介がありました。第2部では「理想とする働き方」についてワークショップ形式で意見交換を行い、どんな働き方がしたいか、そのためには何が問題でどうすれば解決できるか、など議論が白熱しました！女性ならではの悩みもありますが、「仕事もプライベートも充実したい！」が女性技術者みなさんの本音です！



【第1部 わたしの働き方】

～紹介者～

- 1.福原 昌子 管理職、バリキャリア編
- 2.末廣 富士代 転勤経験・現地諸問題編
- 3.山本 恵利華 若手社員キラキラ編
- 4.平山 歩 結婚、育児、共働き編 (Part1)
- 5.濱田 千友美 結婚、育児、共働き編 (Part2)
- 6.清角 知子 プライベート編

【第2部 理想とする働き方～意見交換会～】

【理想---プライベートと仕事の両立】

《時間の確保》

- ・残業しない
- ・仕事とプライベート・家庭の両立

《就業環境》

- ・自由な働き方
- ・充実した制度
- ・経済的余裕

《人間関係》

- ・分かり合える人の存在
- ・相談しやすい環境
- ・活発なコミュニケーション

《技術》

- ・得意分野を持つ
- ・頼られる存在

【課題---帰りにくい雰囲気、仕事量が多い(工期集中、予定外の仕事)】

- ・仕事量が多い

- ・帰りにくい雰囲気

- ・人材不足

- ・残業が当たり前の雰囲気

- ・スキル不足
- ・知識・経験不足

- ・周りの理解(制度利用、育児での急な休暇等)

【解決策---自身の意識改革、仕事量の把握、人材確保、新技術の活用(IT・AIなど)、社内外での交流】

《工程管理》

- ・工程会議
- ・業務量の把握・分担

《新技術の活用》

- ・ICT活用
- ・AI導入

《人材育成》

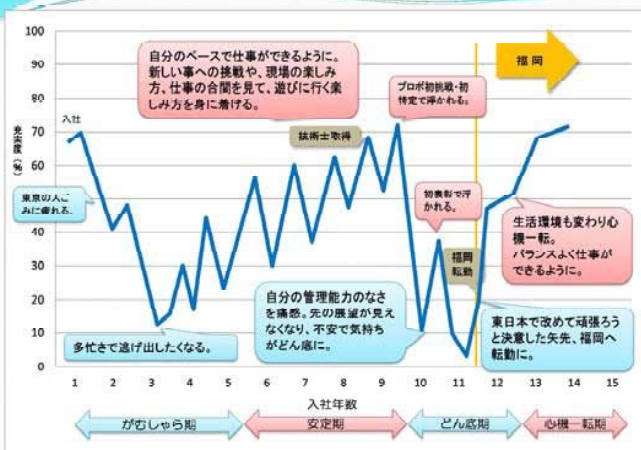
- ・若手の教育
- ・技術の継承

《コミュニケーション》

- ・社内外での交流
- ・上司・部下の意思疎通(相互の歩み寄り)

ご参加いただきました皆様ありがとうございました。皆様からの貴重な意見を今後の活動に役立てます！また第3回も企画しますので、是非ご参加ください♪

■わたしのライフグラフ



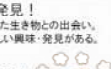
■現場の大変さも知る

- 安全管理・工程管理！
現場には危険がつきもの。事前に現場でどう動くか考え、危険予測や準備をしっかりする。
- 現場対応！
不審者扱いされないよう、愛想良く対応。
- トイレ！
現場周辺のトイレは事前にチェック(コンビニ、公園、現場事務所等)。
適度な水分補給(がら飲みしない)。
- 日焼け！
数々の失敗の末、しみが...。春先の現場は要注意。



■現場で楽しさを知る

- 色々な場所に行ける！
一般の人が入れないところも行ける。数層さながら遠なき道を行く。
- 新たな興味・発見！
今まで興味なかった生き物との出会い。個々を知ることで新しい興味・発見がある。
- 現場ついでに楽しみを見つけよう！
温泉(現場近くの温泉は事前にチェック！)
お酒・美味しい食べ物・スイーツ、観光(土日と絡めて観光。)



◆「第2回 官民の女性技術者による意見交換会」に参加しました！

H30.12.26(水) 九州地方整備局主催の「官民の女性技術者による意見交換会」に参加しました！

今回のテーマは「建設女子が世代ごとに考えるライフロードマップ」。20代、30代、40代、世代ごとのグループにわかれ、自分のライフチャートを作成し、これまでに落ち込んだきっかけや、元気になったきっかけ等についてグループワークしました。その後、グループ毎に発表を行い、投票総数によって、上位のチームには九地整さまより“表彰”をいただき、今回も盛り上がりました♪

同世代でも落ち込む理由や喜び・理想は様々でしたが、世代ごとに理想や希望に傾向が見えました。そして世代を通して共通したことは「仕事へのやりがい」と「穏やかな生活」が大切に思っている事、しかしそのためには「時間がない(時間の確保が難しい)」という課題があがりました。各人の振り返りにもなり、また、先輩方の意見が参考になり、とても有意義な時間となりました。

「仕事も大事、
家庭やプライベートも大事」



女性が働きやすい環境は、男性にとっても働きやすい環境であるはず、業界全体が働きやすくなるように、今後も参加していきたいです。

◆「JOB CAFE」へ参加♪

JOB CAFEとは？ ケンコンを知りたい学生のための1日限りのカフェ

H30.11.17(土) JCCA九州支部 若手技術者委員会・夢アイデア部会主催の「JOB CAFE」に参加してきました。

以前ツナグルドボクと交流した時のように、建設コンサルタントってどんなところ？どんな仕事？休みはとれるの？

給料高いの？などなど、これから就職活動を始める学生さんの疑問にお答えしました！

みなさんが働きやすく明るい業界を目指し、女性技術者委員会でする事をもっともっと頑張ります！



◆女性技術者委員会のHP出来ました

お待たせしました！

JCCA九州支部 女性技術者委員会のホームページを公開しました。

https://www.jcca.or.jp/kyokai/kyushu/female_engineer/index.html

今後、女性技術者へ様々な情報を発信するために、当ホームページとフェイスブックを活用して参ります。是非ご覧ください♪

◆「マイワーク♥マイライフ」も募集中

建コンで働く技術者の働き方や生活スタイルを、男女問わず紹介していきます！

投稿も募集していますので、お問合せは事務局まで。



←ここをクリック！

本誌は、(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部 総務・企画部会 女性技術者委員会が発行しています。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目13-9 (博多駅東113ビル8階)

TEL 092-434-4340 FAX 092-434-4342

Facebookページ：女性技術者委員会(建コン協九州支部) @kirapro.kyu

ホームページ：https://www.jcca.or.jp/kyokai/kyushu/female_engineer/index.html



Facebook QRコード

女性技術者アンケート結果概要

建設コンサルタンツ協会九州支部 女性技術者委員会

1.実施概要

- 女性技術者の現状・課題、WLBの取り組み状況等の把握を主な目的として、企業・個人を対象にアンケートを実施。

<企業アンケート> ……資料編①

- 実施期間：平成 29 年 5 月 22 日～平成 29 年 6 月 9 日
- 回収数：74 社（146 社を対象に実施・回収率 51%）

<個人アンケート> ……資料編②

- 実施期間：平成 29 年 11 月 1 日～平成 29 年 12 月 11 日
- 回収数：119 人（女性技術者を対象）

2.結果概要

①現状・問題点

- 役員・技術部門一般職のうち、女性は 1 割程度と少ない。
- 新卒採用は平成 26 年以降急増。入社 5 年後の離職者数は、新卒採用者の 5 割以上（女性のほうが離職率が高い）
- 女性技術者のうち、20 代は辞職・転職、就業継続不明の回答割合が高い。30 代以上は、同じ会社で働きたい人が 6 割以上を占める。
- 6 割が退職を考えたことがある。理由は「体力・精神的な負担」や「労働環境」、「WLB」が多い。
- 7 割が仕事継続への不安を感じており、年齢が高くなるにつれ割合が増加。理由は「体力・精神的な負担」が多い。
- 5 割以上が管理職を目指していない(30 代・40 代と 20 代での差があり)。理由は「WLB が困難」が多い。
- 8 割の企業が女性活躍の取り組みを実施。「残業の削減（働き方の見直し）」、「仕事と家庭を両立できる制度」、「母性保護に関する制度」が多い。
- WLB 推進部署の設置や管理職への WLB 研修を実施している企業は約 2～3 割と少ない。
- 新たな WLB の取り組みを、企業単独で実施することが困難な企業が多い。
- 女性技術者が働きやすい環境づくりのために官民での対応が必要なことは、「年度末の工期集中の分散」、「労働環境改善への取り組み」が多い。

②課題

- ⇒若手女性技術者の建コン離れ抑制
- ⇒女性技術者の「体力・精神的な負担」軽減、労働環境の改善
- ⇒WLB の更なる推進
- ⇒発注者との調整・協議による工期分散、労働環境改善の実現

③要望

- 今後整備・改善してほしい項目として、連続休暇、リフレッシュ休暇、短時間勤務、子供の看護休暇を希望する人が多い。
- 女性技術者が働きやすい環境づくりのために必要な取り組みは、出産育児などの「母性保護に関する制度の充実」が最も多く、「仕事と家事を両立できる制度」や「残業の削減」と続く。
⇒企業への各種制度の充実、残業削減、WLBの推進に関する協力依頼をお願いします。
- 建コン協会に期待することは、「男女が働きやすい環境づくりの周知、啓発」が最も多く、「WLBの推進」、「女性技術者の紹介、情報発信」と続く。
⇒働きやすい環境づくりの必要性周知、WLBの推進、女性技術者の情報発信について、ご協力をお願いします。
- 官民での対応が必要なことは、「年度末の工期集中の分散」、「労働環境改善への取り組み」
⇒発注者への工期分散、労働環境改善に関する協力依頼をお願いします。

以上

平成 29 年度 企業向けアンケート結果

建設コンサルタンツ協会九州支部 女性技術者委員会

1. 実施概要

- ・女性技術者の現状・課題等を把握するため、建コン九州支部 会員企業のWLBに関する取り組み内容の把握を主な目的として実施。

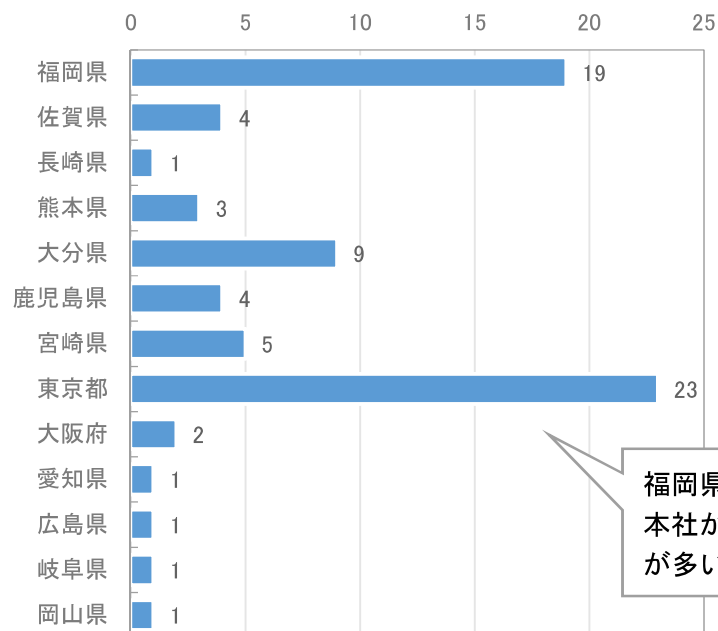
- 実施期間：平成 29 年 5 月 22 日～平成 29 年 6 月 9 日
- 回収数：74 社（146 社を対象に実施・回収率 51%）

2. アンケート結果

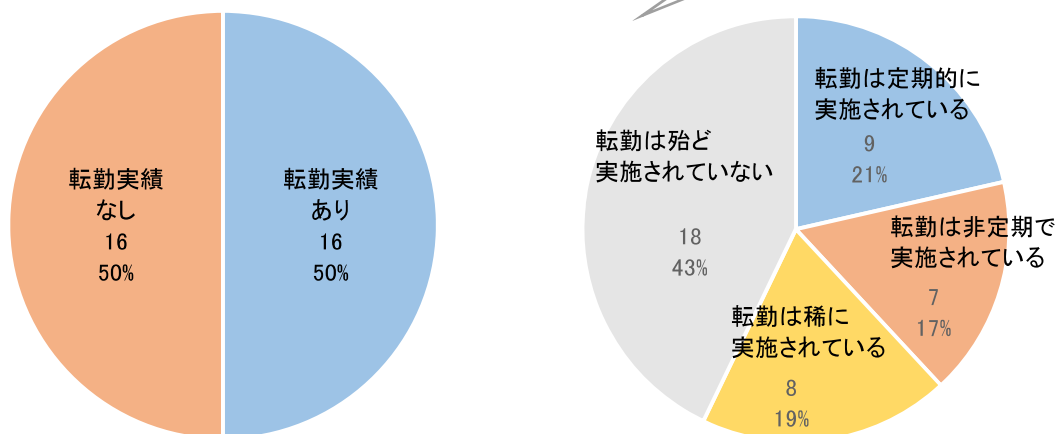
I 貴社について

Q1 企業名と本社所在地をご記入ください。【回答数：74】

都道府県	回答数
福岡県	19
佐賀県	4
長崎県	1
熊本県	3
大分県	9
鹿児島県	4
宮崎県	5
東京都	23
大阪府	2
愛知県	1
広島県	1
岐阜県	1
岡山県	1
合計	74



Q2 貴社の勤務地状況を教えてください。【回答数：74】



※Q3の修正前後で設問内容が変更（左図：修正後の回答、右図：修正前の回答）

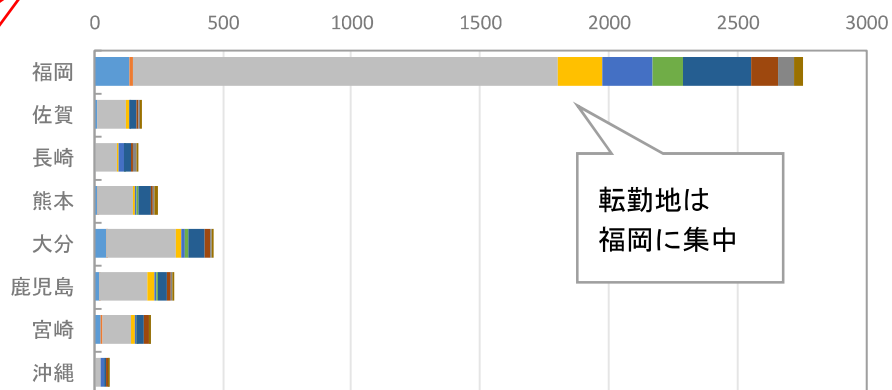
Q3 平成29年4月1日現在の貴社の九州内に勤務している従業員数をご記入ください。

技術部門・技術部門以外に所属する事務担当者はその部門に含めてください。

役員には、取締役・監査役・執行役員などを含めてください。

	役員		技術部門				技術部門以外				合計
			一般社員		契約社員		一般社員		契約社員		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
福岡県	139	12	1652	169	197	122	264	99	64	34	2,752
佐賀県	14	0	110	14	3	0	27	8	2	1	179
長崎県	3	0	89	6	17	1	28	11	8	4	167
熊本県	12	2	137	11	6	7	43	13	7	8	246
大分県	45	5	266	24	11	16	60	27	4	4	462
鹿児島県	19	2	187	24	12	7	34	14	3	5	307
宮崎県	24	6	116	11	6	2	31	15	3	3	217
沖縄県	0	0	24	0	14	0	11	2	3	4	58
合計	256	27	2581	259	266	155	498	189	94	63	4,388

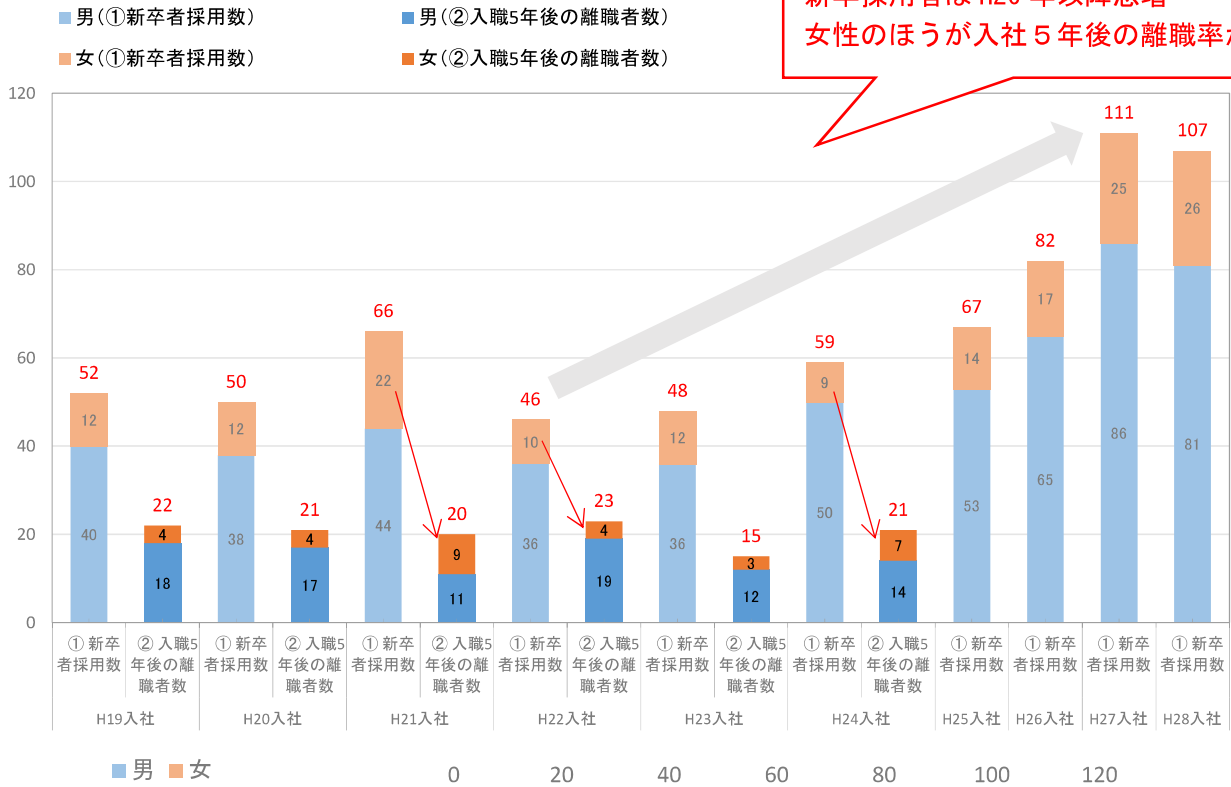
役員・技術部門
一般職の女性は
約1割



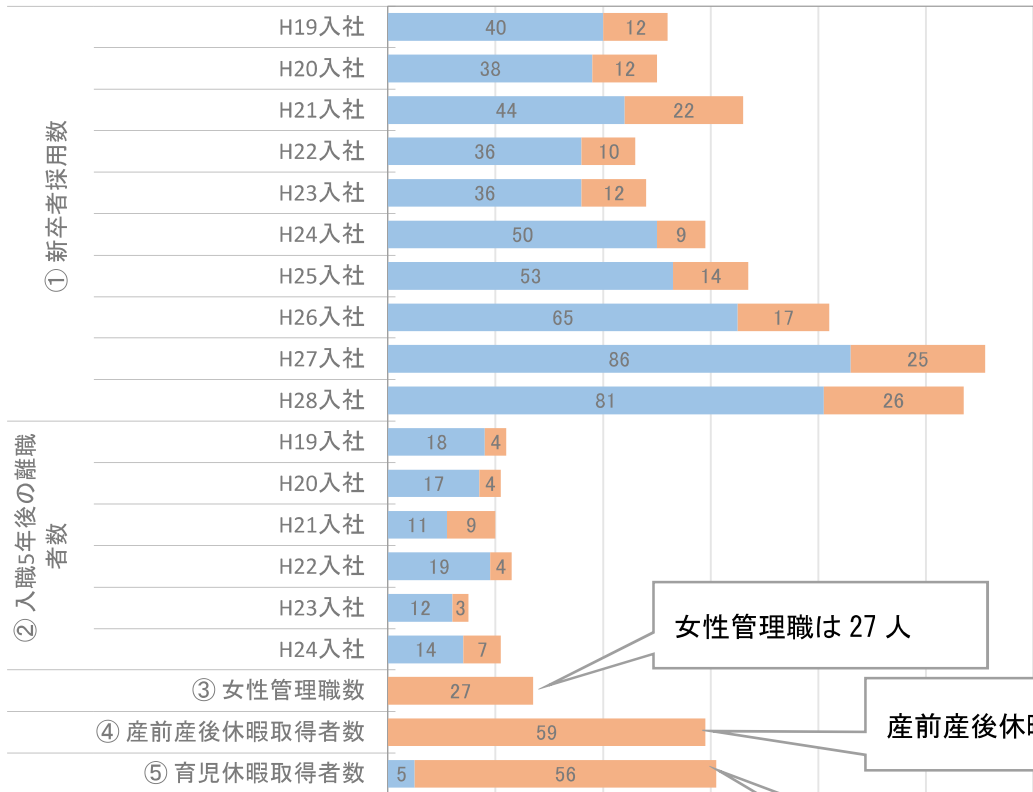
■ 役員(男) ■ 役員(女) ■ 技術・一般社員(男)
■ 技術・一般社員(女) ■ 技術・契約社員(男) ■ 技術・契約社員(女)
■ 技術以外・一般社員(男) ■ 技術以外・一般社員(女) ■ 技術以外・契約社員(男)
■ 技術以外・契約社員(女)

※1: 一般社員の従業員数は、期限を限定しない正規雇用者を対象とし、契約社員の従業員数は、「準社員」・「嘱託」・「非常勤」・「臨時社員」等を含む従業員を対象とします。

Q4 貴社の新卒者採用数、入社5年後の離職者数、女性管理職数、産後休暇・育児休暇取得者数を教えてください。



新卒採用者は H26 年以降急増
女性のほうが入社5年後の離職率が高い



女性管理職は 27 人

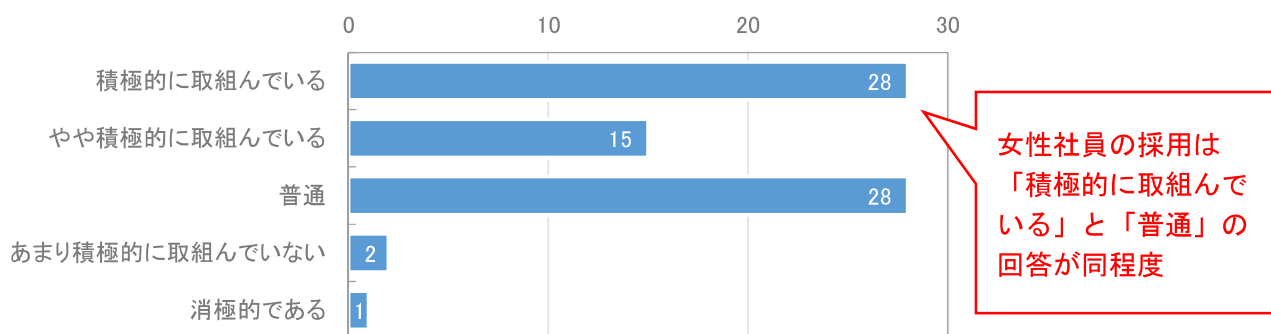
産前産後休暇取得者は 59 人

育児休暇取得者は
男性が 5 人、女性が 56 人

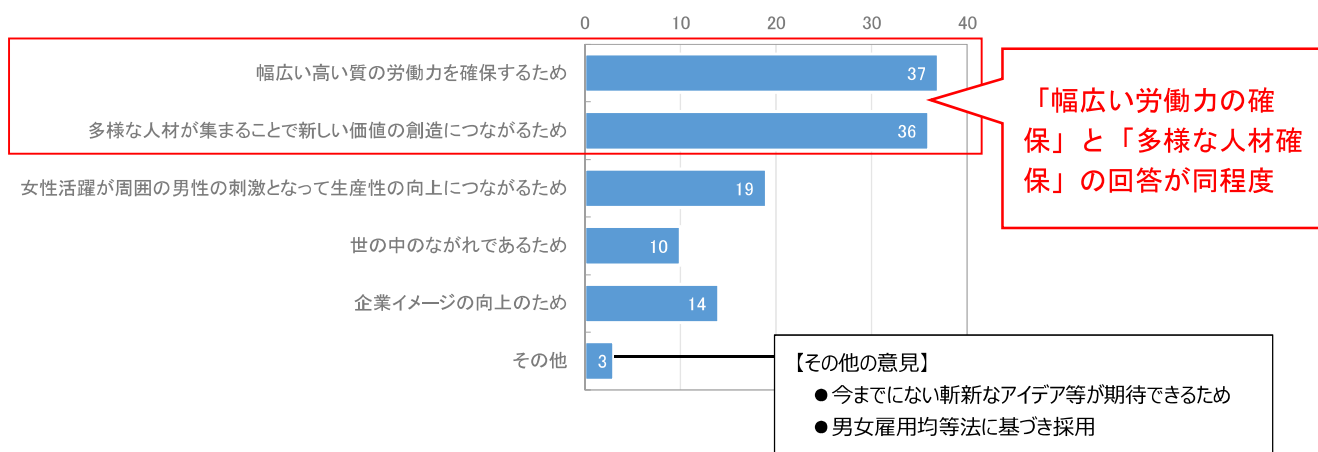
※1:九州内に勤務している従業員を対象とします。
 ※2:③は、平成 29 年 4 月 1 日現在の人数をご記入下さい。
 ※3:④と⑤は、過去 5 年(H24~H28)の人数をご記入下さい。

Ⅱ 企業から見た女性社員について

Q5-(1) 女性社員の採用に積極的に取り組んでいますか。【回答数：74】



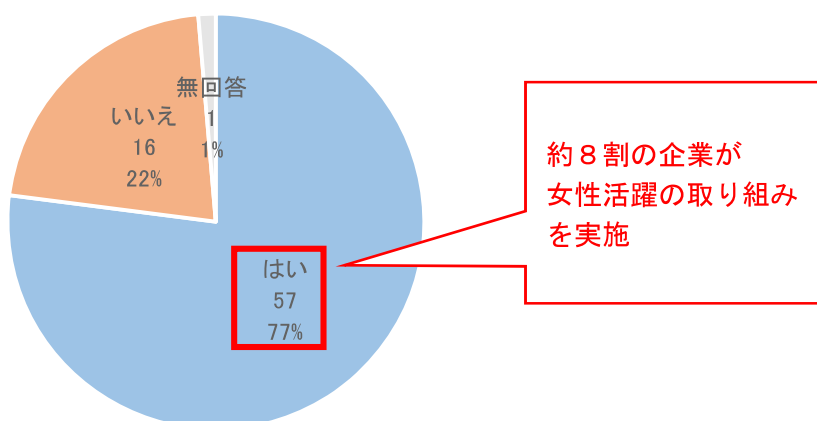
Q5-(2) Q5-(1)で「1: 積極的に取り組んでいる、2: やや積極的に取り組んでいる」と答えられた企業のみ、その理由について該当する項目があれば回答欄に記入し、ない場合は具体的に内容を下記にご記入ください(複数回答可)。



Q5-(3) Q5-(1)で「3: 普通、4: あまり積極的に取り組んでいない、5: 消極的である」と答えられた企業のみ、その理由をお答えください(自由記述)。

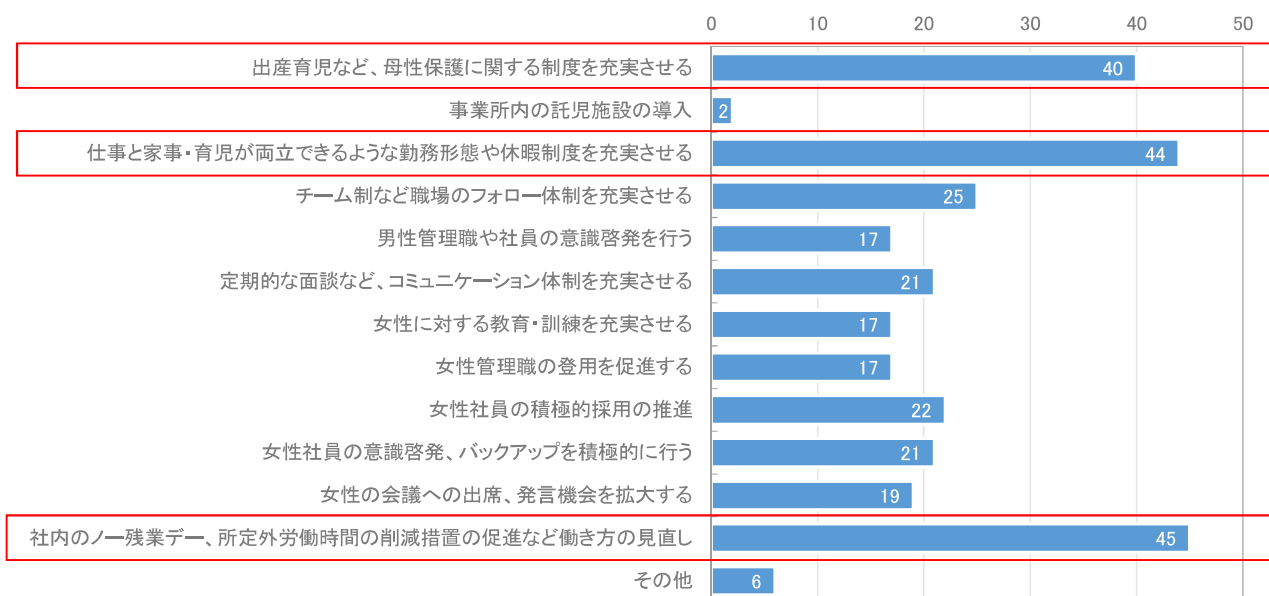
- 男女の区別がない [13]
- 女性の応募が少ない・ない [5]
- 女性社員が少ない・いない [4]
- 長期雇用を見込めない [2]
- 技術は現場が多いから [1]

Q6-(1) 女性の活躍について、企業としての取り組みを実施していますか。【回答数:73、無回答数:1】



Q6-(2) Q6-(1)で「1:はい」と答えられた企業のみ、該当する項目があれば回答欄に番号を記入し、ない場合は具体的に内容を下記にご記入ください(複数回答可)。

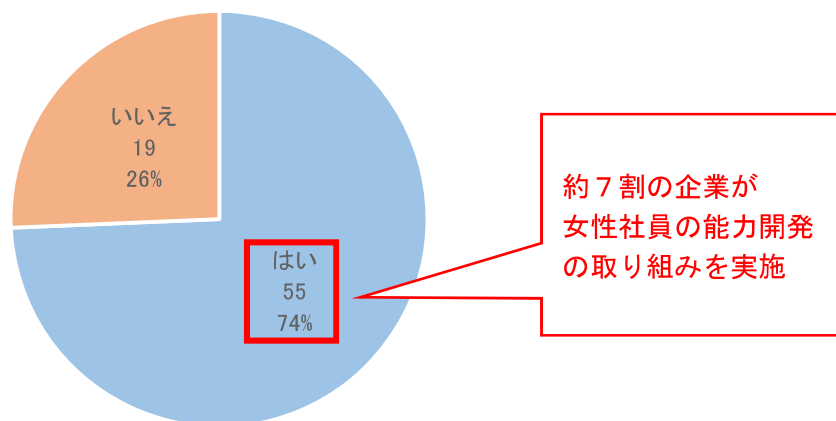
女性活躍の取り組みは、「残業の削減（働き方の見直し）」が最も多く、「仕事と家庭を両立できる制度」、「母性保護に関する制度の充実」と続く。



【その他の意見】

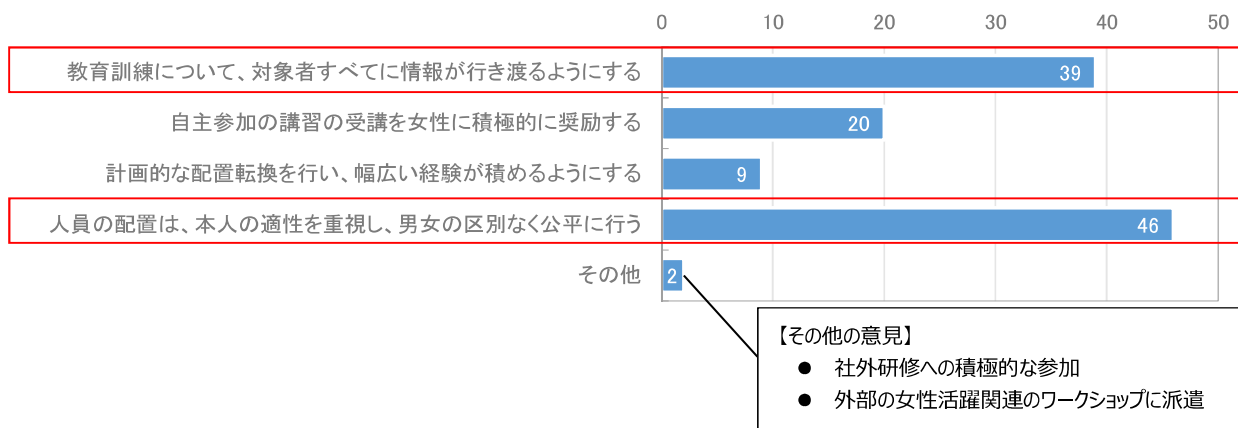
- 育児休業の取得率に数値目標を定め、かつ達成期限の目標を設定。九州支社内では職場環境整備のうえでソーシャルインクルージョンを意識した働き方改革を試行中
- 男女雇用機会均等法の遵守
- 託児施設については、現在、本社地区のみ
- 女性に優しい作業服の貸与
- 上司と女性社員参加の意見交換会、同業他社の先進的な取り組みを紹介する講演会の実施など

Q7-(1) 女性社員の能力開発について、企業としての取り組みを実施していますか。【回答数：74】



Q7-(2) Q7-(1)で「1: はい」と答えられた企業のみ、該当する項目があれば回答欄に番号を記入し、ない場合は具体的に内容を下記にご記入ください(複数回答可)。

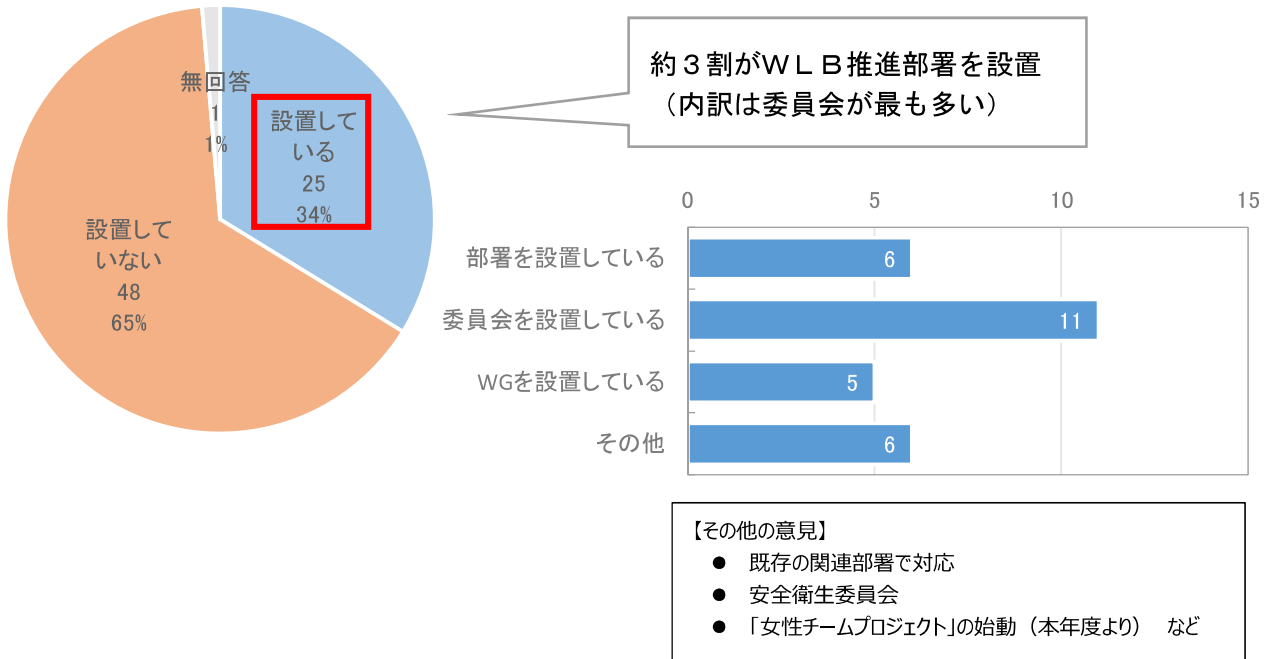
女性社員の能力開発の取り組みは、①人員配置を男女の区別なく実施、②対象者全員への教育訓練の情報伝達が多い。



Ⅲ ワーク・ライフ・バランスへの取り組みについて

Q8-(1) ワーク・ライフ・バランスを推進する部署、委員会、WG 等を設置していますか(複数回答可)。

【回答数:73、無回答数:1】

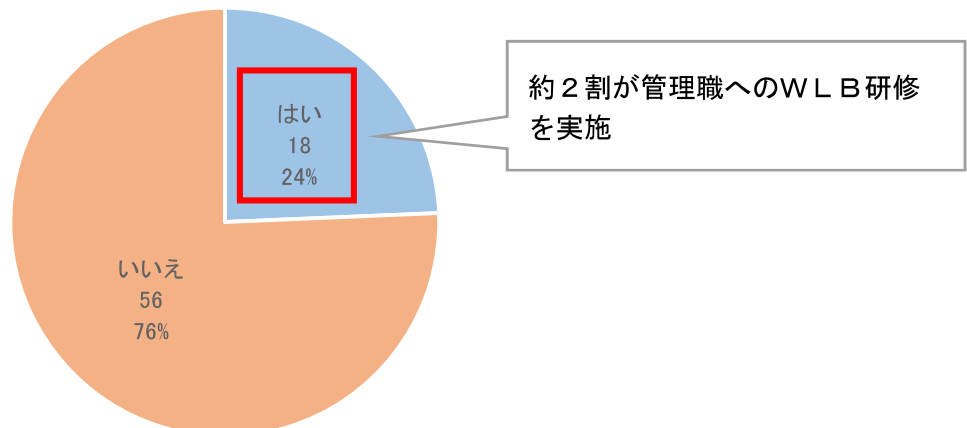


Q8-(2) Q8-(1)で「2~5」と答えた企業の方にお聞きます。設置している部署、委員会、WG 等の主な活動内容を教えてください。

- 働き方改革(長時間労働の改善、WLB 推進、残業モニタリング等)
- 特別休暇、育児介護関連の制度改善
- 安全衛生委員会の活動
- 女性のみで構成されたWG・委員会を設置し、仕事と家庭・育児の両立や、今後の活躍や施策について議論 など

Q9 貴社では、管理職に対し、ワーク・ライフ・バランスに関する研修を実施していますか。

【回答数:74】



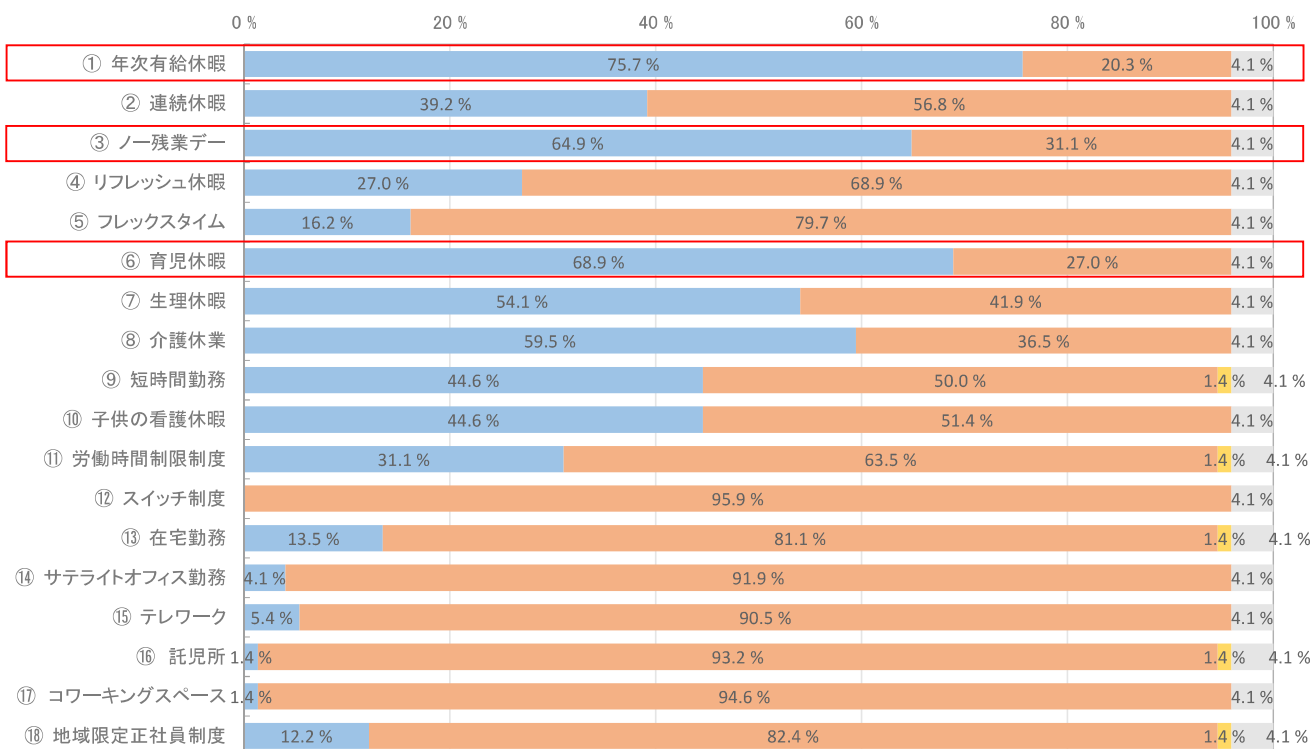
Q10 社内の労働環境を向上させていく上で、建設コンサルタント業界では客先の理解が必要であるといえると考えます。環境改善のための取り組みを客先に理解してもらうため、会社で実施していることを教えてください。

(例：ノー残業デーの徹底のために、メールの署名にノー残業デーの情報を記載しているなど)

- ノー残業デーの徹底のために、メールの署名にノー残業デーの情報を記載している [18]
- ノー残業デーの情報発信（ホームページやメール、電話の音声案内等） [8]
- 客先へ前もって伝えている [2]
- 工程会議の実施 [1]
- 社内アナウンス [3]
- 残業管理・休日出勤削減など [2]
- 実施できていない・特にしていない [15]
- その他 [1]

Q11 貴社のワーク・ライフ・バランスに関連する社内制度について、「労働基準法適用以上の実施項目」があれば教えてください。【回答数：71、無回答：3】

WLBの社内制度は、①年次有給休暇、②育児休暇、③ノー残業デーの実施と続く。



■ 設置:有 ■ 設置:無 ■ 規定の見直し・改定中 ■ 無回答 (n=74)

「労働基準法適用以上の実施項目」があれば教えてください。【回答数：71、無回答：3】

	設置有り	設置無し	規定の見直し ・改定中	無回答	合計
① 年次有給休暇	56	15	0	3	74
② 連続休暇	29	42	0	3	74
③ ノー残業デー	48	23	0	3	74
④ リフレッシュ休暇	20	51	0	3	74
⑤ フレックスタイム	12	59	0	3	74
⑥ 育児休暇	51	20	0	3	74
⑦ 生理休暇	40	31	0	3	74
⑧ 介護休業	44	27	0	3	74
⑨ 短時間勤務	33	37	1	3	74
⑩ 子供の看護休暇	33	38	0	3	74
⑪ 労働時間制限制度	23	47	1	3	74
⑫ スイッチ制度	0	71	0	3	74
⑬ 在宅勤務	10	60	1	3	74
⑭ サテライトオフィス勤務	3	68	0	3	74
⑮ テレワーク	4	67	0	3	74
⑯ 託児所	1	69	1	3	74
⑰ コワーキングスペース	1	70	0	3	74
⑱ 地域限定正社員制度	9	61	1	3	74

	活用有り	活用無し	活用率 (%)
① 年次有給休暇	52	4	92.9
② 連続休暇	28	1	96.6
③ ノー残業デー	44	4	91.7
④ リフレッシュ休暇	19	1	95.0
⑤ フレックスタイム	9	3	75.0
⑥ 育児休暇	34	17	66.7
⑦ 生理休暇	23	17	57.5
⑧ 介護休業	18	26	40.9
⑨ 短時間勤務	27	6	81.8
⑩ 子供の看護休暇	20	13	60.6
⑪ 労働時間制限制度	15	8	65.2
⑫ スイッチ制度	-	-	-
⑬ 在宅勤務	9	1	90.0
⑭ サテライトオフィス勤務	2	1	66.7
⑮ テレワーク	4	0	100.0
⑯ 託児所	1	0	100.0
⑰ コワーキングスペース	1	0	100.0
⑱ 地域限定正社員制度	8	1	88.9

※設置有りと回答した企業に対する活用の有無の確認

Q12 Q11 で取り上げた項目以外で、貴社で実施されている社内制度があれば教えてください。

- メンタルヘルスサポート付グループ保険加入制度（会社契約）
- 慰休取得促進日の設定
- 夏季休暇
- 代休
- 休日の連続出勤禁止
- 年次有給休暇の計画付与制度
- 育児休業中の給与増額補償
- 半日休暇を実施（学校等の用事等で活用）
- 記念日休暇（アニバーサリー休暇）
- 子の看護休暇（小学6年生まで、一人につき5日間まで）
- 職務変更制度（時間・地域・職務を限定できる制度）

IV 新たな取り組みについて

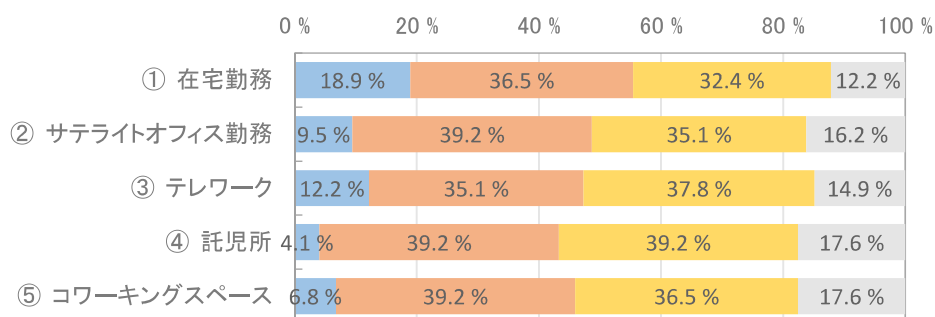
Q13 貴社で今後整備予定のワーク・ライフ・バランスに関する社内制度があれば教えてください。

- 今のところ予定無し、検討中
- 休暇制度の検討（フレックスタイムや時間有休など）
- 早朝勤務の本格運用のための試行
- テレワーク、在宅勤務
- ノー残業デーの実施
- 地域限定正社員制度
- 制度ではないが、残業が個人に偏らないように教育している。
- 人事評価制度の改定

Q14 建設コンサルタンツ協会として、新たな取り組み（在宅勤務、サテライトオフィス勤務、テレワーク、託児所、コワーキングスペース 等）を推進する場合は、ご参加いただけますか。参加いただけない場合は理由をご記入ください。

	自社単独で 参加する	建設 コンサル タツ協 会の活 動とし て参加 する	参加し ない	無回 答	合計
① 在宅勤務	14	27	24	9	74
② サテライトオフィス勤務	7	29	26	12	74
③ テレワーク	9	26	28	11	74
④ 託児所	3	29	29	13	74
⑤ コワーキングスペース	5	29	27	13	74

いずれの取り組みも「建コン協の活動として参加」が多い



- 自社単独で参加する
- 建設コンサルタンツ協会の活動として参加する
- 参加しない
- 無回答

(n=74)

※小数点以下第二位を四捨五入しており、必ずしも合計値が100になりません

V 自由意見

Q15 本アンケートや、ワーク・ライフ・バランスに関するご意見があればご記入ください。

女性活躍、WLB、新たな取組に対し、「自社で今後取り組みの検討」、「協会としての取り組みに期待」という前向きな意見がある一方、従来の業界の体質から「WLB や自社での取り組みの検討に対しては実現が困難」と言った意見も見られる。

また、業界の将来を懸念する声も挙げられている。

- 今後、女性技術者の採用状況や社内環境を勘案して考えていきたい。
- セミナーや勉強会等を通して、同業他社の取り組みについて学ぶ機会があるとうれしい。
- 定期的なアンケートで自社の取り組み状況について、ふりかえりが可能となりますので継続的にお願いしたい。
- 昔ながらの体質のまま現在に至っており、従業員の年齢層も上がり、若年層がいない状況の中、男女を問わず目の前の問題をこなしているところで、なかなか、ワーク・ライフ・バランス等の取組に参加するのは難しい。
- 業種柄、技術者が多く長時間労働となりがちであり、ワーク・ライフ・バランスの推進は困難な状況である。
- 業界全体で取り組み、流れを作ることができれば、一歩前進できるのではないかと考える。
- 高校、大学、ハローワークに募集はしているものの、まったく採用できないため、業務量は増えて残業も多くなりワーク・ライフ・バランスどころではない。
- このままでは、技術の継承はもとより建設コンサルタントの未来も危うくなる。協会としてもっとアピールする方策はないものか？
- 労働基準法に定められた事項については遵守するが、当該法律を超える措置を自社で行うことは難しい。

以上

平成 29 年度 個人向けアンケート結果

建設コンサルタンツ協会九州支部 女性技術者委員会

1. 実施概要

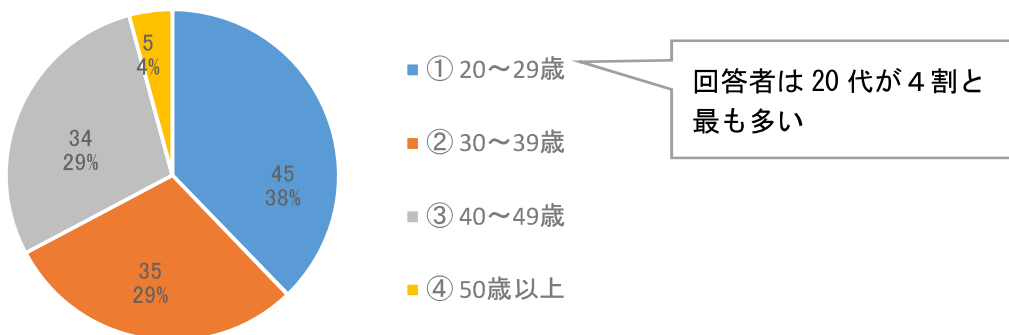
- ・ 建コン協九州支部の会員企業で働く、女性技術者の現状・課題、WLBの取り組み状況等の把握を主な目的として実施。

- 実施期間：平成 29 年 11 月 1 日～平成 29 年 12 月 11 日
- 対象：女性技術者
- 回収数：119 人

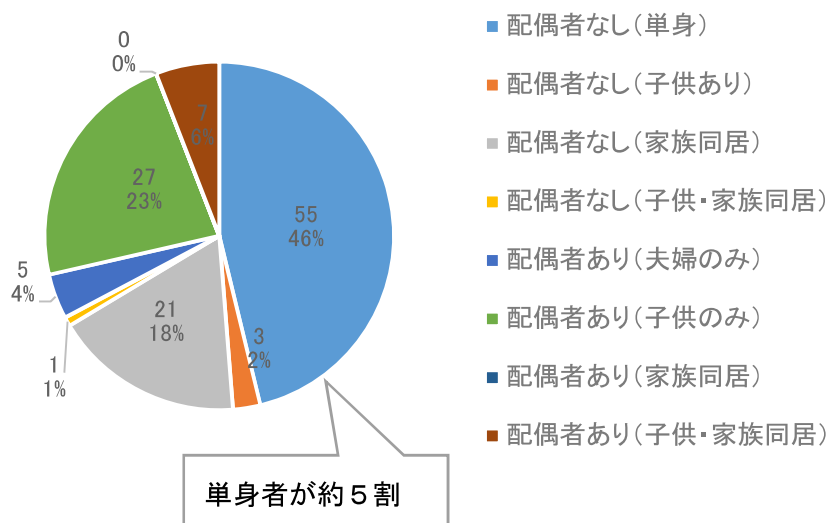
2. アンケート結果

I. 属性について

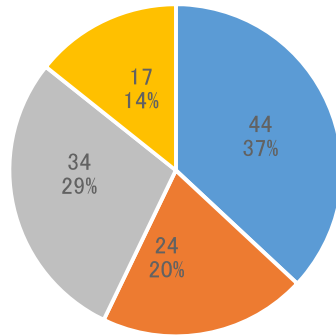
I-1. あなたの年齢を教えてください。



I-2. 家族について教えてください。

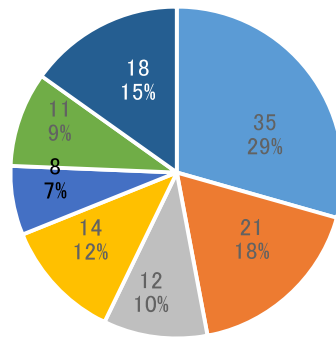


I-3. 建設コンサルタントとしてのキャリアは何年ですか？



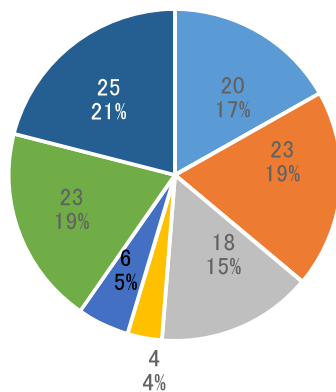
- ① 5年以下
 - ② 5～10年
 - ③ 10～20年
 - ④ 20年以上
- 5年以下のキャリアが4割

I-4. 専門分野を教えてください。



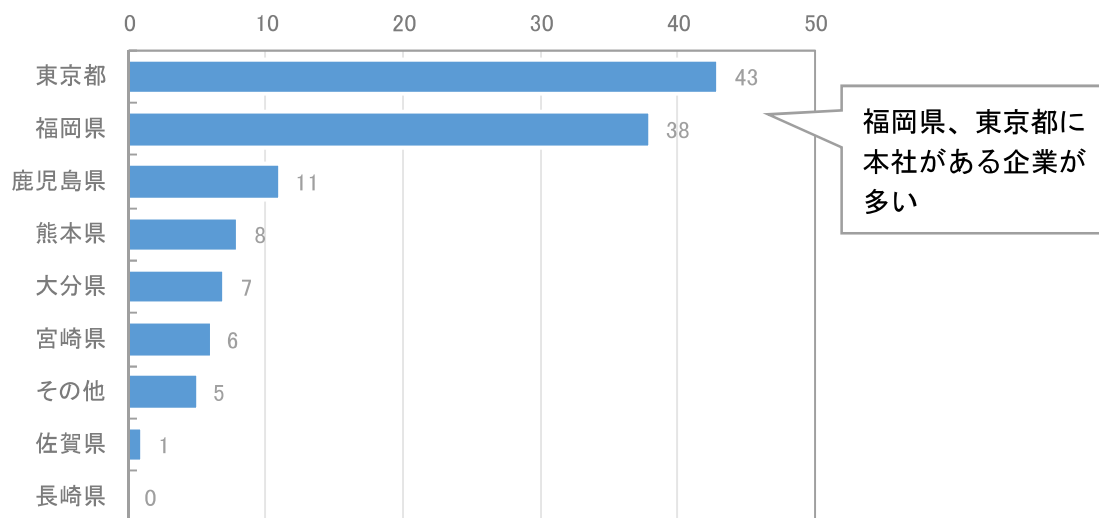
- ① 道路系
 - ② 河川系
 - ③ 都市系
 - ④ 環境系
 - ⑤ 測量系
 - ⑥ 地質系
 - ⑦ その他
- 道路系が3割、河川系が2割

I-5. あなたの会社全体（本社、全支社・支店等含む）の従業員数を教えてください。

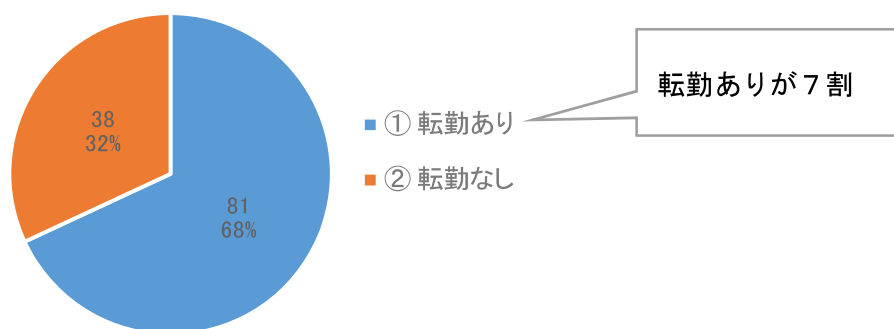


- ① 50名未満
- ② 50名以上100名未満
- ③ 100名以上200名未満
- ④ 200名以上300名未満
- ⑤ 300名以上500名未満
- ⑥ 500名以上1000名未満
- ⑦ 1000名以上

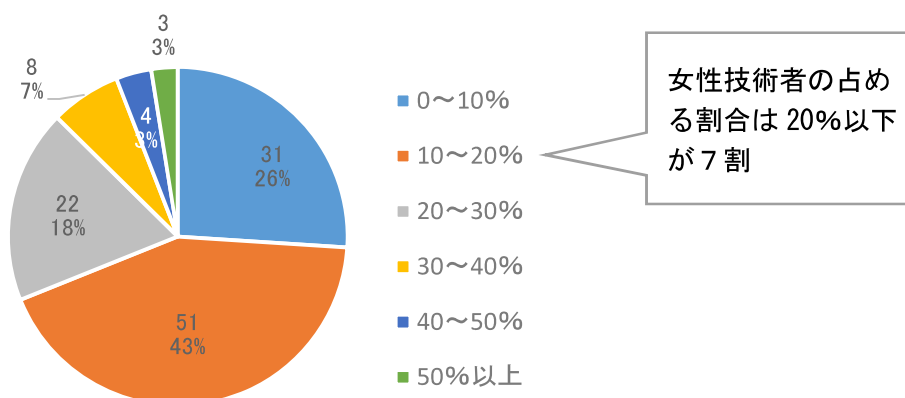
I-6. あなたの会社の本社の所在地（都道府県）を教えてください。



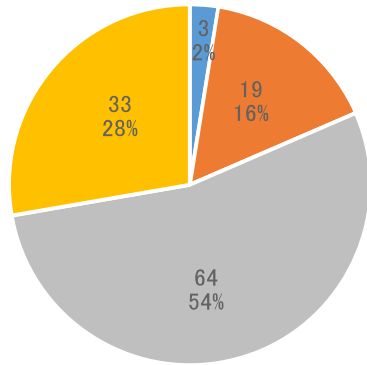
I-7. あなたの会社では転勤はありますか？



I-8. 所属部署の女性技術者の割合



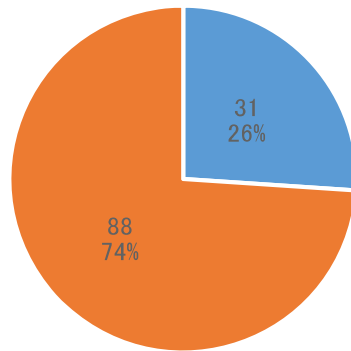
I-9. あなたの職場でのポジションは何ですか？



担当者・新人が8割以上
管理職は約2割

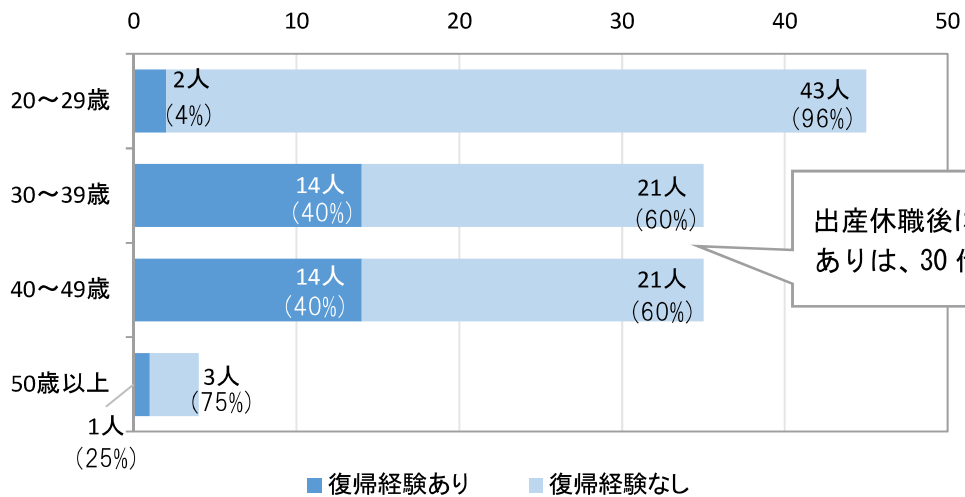
- ① 部署のマネジメント
- ② 課長、班長、プロジェクトマネージャー等
- ③ 担当者級
- ④ 新人

I-10. 出産等による休職後に、職場復帰をした経験はありますか？



約3割が出産休職後に復帰
した経験あり

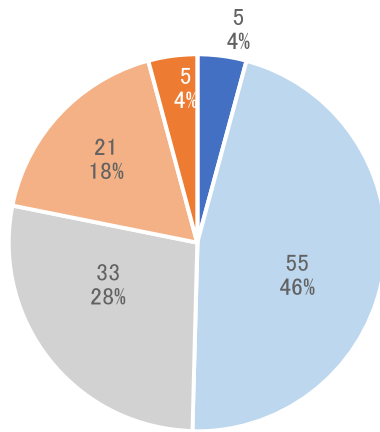
- ① はい
- ② いいえ



出産休職後に復帰した経験
ありは、30代~40代が多い

Ⅱ. 現在の仕事へ満足度、継続への意欲について

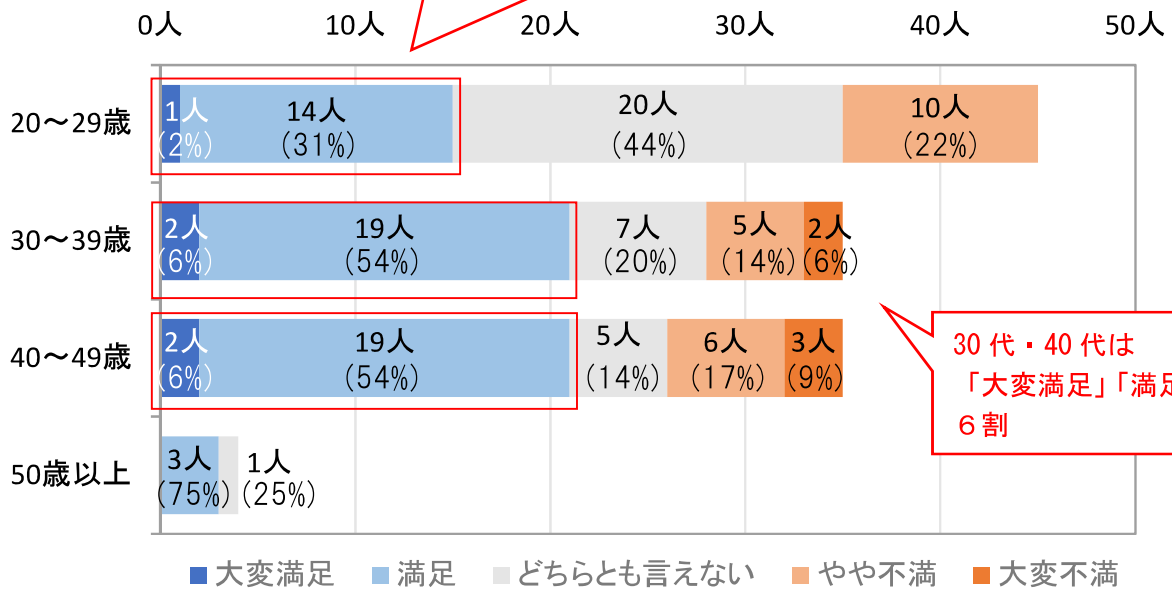
Ⅱ-1. 現在の仕事に満足していますか？



「大変満足」「満足」が5割
「やや不満」「大変不満」が2割

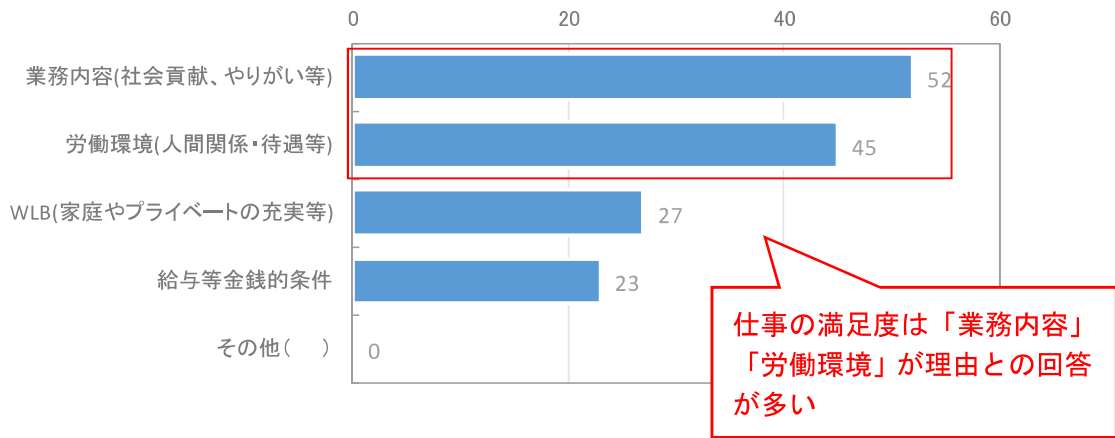
- ① 大変満足
- ② 満足
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不満
- ⑤ 大変不満

20代は「大変満足」「満足」が3割、
「やや不満」が2割

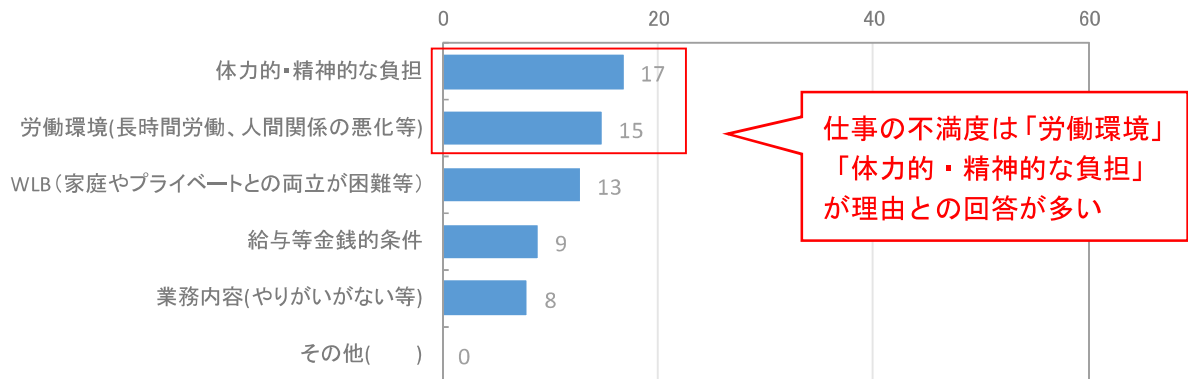


30代・40代は
「大変満足」「満足」が
6割

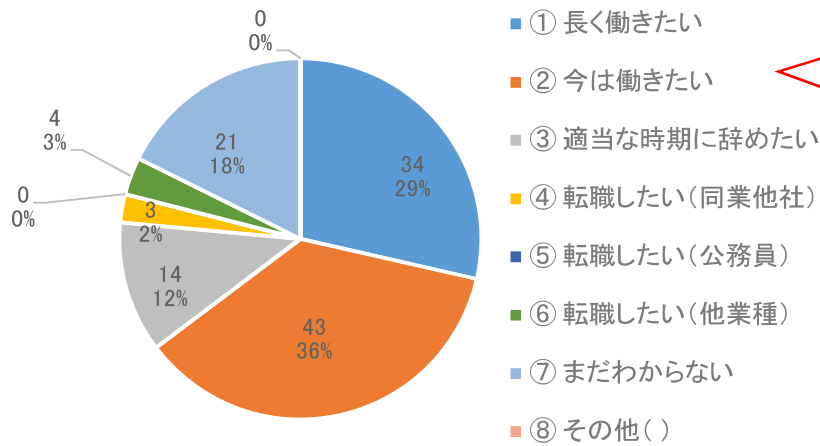
Ⅱ-2-1. 【Ⅱ-1で①大変満足、②満足を選んだ方】Ⅱ-1の選択について、その理由を教えてください。(複数回答可)



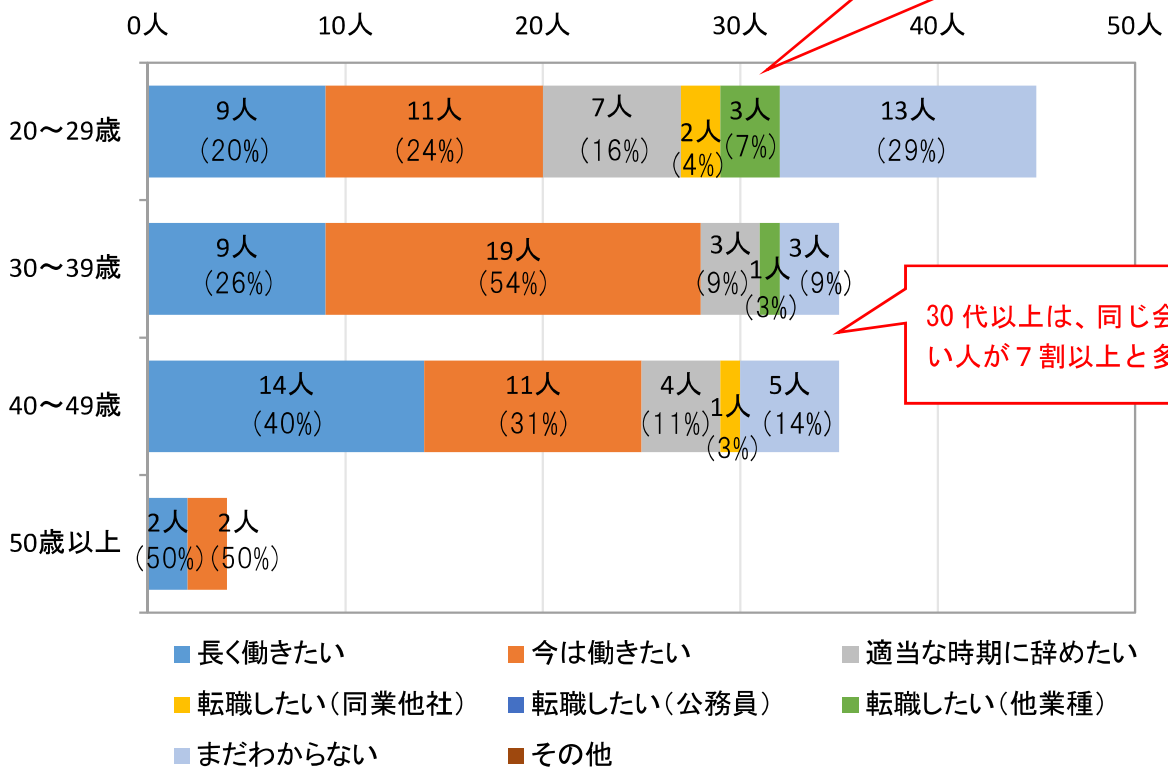
Ⅱ-2-2. 【Ⅱ-1で④やや不満、⑤大変不満を選んだ方】Ⅱ-1の選択について、その理由を教えてください。(複数回答可)



Ⅱ-3. 同じ会社で長く働きたいと考えていますか？



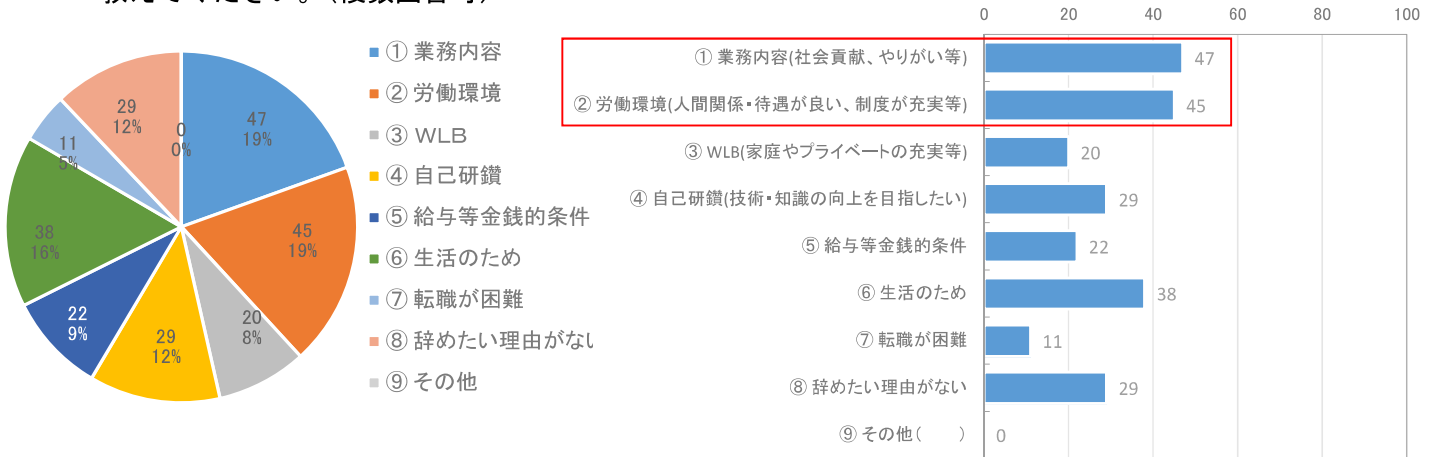
同じ会社で長く働きたい人が6割以上
辞めたい人が1割、
まだ分からない人が2割



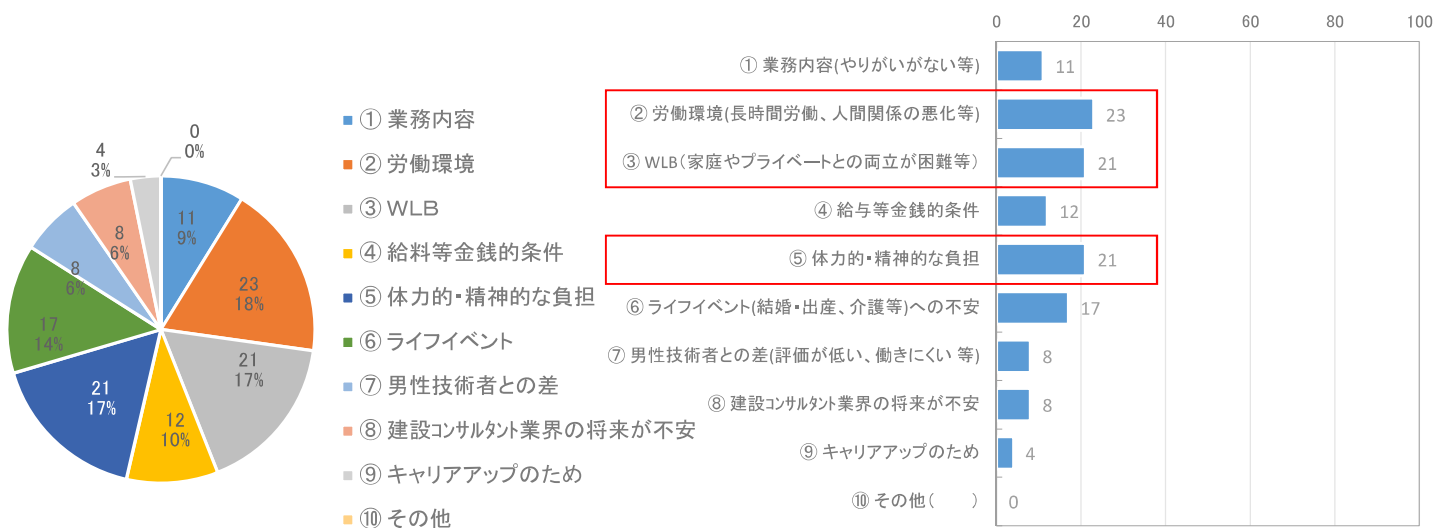
20代は他世代と比べて、辞職・転職、就業継続不明の回答割合が高い

30代以上は、同じ会社で働きたい人が7割以上と多い

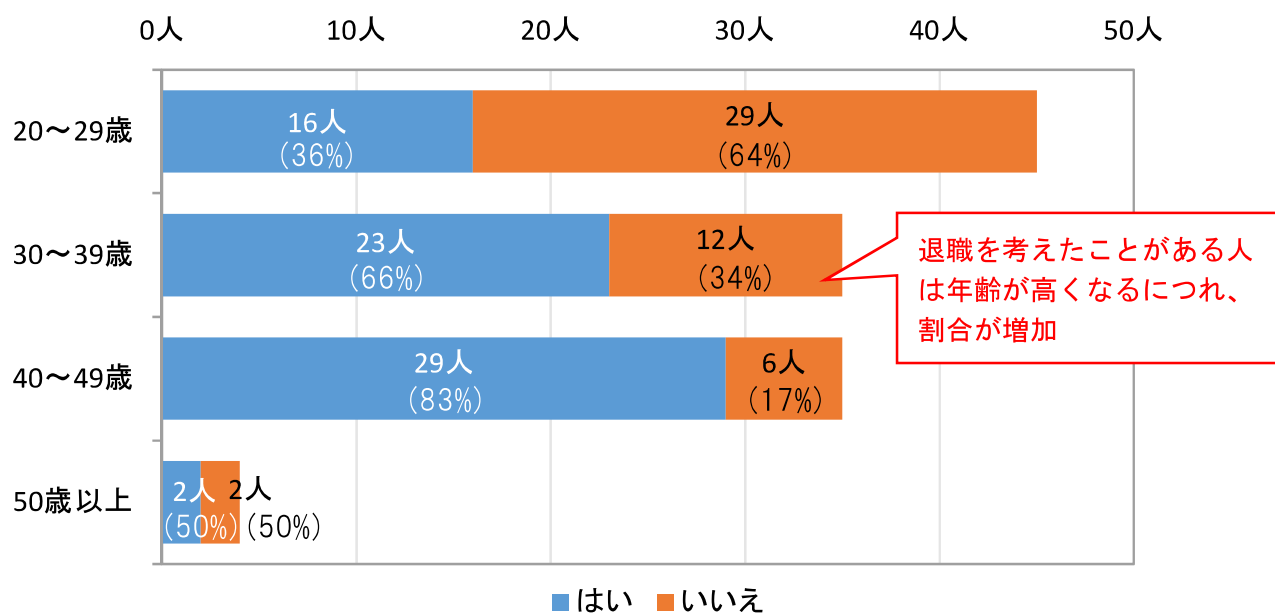
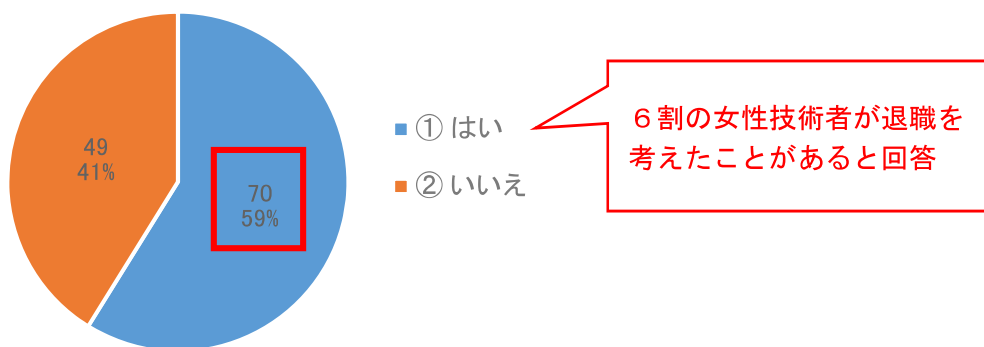
Ⅱ-4-1. 【Ⅱ-3で①、②（長く働きたい）を選んだ方】Ⅱ-3の選択について、その理由を教えてください。（複数回答可）



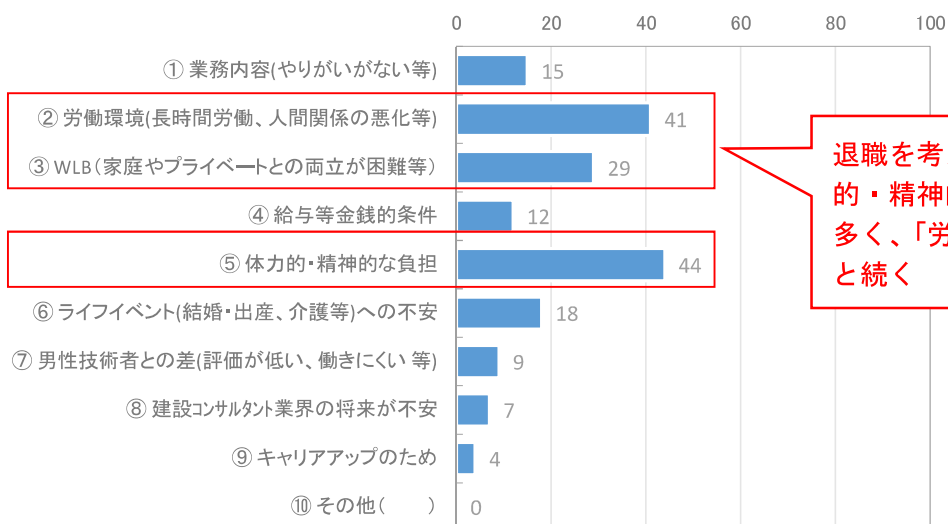
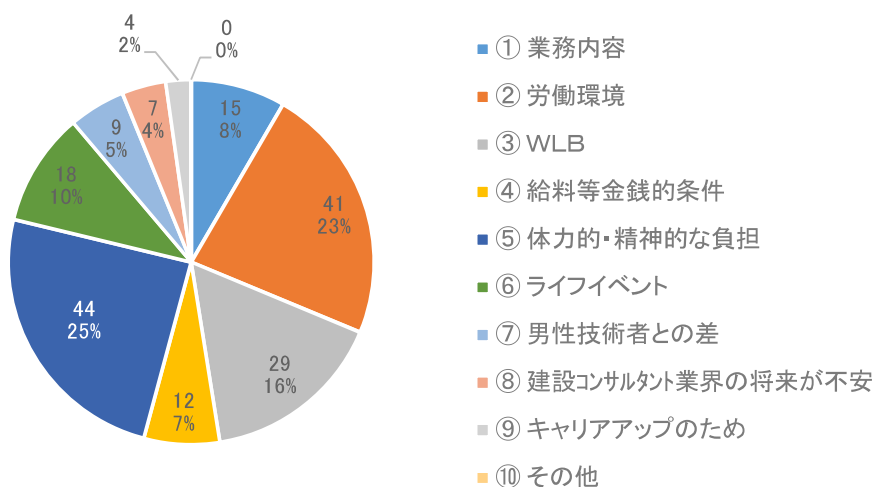
Ⅱ-4-2. 【Ⅱ-3で③～⑦（辞めたい・転職したい・わからない）を選んだ方】Ⅱ-3の選択について、その理由を教えてください。（複数回答可）



Ⅱ-5. 退職を考えたことがありますか？

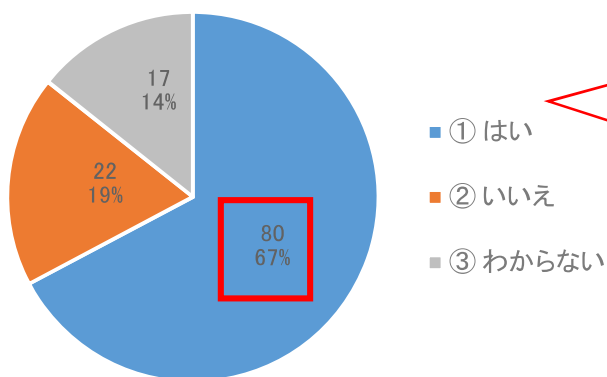


Ⅱ-6. 【Ⅱ-5で①（退職を考えたことがある）を選んだ方】Ⅱ-5の選択について、その理由を教えてください。（複数回答可）

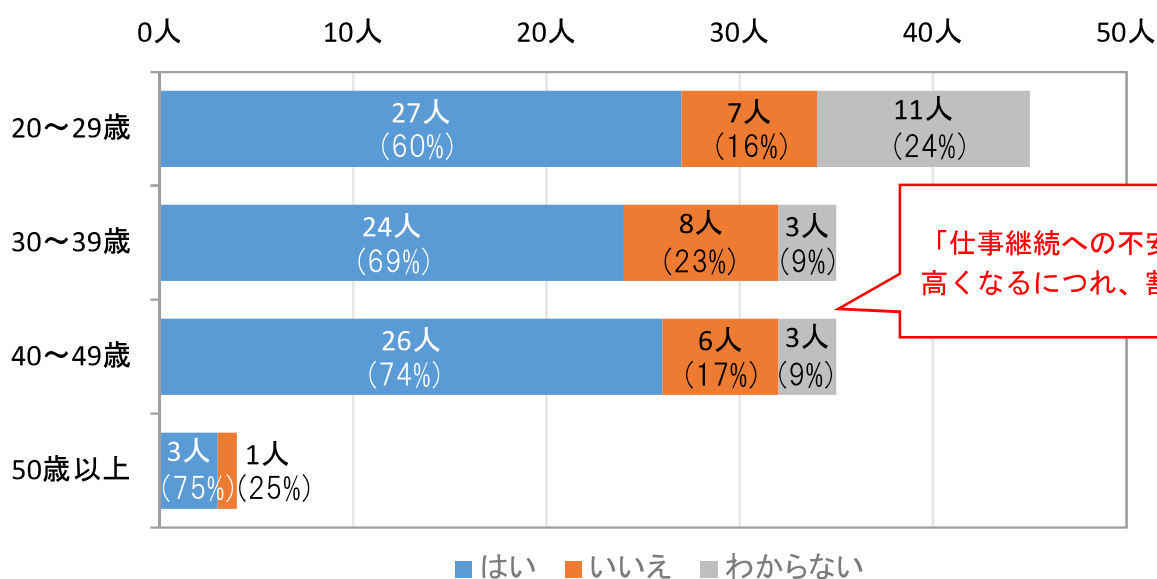


退職を考えた理由は「体力的・精神的な負担」が最も多く、「労働環境」「WLB」と続く

Ⅱ-7. 仕事継続への不安を感じますか？

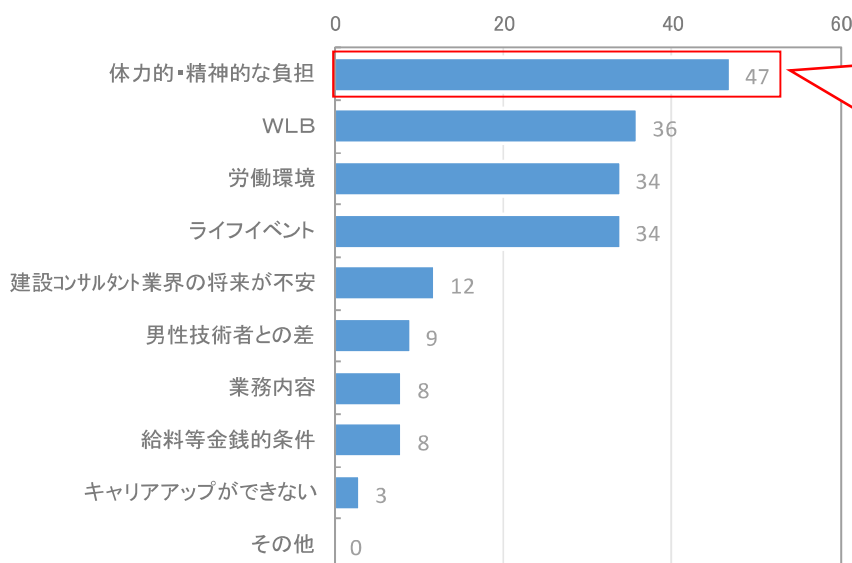


7割が「仕事継続への不安」を感じている



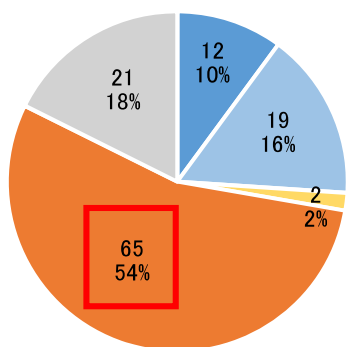
「仕事継続への不安」は年齢が高くなるにつれ、割合が増加

Ⅱ-8. 【Ⅱ-7で①（仕事継続への不安を感じる）を選んだ方】Ⅱ-7の選択について、その理由を教えてください。（複数回答可）



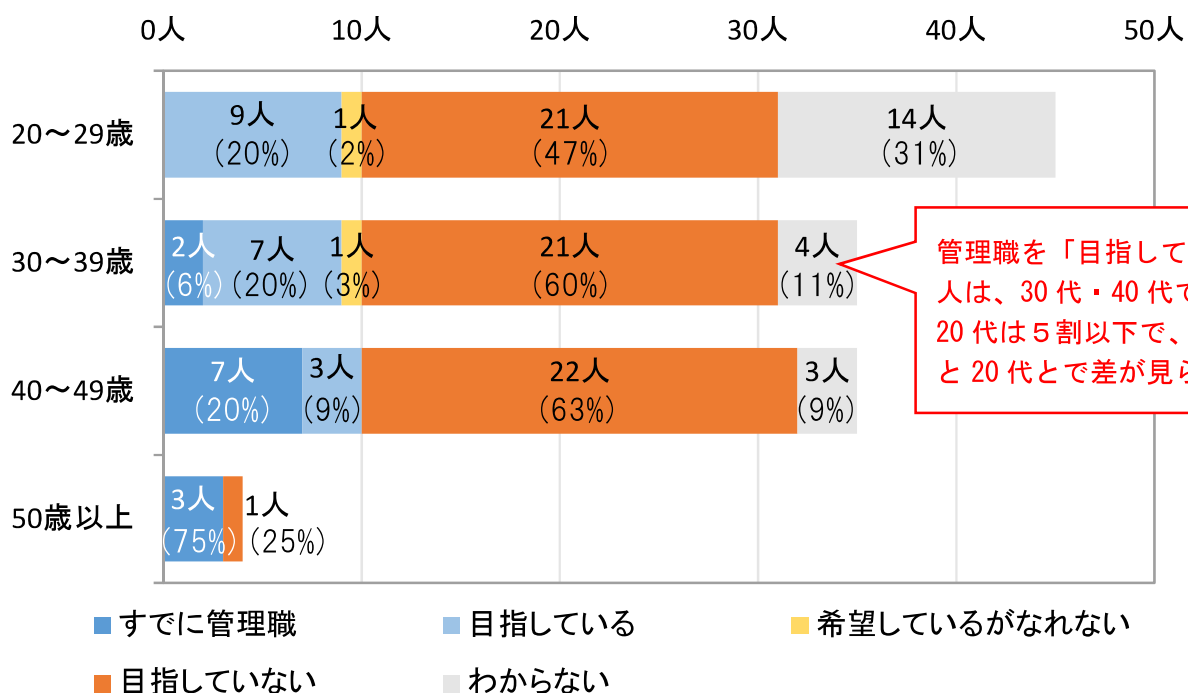
「仕事継続への不安」を感じる理由は「体力的・精神的な負担」が最も多い

Ⅱ-9. 管理職を目指していますか？



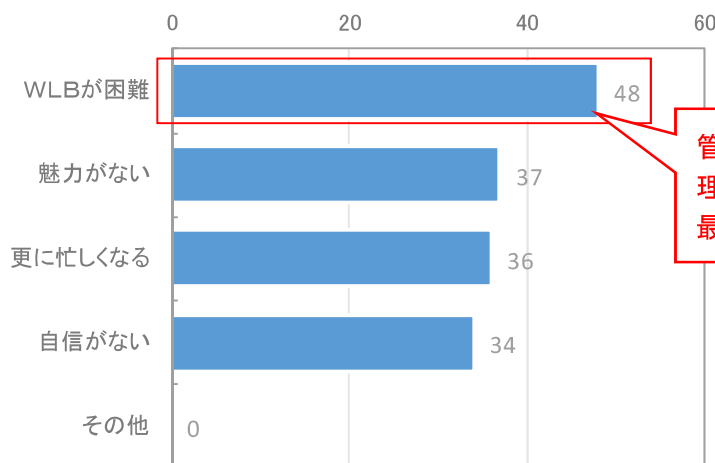
- ① すでに管理職
- ② 目指している
- ③ 希望しているがなれない
- ④ 目指していない
- ⑤ わからない

管理職を「目指していない」女性技術者が5割以上



管理職を「目指していない」人は、30代・40代では6割、20代は5割以下で、30・40代と20代とで差が見られる

Ⅱ-10. 【Ⅱ-9で③～⑤（管理職を目指していない・わからない）を選んだ方】Ⅱ-9の選択について、その理由を教えてください。（複数回答可）

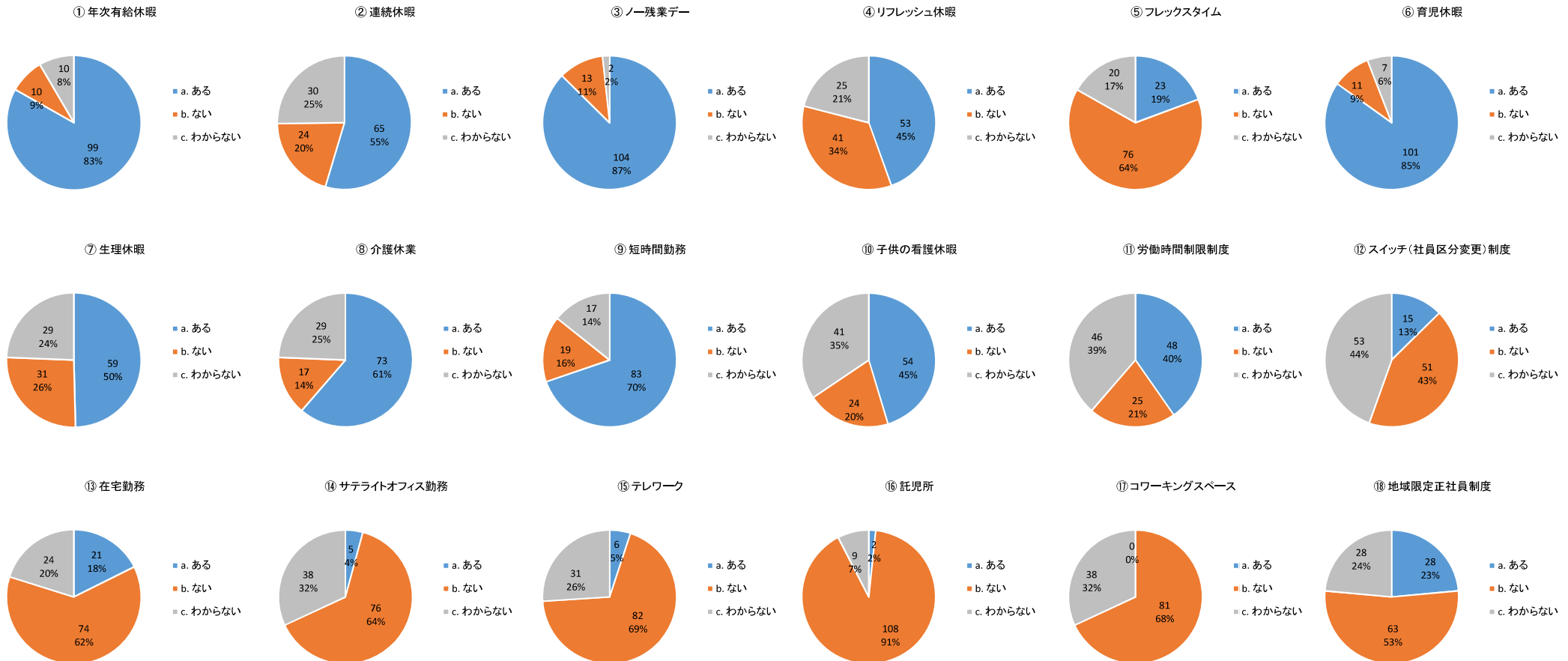


管理職を目指していない理由は「WLBが困難」が最も多い

Ⅲ. ワークライフバランス（WLB）の取組みについて

Ⅲ-1-1. あなたの会社でのWLBに関連する社内制度について、「労働基準法適用以上の実施項目」があれば分かる範囲で教えてください。

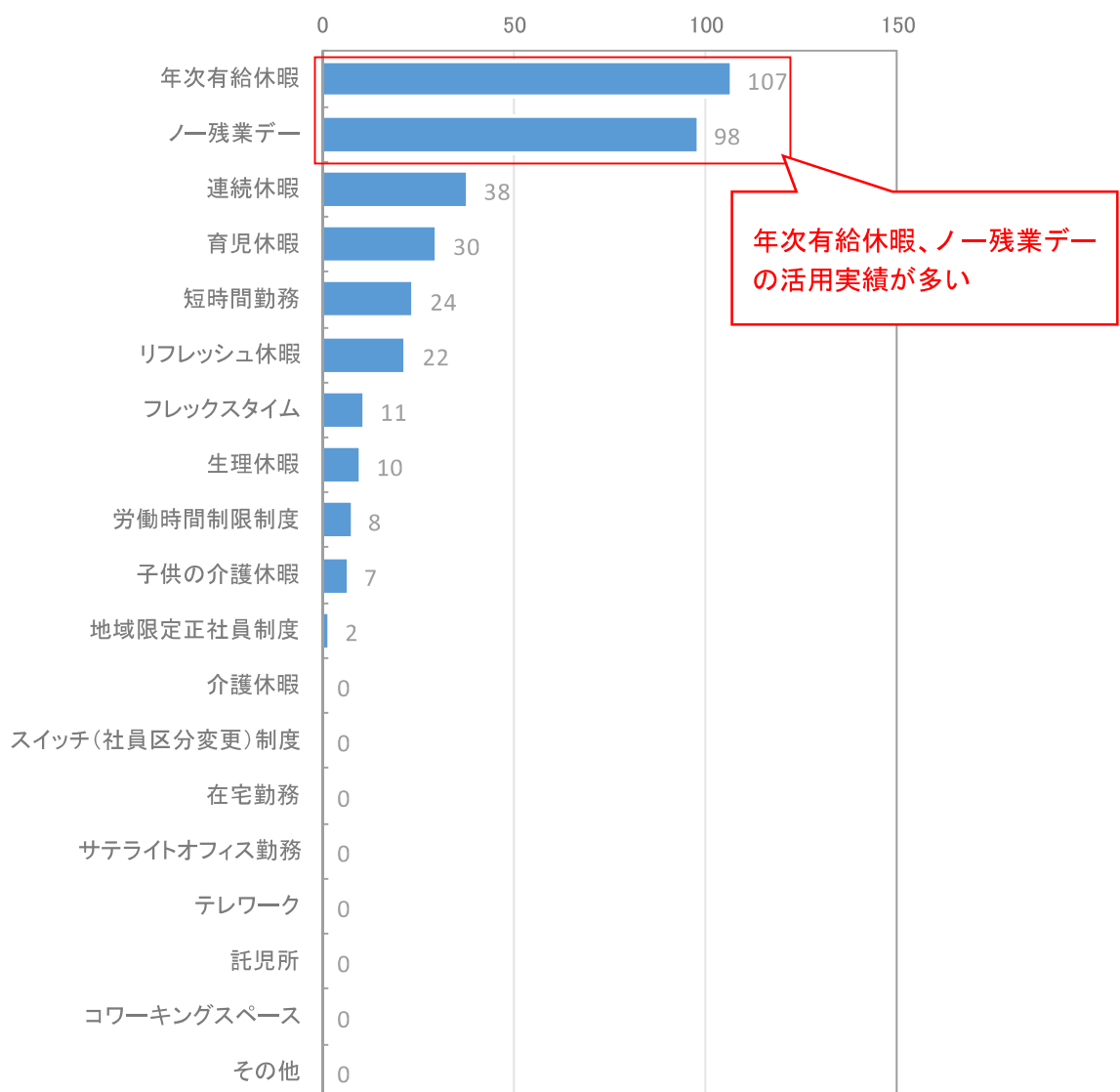
なお、年次有給休暇、育児休暇等、労働基準法に定められている項目については、法律適用以上の日数が付与されている場合に「a. ある」を選択してください



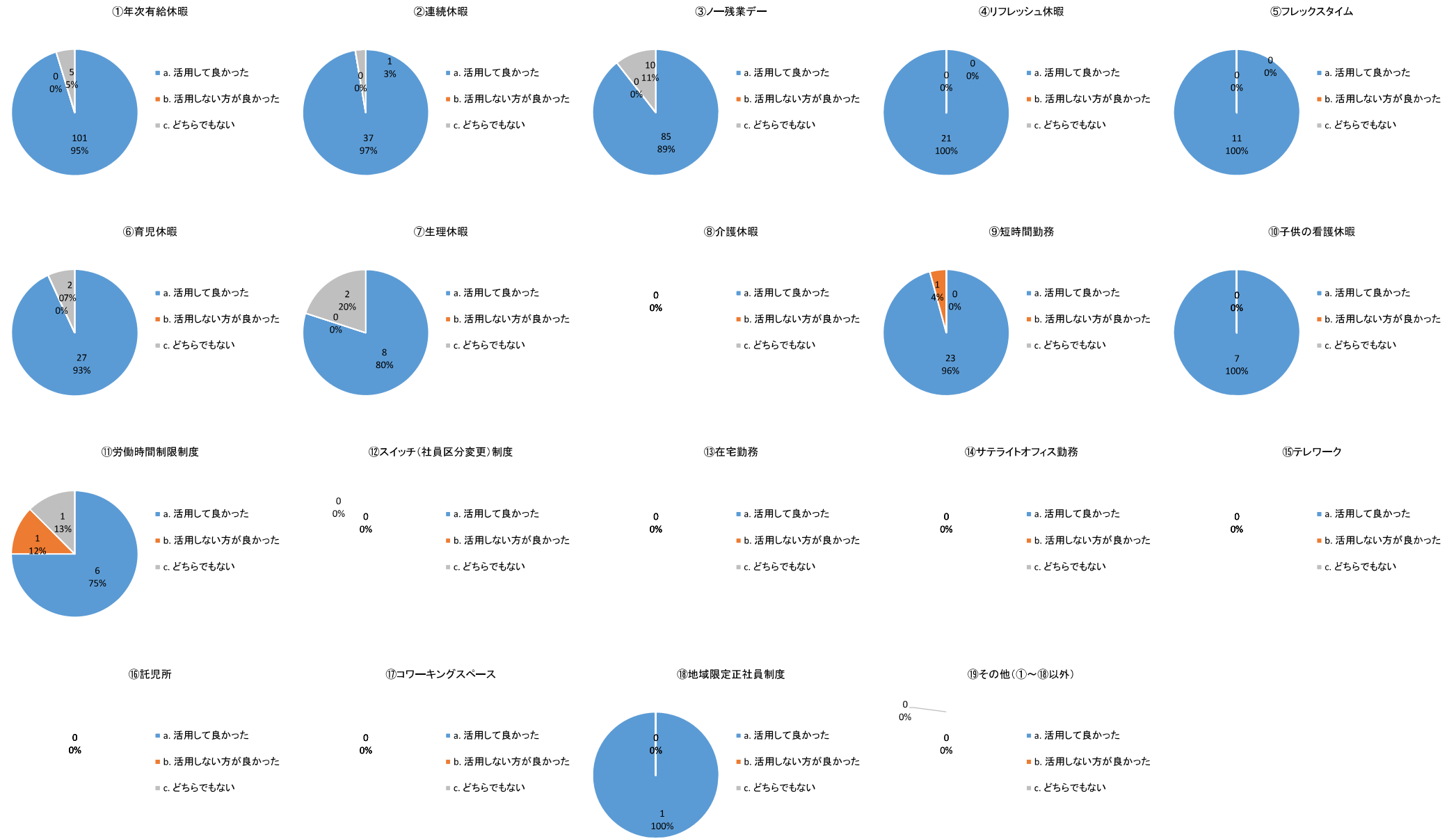
Ⅲ-1-2. Ⅲ-1-1の①～⑱以外のWLBに関する社内制度があれば教えてください。

- ・ライフサポートフレックス（1日の就業時間ではなく月単位で定時を満たせばよい）
- ・PC自動シャットダウンシステム
- ・忌引きによる特別休暇
- ・各部署で課題を見つけて取組み、毎年全社で成果を発表する
- ・時差出勤制度
- ・委員会の設立
- ・1時間単位の有給、結婚休暇（連続5日）、忌引休暇

Ⅲ-2. あなたが活用したことのある取組みがあれば教えてください。（複数回答可）

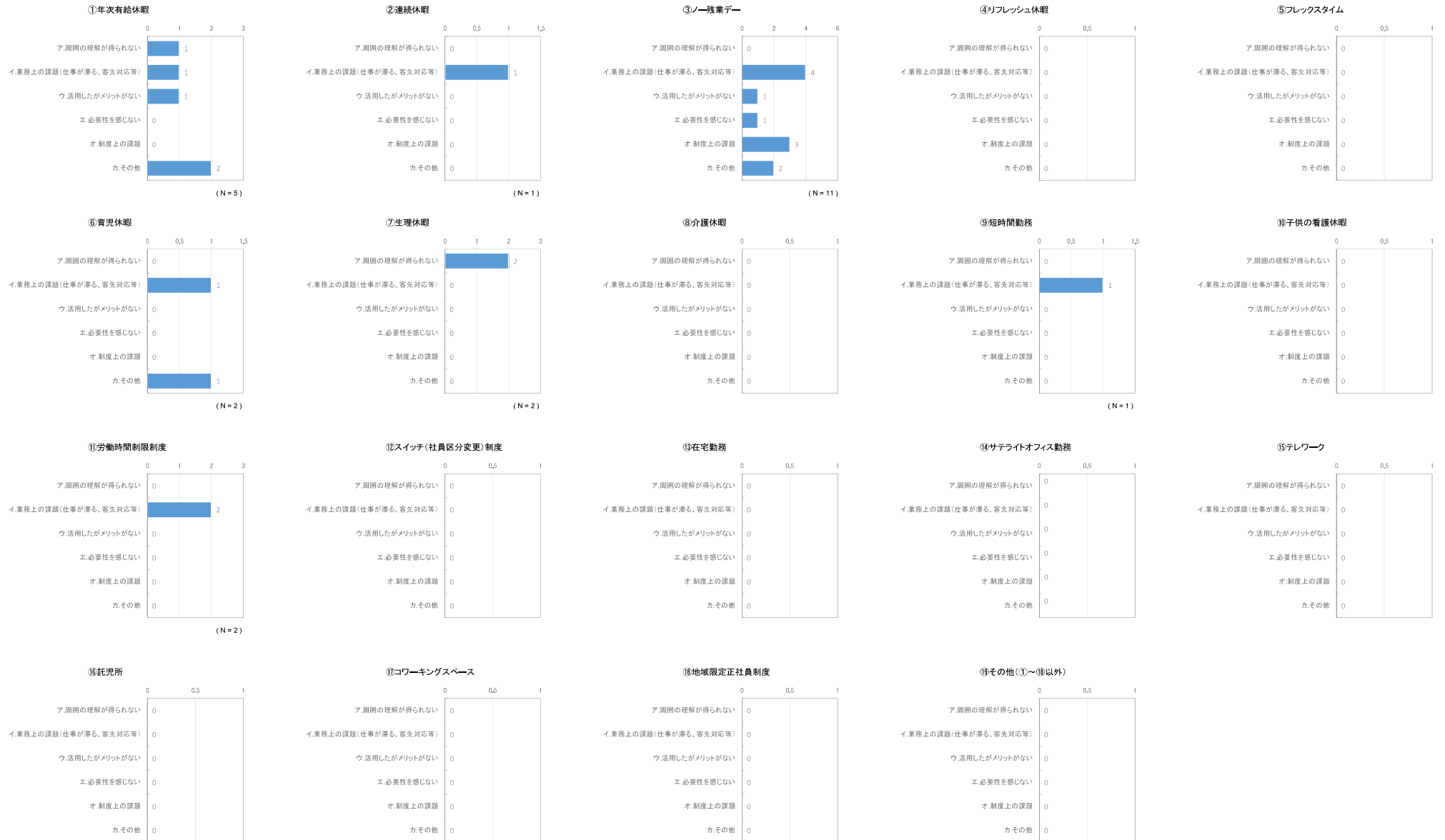


Ⅲ-3-1. 【WLBの取組みを活用したことがある方】Ⅲ-2で選択した取組みについて、活用した感想を教えてください。ただし、活用したことのない項目については、選択肢を選ぶ必要はありません。



Ⅲ-3-2. 【Ⅱ-3-1でb(活用しない方がよかった)、c(どちらでもない)を選んだ方】Ⅱ-3-1の選択について、その理由を教えてください。(複数回答可)

ただし、「a.活用して良かった」を選択した項目及び活用したことのない項目については、選択肢を選ぶ必要はありません。



Ⅲ-4. 【Ⅲ-3-2で才（制度上の課題）、カ（その他）を選んだ方】

WLBの取組みの中で、制度上の課題やその他ご意見について教えてください。どの項目（Ⅲ-3-2の①～⑱）に対するご意見かも併せてお願いします。

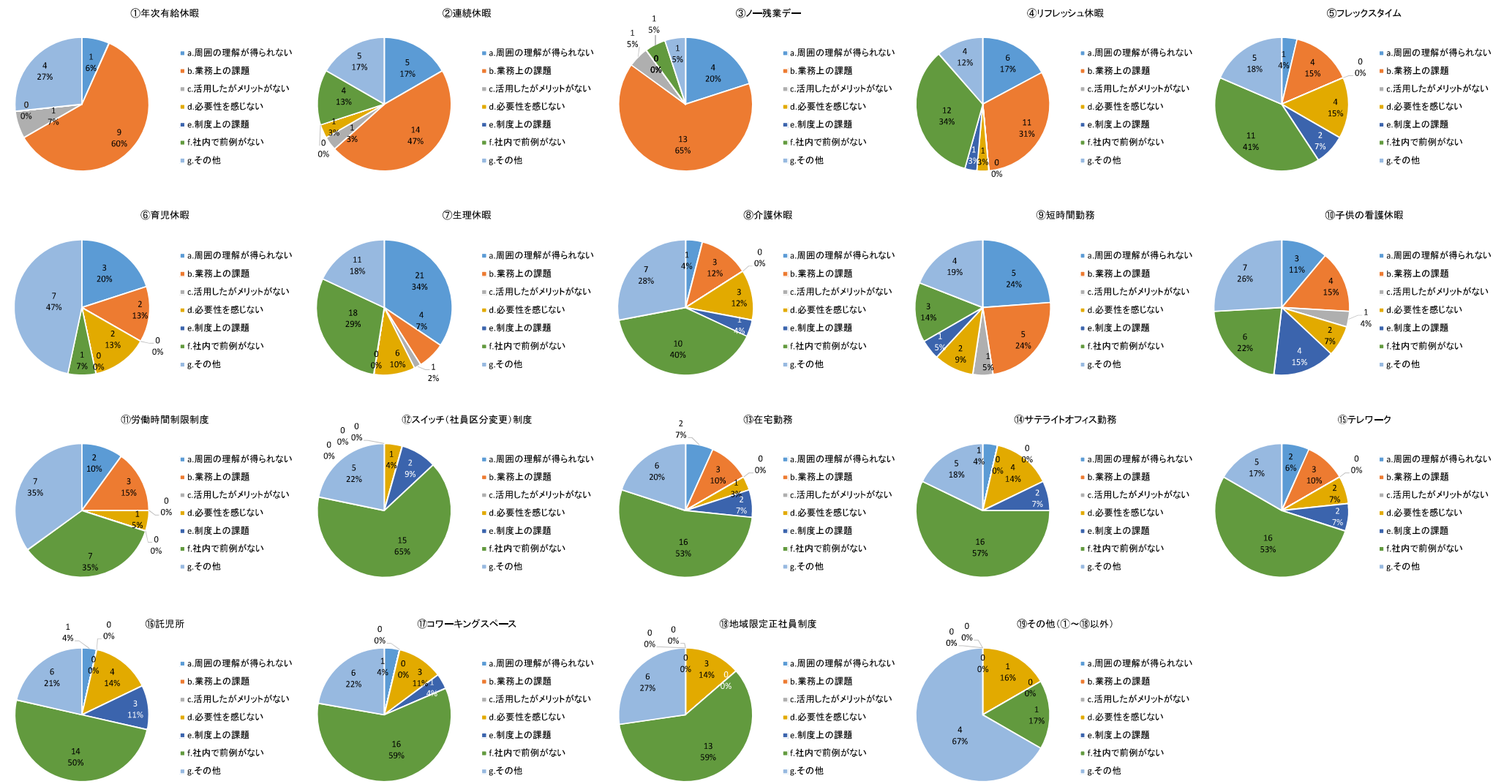
- ・ Ⅲ-3-2③ノー残業デー 残業ありきのコンサル業界がおかしい
- ・ ③ノー残業デーは、発注者の理解が得られにくい

- ・ 水曜に限定して定時退社を実施する必要性がわからない。また管理（事務職）の人事目標として、水曜の定時退社率を数値として設定しそれを達成するために、退社していないのに事務処理上退社したことにさせられる、良くわからない状況になる。現場としては、どうしても水曜日に帰れないこともあると思うし、それがたまたま続くことも考えられるため、水曜日に限定されると技術も、管理事務職もつらいのでは、とおもう。

- ・ 生理休暇や短時間労働勤務は制度として記されているが、実際活用した人はみたことない。また上司から「取った人はいない、そんなんで取るのか」など圧力のある言葉がでるため、とれない。在宅勤務はサービス勤務と思ってよいと思う。

- ・ 育児休暇や生理休暇等、女性に限定されるまたは活用するのがほぼ女性である制度は周囲の男性社員の理解がないと、なかなか活用しづらいのが実態だと思います。男性社員へもWLB等に関する情報や、このような女性技術者の会等での意見を提供していくべきだと思います。

Ⅲ-5. WLBの取組みのうち、活用しにくいと思う又は活用したことがない項目があれば、その理由を教えてください。(複数回答可)
ただし、活用しやすいと思う項目については、選択肢を選ぶ必要はありません。



Ⅲ-6. 【Ⅲ-5でe（制度上の課題）、g（その他）を選んだ方】

WLBの取組みの中で、制度上の課題やその他ご意見について教えてください。どの項目（Ⅲ-5の①～⑱）に対するご意見かも併せてお願いします。

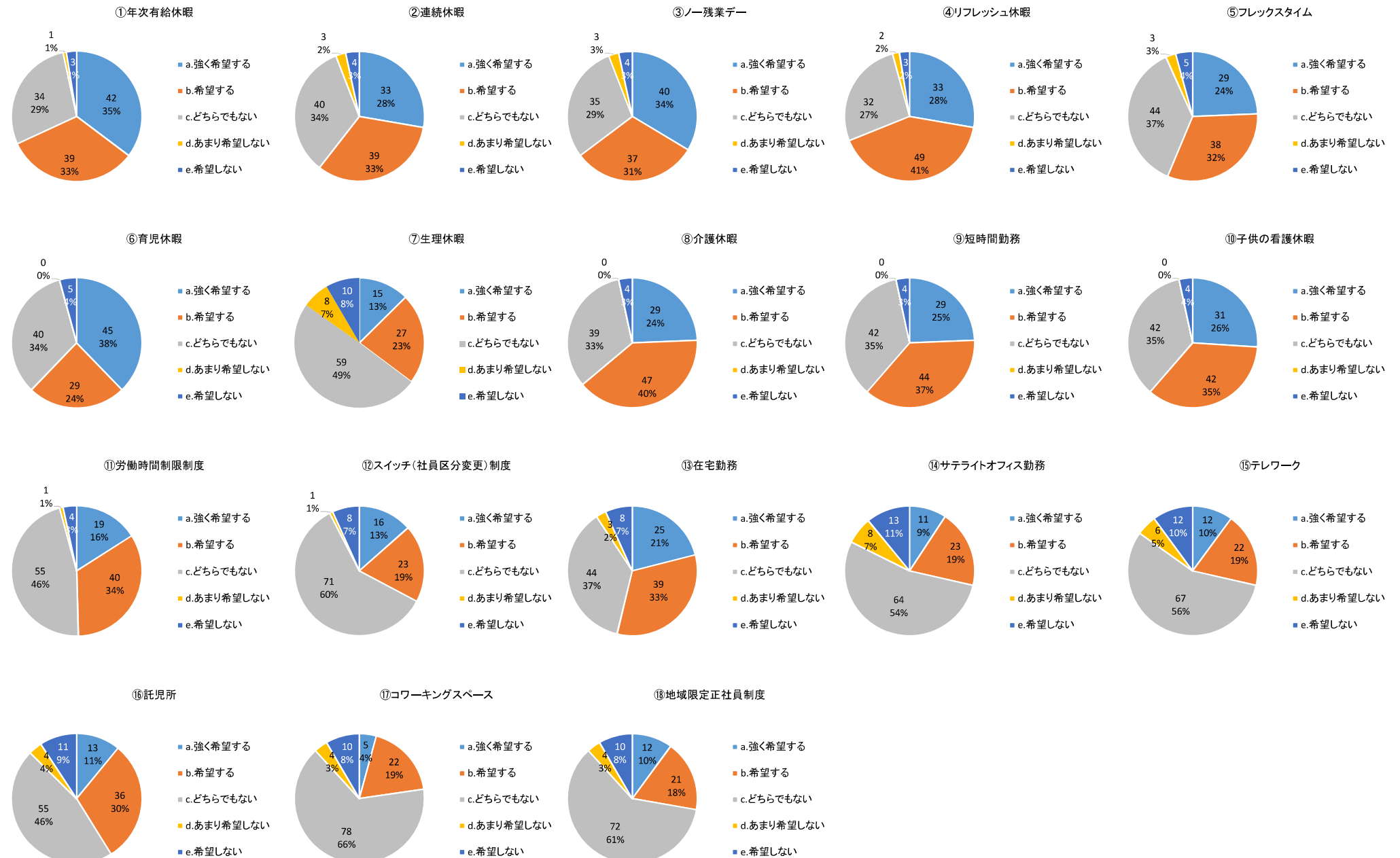
【⑦生理休暇】

- ・ ⑦生理休暇について：この制度をつくることによって悪用（さぼり）等をする人が出てくる。女性限定の制度なので、男性側限定での制度と合わせて設定すべき。そもそも、みんな辛い中働いているので、この制度を作ること自体女性を特別視しすぎ。つまり、不要。
- ・ 生理休暇の必要性を会社に申請するのが恥ずかしい。必要性も感じない。
- ・ ⑦生理休暇について：正社員は事務所に男性しかいないため言いにくい。許可申請の際、直属の上司に申請する仕組みになっており、申請しにくい。
- ・ 取得すると無給になるため、年休で取得する方を選択している。
- ・ 言い出しにくい

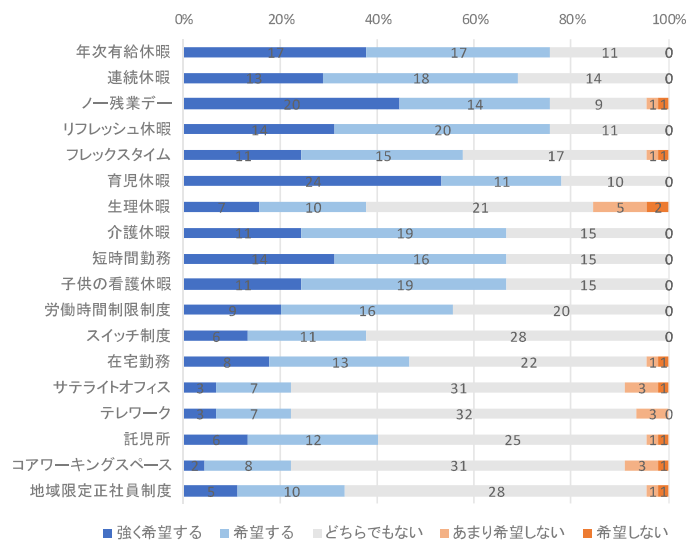
【⑬在宅勤務】

- ・ 在宅勤務について：在宅勤務には魅力を感じますが、制度上の課題に加えて、設備環境や本人の技術力など、実現するには課題が多いと思います。
- ・ ⑬⑭⑮⑰共通：利用できる職種、分野に限りがあるように思う。たとえば、営業、総務・経理系。技術でも、分野によっては会社にいないと難しいというものがあるかもしれない。また、遠隔管理になるため、誰でもOKではなく、ある程度、ひとりで仕事ができる人でないと利用できない（周囲が認めてくれない）と思う。
- ・ 会社に来ないと業務情報に接触できない。コンプライアンスも分かるが、このままでは多種多様な働き方が阻害され、人材が流出するのではと懸念している。
- ・ 社内での制度の周知率が低いため、活用されにくく前例がほとんどない
- ・ 発注者（公共機関）にも周知・ご理解いただける仕組みが必要
- ・ 育児休暇は前例が少なく、正直なところ取りづらい
- ・ フレックスタイムや在宅勤務は制度があれば活用したいですが、残念ながら弊社には、そのような制度がありません。それ以外にも多くがないのが現状です。
- ・ 制度の内容をいまいち理解していない。

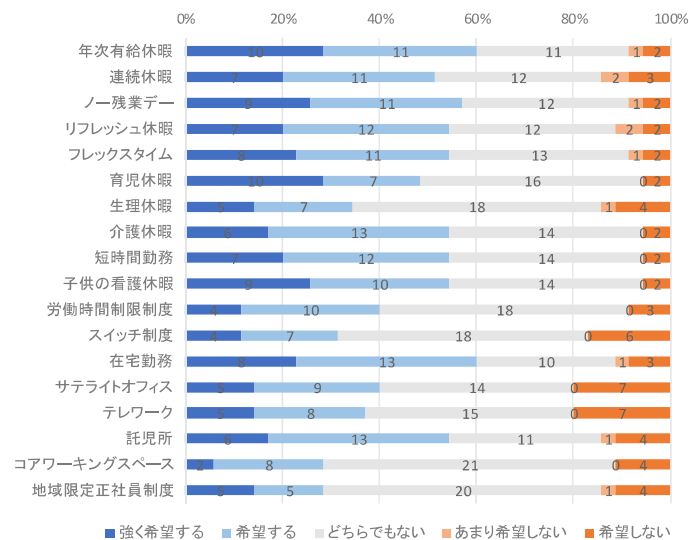
Ⅲ-7-1. WLBの取組みについて、今後整備してほしい項目又は改善してほしい項目を教えてください。



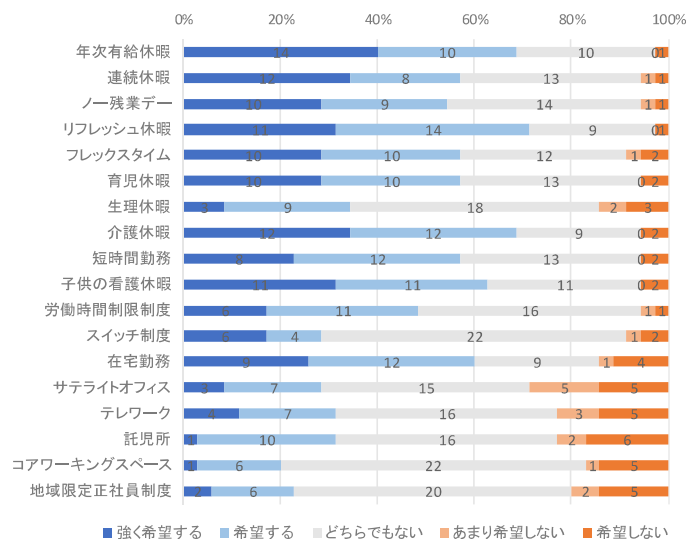
WLBの取組について今後整備してほしい項目または改善してほしい項目 20～29歳



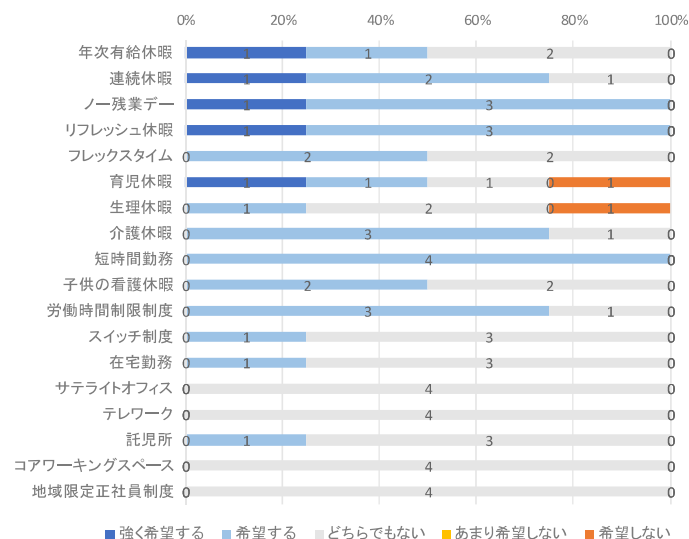
WLBの取組について今後整備してほしい項目または改善してほしい項目 30～39歳



WLBの取組について今後整備してほしい項目または改善してほしい項目 40～49歳



WLBの取組について今後整備してほしい項目または改善してほしい項目 50歳以上



Ⅲ-7-2. Ⅲ-7-1の①~⑩以外で、今後整備してほしい又は改善してほしいWLBに関する取組みがあれば教えてください。

- ・ 発注者からの17時以降の電話を禁止してほしい。発注者からの土日作業を前提とするような要求（月曜朝までにメールなど）を禁止してほしい。
- ・ 託児所の病児保育園と信頼できるベビーシッターの整備。双方とも高い。
- ・ よく思うのは、給料を半分にしてもいいから、労働時間もきっちり半分にしてほしいと思う。また、公務員のように、育児休暇が3年ぐらい取れたらいいな~と思う。
- ・ 小学3年生までの短時間勤務
- ・ 大学進学や長期研修など1~3年程度の休職（無給、会社に籍のみ残す）、復職制度

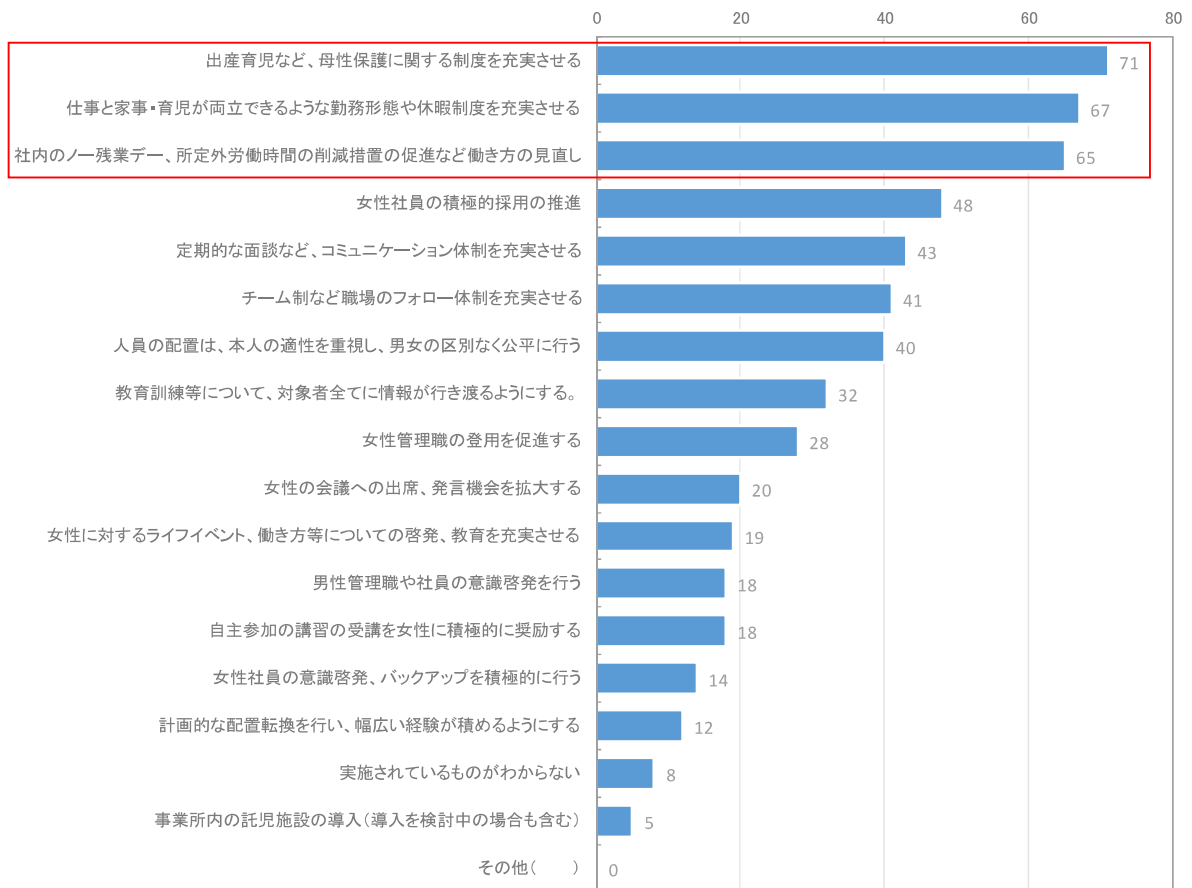
Ⅲ-8. その他、ご意見があればお聞かせください。

- ・ 女性の働きやすい職場にする、というのはいい考えだと思います。ただ、近年女性を特別扱いしすぎている傾向があるように見受けられます。男性をないがしろにしない、女性を守ることによって男性にもメリットがある、そういった活動を期待します。
- ・ 他社との競争力維持についても念頭においたWLBの取り組みが必要であるとする。
- ・ WLBと仕事量のバランスは簡単にいかない。
- ・ WLBが保てていない一番の理由は、技術者・業務単価の安さ、発注者からの契約外作業の強要だと思う。これがある限り、業界が抱えている長時間労働は解決できず、いくら良い制度があったとしても利用できることが困難となり、女性がライフイベントを境に退職していくこともやむを得ないと思う。それでも「がんばれ」というのは、理不尽な労働環境の中で一個人がそれをすべて抱えろと言っているものと同様。しかし、このような背景で女性を差別するのは理由にはなっておらず、周りを見ると、男性でも労働環境に耐えられずやめていく（もしくは公務員に転職する）人は今までもたくさん見てきている。いずれにしろ、他の業界に比べ労働時間が長いのは確かであり、解決しない限り、これからの技術者確保が困難となる、日本のインフラ整備に係る大きい話に発展してもおかしくないと思う。
- ・ 管理職になった途端、ヒラリー・クリントンではないが、強大な壁を四方八方に感じるようになり、やりがいが無くなった。残念である。

IV. 女性活躍への取組みの進行状況について

IV-1. 以下の女性活躍についての取組みのうち、あなたの会社で実施されているものを分かる範囲で教えてください。（複数回答可）

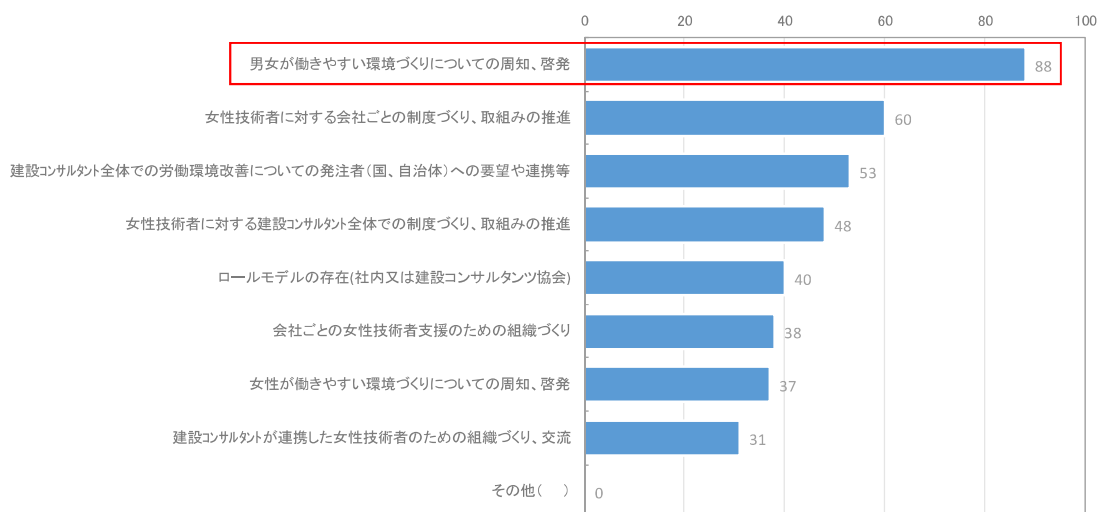
女性活躍についての取組みのうち、会社で実施されているものは、「母性保護に関する制度を充実させる」、「勤務形態や休暇制度を充実させる」、「働き方の見直し」と続く。



V. 女性技術者が働きやすい環境づくりについて

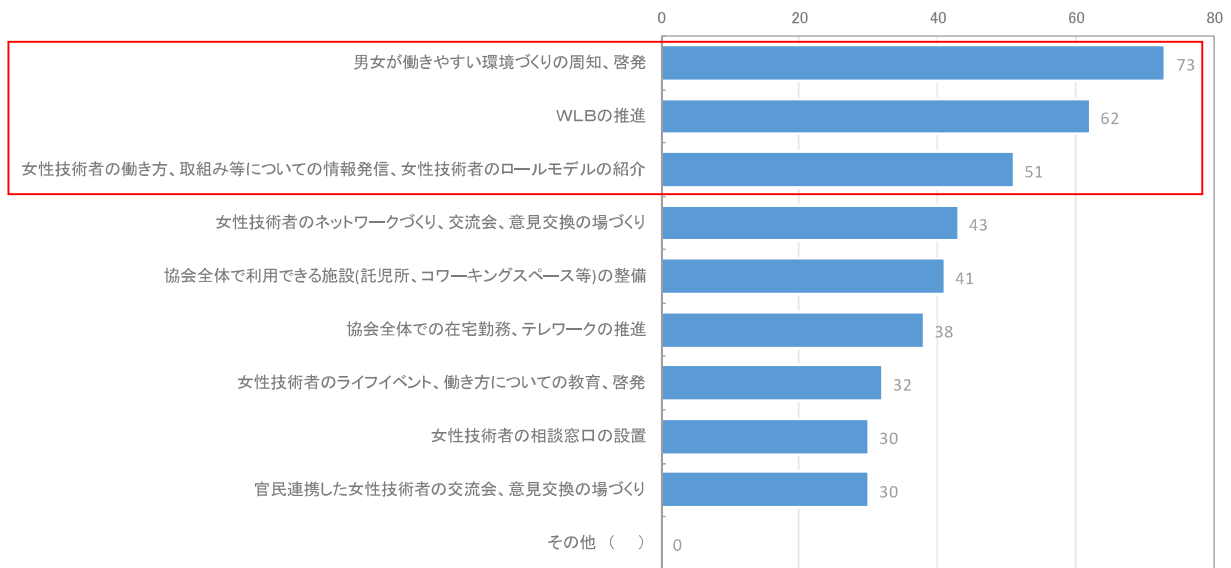
V-1. 女性技術者が働きやすい環境づくりのためにどのようなことが必要と考えますか。下記の中から選択してください。（複数回答可）また、その他にご意見のある方は、その他の欄に入力してください。

女性技術者が働きやすい環境づくりのために必要な取り組みは、「男女が働きやすい環境づくりについての周知、啓発」が最も多い。



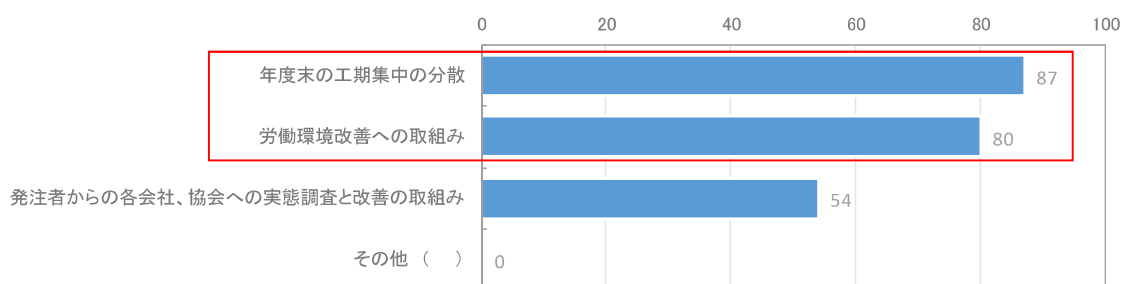
V-2. 女性技術者が働きやすい環境づくりのために建設コンサルタンツ協会に期待することを教えてください。(複数回答可)

女性技術者が働きやすい環境づくりのために建コン協に期待することは、「男女が働きやすい環境づくりの周知、啓発」が最も多く、「WLBの推進」、「女性技術者の紹介、情報発信」と続く。



V-3. 女性技術者が働きやすい環境づくりのために官民での対応が必要と考えることを教えてください。(複数回答可)

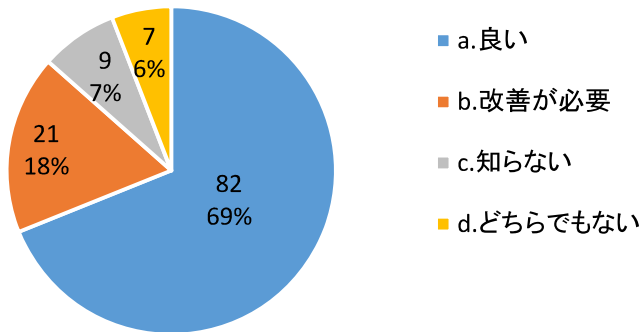
女性技術者が働きやすい環境づくりのために官民での対応が必要なことは、「年度末の工期集中の分散」が最も多く、「労働環境改善への取組み」と続く。



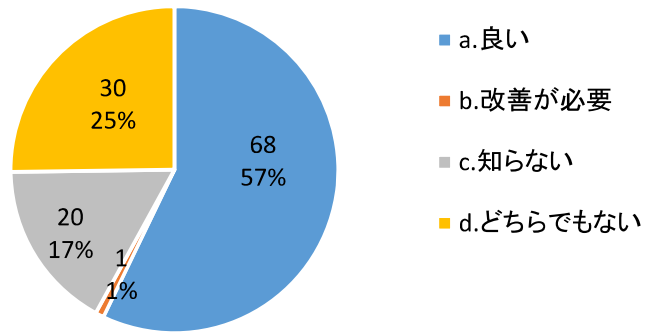
V-4-1. 現在、取組みが行われている以下の項目について、ご意見を聞かせてください。

(建設コンサルタンツ協会の取組み)

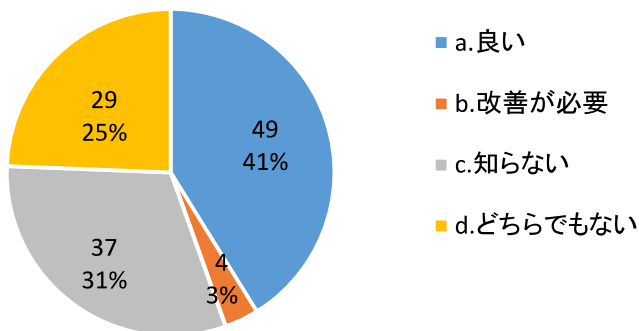
①協会としてのノー残業デーの推奨



②協会開催の女性技術者の交流会 (H29.9第1回開催)

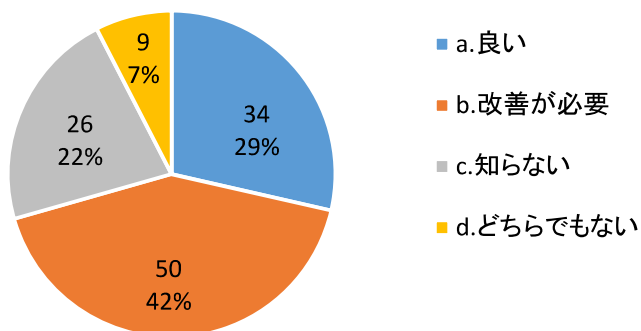


③女性技術者による情報発信 (facebook, ニュースレター等)

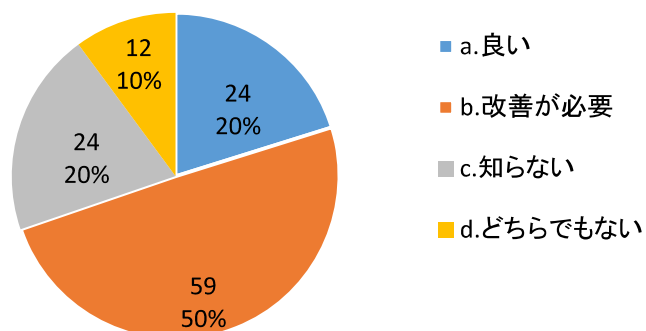


(官民一体となった取組み)

①労働環境改善への取組み



②年度末の工期集中の分散



V-5. 【V-4-1、V-4-2でb（改善が必要）を選んだ方】

改善内容など、ご意見があればお願いします。

- ・毎年毎年集中するとわかっていながら、改善されない（対策をとらない）ので残業過多になると考える。（官民お互いに。）
- ・女性に特化したものではなく、男女限らずのはなしですね。
- ・成果が実感できない。
- ・発注者による年度末工期集中の分散が、どこまで効果的なのか、若干懐疑的である。
- ・労働環境や工期集中については、発注者の動きによるところが大きいため、発注者への啓発が必要と考える。
- ・業界全体の労働環境の悪さに対する意識改革がまだまだ必要だと思います。
- ・ノー残業デー：業務の集中、人員不足により、実現できないことの方が多い。
- ・労働環境改善については、「官民一体となった取組み」となっているが、発注者だけがよくなっているのでは？年度末工期集中の分散は、受注時には分散しているように見えるものの、当初の業務発注計画が悪く、設計変更となることが多いため、結局3月末に集中している。
- ・取組みが行われていることを知らなかったため、もっと周知が必要。
- ・V-4-2①では、法律以上の労働環境改善取組は評価を $+α$ とか、よいのかも。
- ・工期の集中は、男性だけでなく女性技術者の勤務継続の妨げになっていると思います。
- ・業界柄、突発的な残業も多発するため、全社員がノー残業デーで定時に帰宅できる環境を整えたと、子を持つ女性も気兼ねなく帰宅できる。まずは男女問わず早く帰宅する意識付けのために必要。
- ・もっと発注を前倒しにすべき
- ・以前と比べると改善はみられるが、まだまだ改善に取り組んでほしい。特に発注者側のコンサルへの対応の改善

（女性技術者委員会への意見）

- ・女性技術者交流会へ参加したが、年齢層や役職に幅がありすぎて、会話がかみ合わないことが多かった。向いている方向がバラバラなので、「女性」のみで括ることに無理がある。分野別、年齢別、役職別などで実施してみる事も良いのではないかな。あと、女性は知り合いで固めてしまう傾向が強いので、誰でも参加出来る雰囲気作りが今後の課題と考える。
- ・ニュースレターについて：取組み自体は評価できるが、これらで取り上げる男女ともに働きやすい環境づくりのためには、女性はもとより男性職員への情報発信ならびに、女性が抱える問題への認識の強化が必要だと感じる。女性目線も必要だが、男性にもしっかり見てもらえるニュースレターの作成と情報発信をお願いしたい。

VI. その他（自由意見）

VI-1. その他にご意見のある方はお願いします。

- ・ 休暇関係の制度周りを強化していくことも大事だと思いますが、その制度を気持ちよく利用するためにも、どうすれば休暇等の制度を利用しやすくなるかを考えていくべきだと思っています。たとえば、育児休暇を取得する人のために、仕事は個人商店にするのではなく、チーム制で動くことを原則とするなど。個人的な意見ですが、基本的に制度が利用しづらいのは、制度云々というよりその人が一人または少人数で仕事を抱えているか、管理職や上司のハラスメント要素が強いような気がします。機械的な考えかもですが、管理職だけではなく、一般職レベルからマネジメント（時間・人）を意識して働くようにすれば、制度でしばって早く帰ろうではなく、自然と早く帰れるようになるのではと考えます。以上です。
- ・ 業務遂行にあたっては男性技術者と同等の仕事ができる環境であるため、女性として求める環境改善事項はあまりない（当方独身であることも理由の一つ）。しかし、業務の受注時期の重複、慢性的な人員不足等により、女性だけでなく男性技術者（特に上司）も連日残業、休日出勤等を余儀なくされる状況である。それにより、生理や PMS（月経前症候群）で体調が悪くても帰ると言い出しにくく、我慢せざるを得ないことが辛い。職務内容上、やむを得ないかもしれないが、女性、若手技術者の環境改善には、上司（管理者）の「残業が当たり前」の認識改善（残業しないための業務の進め方）が重要だと思う。
- ・ 女性がと強調する必要があるか疑問。男女が働きやすい環境づくりを男女一緒に考える方がよい。
- ・ WLBについては男女とも考えるべきことだと思うので、女性に特化しすぎないほうがいいと思います。
- ・ 仕事内容はとてもやりがいがあり、気持ちとしてはライフイベント後にも仕事を続けたいと思っていますので、ぜひとも早いうちに改善できることを期待しています。
- ・ 女性は特に出産後の働き方は変えざるを得ません。前例はまだ少ないと思いますが、これから増えるはず。今のような女性技術者が働きやすい環境づくりのための取組が、今後結婚出産後の女性技術者がある程度増えるまでは、継続的に必要だと思います。が、女性に対して過剰に手厚い制度や取組をしすぎるのもどうかと思います。WLBも含めあくまで男女平等であり、女性だけで動くのではなく男性の理解も得られるような動きでないと、この業界ではなかなか根付いていかないと思います。
- ・ 会社にもよりますが、育児短時間勤務を小学校 3 年生までは認めてほしい。当社は子供が小 1 から定時勤務です。実際、保育園のように延長保育もないし、定時勤務は厳しいです。
- ・ 女性技術者の労働環境の改善は大変ありがたい事で、利用もさせて頂いていますが、それと同じぐらい男性技術者の労働環境改善も必要かと思います。
- ・ 女性技術者の資格所有者数は男性技術者と比べて、取得率が高いのかを知りたい。

【対外活動部会】

1. 自治体との意見交換会総括会見（対外活動委員会）

イベント名：自治体との意見交換会総括会見

開催日：平成30年2月6日

場所：建コン九州支部会議室

参加者：建コン側5名、新聞社5社

内容：

自治体名	開催日	場所	出席人数
熊本市	2018/10/3	マスコピアル生命ビル 2F 会議室	市側16人、建コン23人
熊本県	2018/10/22	県庁本館 11階 土木部会議室	県側12人、建コン20人
大分県	2018/10/30	大分県庁新館 6F 入札室	県側9人、建コン16人
長崎県	2018/10/31	県庁 1階 大会議室 C	県側8人、建コン14人
沖縄県	2018/11/12	沖縄県市町村自治会館 第1会議室	県側6人、建コン8人
鹿児島県	2018/11/14	鹿児島県市町村自治会館 403号室	県側9人、建コン16人
福岡市	2018/11/26	天神ビル 9号会議室	市側16人、建コン20人
福岡県	2018/11/30	福岡県吉塚合同庁舎 801会議室	県側10人、建コン21人
宮崎県	2018/12/5	県庁 7号館 744会議室	県側8人、建コン22人
佐賀県	2018/12/6	佐賀県庁 11階 12号会議室	県側7人、建コン17人
北九州市	2018/12/18	北九州市本庁 15C 会議室	県側8人、建コン6人

2. NEXCOとの意見交換会（対外活動委員会、道路技術委員会）

イベント名 西日本高速道路(株)九州支社との意見交換会

開催日 令和元年5月21日（火）15:00～17:00

場所 西日本高速道路(株)九州支社会議室

参加者 建設コンサルタンツ協会13名、西日本高速道路（株）九州支社11名

内容 西日本高速道路（株）西日本本社と建コン本部の意見交換会結果

西日本高速道路（株）九州支社からの連絡事項

意見交換



▲NEXCOとの意見交換会様子

【技術部会】

1. 各自治体へ講師を派遣（講師派遣委員会）

各自治体から職員に対する研修の要望に応じて、会員会社の最適な講師を選任し派遣している。
平成30年度は、以下の自治体に派遣した。

研修名	開催日・場所・講習内容
福岡県市町村職員研修	平成30年7月10日～10月10日 ■福岡県建設技術情報センター ■「橋梁設計」、「構造物設計」、「道路計画」、「下水道設計」、「土質／地質調査」、「橋梁点検」、「景観計画」、「法面設計」、「河川計画」 ■21回 ■15名
宮崎県建設技術センター研修	平成29年8月17日～10月24日 ■宮崎県建設技術センター ■「道路保全（既設橋梁耐震対策）」、「道路調査・計画（スキルアップ）」 ■2回 ■2名
鹿児島県建設技術センター研修	平成30年10月12日 ■鹿児島県建設技術センター研修 ■「橋梁補修設計」 ■1回 ■1名
福岡市役所技術研修	平成30年9月26日～10月11日 ■福岡市役所15F講堂、職員研修センター ■「土質調査・地盤改良工法」、「仮設工」 ■2回 ■2名
沖縄しまて協会	平成30年8月28日 ■「橋梁」の設計と施工、「道路（小構造物・排水）」の設計と施工、「道路（法面）」の設計と施工 ■3回 ■3名

2. ガタ工会 第一回講演会（河川技術委員会）

イベント名 ガタ工会 令和元年度第1回講演会「有明沿岸の地質特性」
開催日 令和元年5月20日（月）14:00～17:00
場所 グランデはがくれ 1階 ハーモニーホール（佐賀市天神2-1-36）
参加者 建設コンサルタント97名、発注者52名
内容 講演者：三浦 哲彦（佐賀大学 名誉教授、軟弱地盤研究所 所長）
演題：「有明海沿岸の地質について（堆積環境と地盤特性について）」



▲ガタ工会第一回講演会の様子

3. 直轄河川の災害復旧事業に関する講習会（河川技術委員会）

イベント名	直轄河川の災害復旧事業に関する講習会
開催日	令和元年5月24日（金）14:00～16:00
場所	九州地方整備局 2階共用第2,3会議室
参加者	建設コンサルタンツ協会54名（24社）
内容	直轄河川災害復旧事業の概要 災害申請書を作成する上での留意点 その他



▲直轄河川の災害復旧事業に関する講習会の様子

4. マネジメントセミナー（品質向上委員会、本部 マネジメントシステム委員会）

イベント名	令和元年度「マネジメントセミナー」（九州会場）
開催日	令和元年7月5日（金）9:10～16:30
場所	■福岡本会場 天神ビル 11階 10号会議室 ■サテライト会場 佐賀 九州技術開発(株) 会議室（佐賀市鍋島 5-7-23） 長崎 長崎卸センター組合会館 第1・2会議室（長崎市田中町 1201） 大分 コンパルホール 304 会議室（大分市府内町 1-5-38） 熊本 (株)九州開発エンジニアリング別館（熊本市東区健軍本町 33-5-2F） 宮崎 (株)晃和コンサルタント 会議室（宮崎市大字本郷北方 3009-1） 鹿児島 (株)萩原技研会議室（鹿児島市山下町 16-20） 沖縄 (株)ホープ設計 会議室（那覇市首里赤田町 3-5）
参加者	■福岡本会場 企業：169名（71社）、発注者団体：3名（1団体） 合計：172名 ■サテライト会場 佐賀 会員 17名（8社）、長崎 会員 17名（4社）、大分 会員 42名（10社） 熊本 会員 10名（6社）、宮崎 会員 8名（5社）、鹿児島 会員 2名（2社） 沖縄 会員 20名（2社） 計 288人
内容	■趣旨説明 建設コンサルタントとマネジメント ■PPP/PFIの政策動向と事例紹介 ～PPP/PFI活用の多様化と小規模自治体への拡大～ ■CM方式の更なる活用に向けて ～CM方式活用の手引き（案）の改定と今後の普及拡大～ ■環境配慮経営に向けて ～SDGsを軸とした環境配慮の展開～ ■マネジメントシステムの効果的運用に向けて

～品質マネジメントシステムの課題と運用事例～

■ 品質の確保・向上に向けて

～次のアクションはこれだ！～



▲マネジメントセミナー福岡本会場の様子



▲サテライト佐賀会場の様子



▲サテライト佐賀会場の様子



▲サテライト長崎会場の様子



▲サテライト大分会場の様子



▲サテライト大分会場の様子



▲サテライト熊本会場の様子



▲サテライト宮崎会場の様子



▲サテライト鹿児島会場の様子



▲サテライト鹿児島会場の様子



▲サテライト沖縄会場の様子

4. GIS講習会（情報委員会）

イベント名 GIS講習会（初級編）【福岡】

GIS講習会（中級編）【福岡】

開催日 令和元年7月18日（木）～7月19日（金）10:00～17:00

場所 天神ビル11階1号会議室

参加者 初級編 27名（15社）、中級編 26名（18社）

内容 コンサルタント技術者が実際にパソコンを操作しながら、実際のコンサルタント業務にGISツールをどのように適用するのかを修得した。

■初級編 7月18日（木）

これまでGISを使った事が無い技術者を対象に、GISの概念やソフトの機能等を講習する。パソコンを使って講師の操作説明に従って操作し、データの取り込みや、作成、分析、綺麗な地図の出力などの、基本的GIS操作を習得することを目標とする。

使用ソフト：ArcGIS Pro。

■中級編 7月19日（金）

初級編の技術レベルを習得している技術者を対象に、主にデータの分析の実習を行い、実践的なGIS操作を習得することを目標とする。

使用ソフト：ArcGIS Pro。



▲令和元年度GIS福岡の様子

【夢アイデア部会】

1.子育て環境を考える会プロジェクト（海編）（夢アイデア実行委員会）

イベント名	第1回子育て環境を考える会プロジェクト（海編）
開催日	令和元年7月27日（土）13:00～15:00
場所	志賀島 勝馬海水浴場
参加者	24名
内容	子育て環境を考える会プロジェクト海編として、 志賀島 勝馬海水浴場で「海の生物を探しに行こう！」を実施した。
報告書	実施速報

2.柴北川プロジェクト（九州郷づくり共助ネットワーク研究会）

イベント名	柴北川プロジェクト
開催日	令和元年6月22日～6月23日
場所	豊後大野市犬飼町長谷地区
参加者	16名
内容	田植え会、私のこだわりトーク、他
報告書	柴北川プロジェクト外通信

3.まちづくりの夢アイデア作品募集開始（夢アイデア実行委員会）

イベント名	第17回まちづくりに関する提案の募集を開始
開催日	令和元年7月1日～9月30日
場所	田植え会、私のこだわりトーク、他
案内	2019年応募案内チラシ



夢アイデア実現化プロジェクト

「子育て環境を考えるプロジェクト 海の生物を探しに行こう！」

実施速報（2019年7月27日（土））

1. 子育て環境を考えるプロジェクトとは？

「子育てに良い環境とは？」「親が育てやすい環境とは？」という二つのテーマで、子育て環境に良い遊び場を発掘する活動を行っています。

2. 実施日時・実施場所

2019年7月27日（土）13時～15時、志賀島 勝馬海水浴場

3. 実施状況概要（参加者24名）

建コン協会会員向けに行いましたが、建コン協会の生き物の専門家の協力を得て、イベント中は、子供たちからの「これ何～」の質問攻めに対して、丁寧に詳しく説明して頂き、参加した子供たちも大変満足そうでした。





まちづくりの夢アイデア作品募集

9月30日締切

最優秀賞

10万円

優秀賞 3万円

佳作 1万円

テーマは何でもOK!

まちづくり、地域振興、観光、景観、環境、農業、子育てなど、
テーマや対象地域は自由。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 自然を活かした暮らしを大切にしよう | <input type="checkbox"/> 九州の魅力を全国に出そう |
| <input type="checkbox"/> 子どもたちのために良い環境をつくろう | <input type="checkbox"/> 中小都市の魅力を取り戻そう |
| <input type="checkbox"/> 離島・半島の暮らしを守ろう | <input type="checkbox"/> つどい、かたらい、絆を深めよう |
| <input type="checkbox"/> お年寄りにやさしいまち・むらをつくろう | <input type="checkbox"/> 災害に備えよう |
| <input type="checkbox"/> 歴史・文化をもっと活かそう | <input type="checkbox"/> もっと便利・効率の良いまちに! |
| <input type="checkbox"/> アジアの玄関口にふさわしいまちにしよう | <input type="checkbox"/> 環境にやさしい暮らしをしよう |

応募先・お問い合わせ

福岡市博多区博多駅東 1-13-9 いちご博多駅東ビル 8 階
建設コンサルタンツ協会九州支部「夢アイデア企画」係
MAIL : qsinfo@jcca.or.jp / FAX : 092-434-4342
HP : <http://www.jcca.or.jp/kyokai/kyushu/dream>

【主催】：(一社) 建設コンサルタンツ協会九州支部 【後援】：国土交通省九州地方整備局、(公社) 日本技術士会九州本部
【協賛】：(一社) 九州地域づくり協会、(一社) 建設コンサルタンツ協会

どんなまちに住んでみたいですか？どんなまちを訪ねてみたいですか？ みなさんのまちづくりへの夢やアイデア大募集！

夢アイデアは、自分たちの思い描く「まち・地域像」の夢やアイデアを具現化することにより、より良いまちづくりを目指すものです。まちを楽しくする、まちを元気にする、ひとに驚きを与える、ひとを感動させる、“まち”と“ひと”を動かすあなたの夢アイデアを募集しています。これまで、800編あまりの応募をいただき、実現に向かって動いている取り組みも少なくありません。

応募書式・枚数

手書きのイラストや原稿、またはワープロ原稿など書式や枚数は自由です。提案の特徴やアピールしたい点をまとめたうえ、イラストや原稿末尾に住所、学年・職業、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、メールアドレスを記載し、メール・郵送・FAXにて印刷物、データ（CDなどの電子媒体）をお送りください。

※郵送の場合は「提案書在中」を朱書ください。

※イラストや応募原稿は原則として返却しません。また、作品の公開等、建設コンサルタンツ協会九州支部が必要とする場合は自由に使用します。予めご了承ください。

※枚数は自由ですが、400字詰め原稿用紙10枚程度までとしてください。

応募先・お問い合わせ・ご相談

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-13-9 いちご博多駅ビル8階
建設コンサルタンツ協会九州支部「夢アイデア企画」係
TEL: 092-434-4340 / FAX: 092-434-4342
MAIL: qsinfo@jcca.or.jp

※パソコンを持っていない方、絵や文章が苦手な方・厳しい方に対し、携帯メールや夢アイデアホットラインによるサポートサービスを行います。お気軽にお申し込み・ご相談ください。

夢アイデアの詳しい情報について

過去の応募作品を「夢アイデア」のホームページに掲載しています。作品の中には、実現に向けて動き出しているアイデアやまちづくりのヒントになっているアイデアもあり、Facebookで発信しています！

詳しくは検索！

夢アイデア 🔍 検索

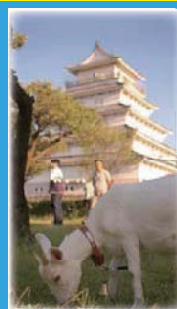
Facebookもチェック！

夢アイデア 📘



ホームページのQRコード

これまでの夢アイデア



【ヤギ・羊 ECO プロジェクト①】



【思い出 NAVI】



【夕陽風景時評】



【九州郷づくり共助ネットワーク研究会】



【ヤギ・羊 ECO プロジェクト②】



【ヤギ・羊 ECO プロジェクト③】

昨年の夢アイデア交流会の様子



応募結果は夢アイデア交流会 2019 で発表・表彰！

2019年11月30日（土）に開催する夢アイデア交流会では、一次審査でノミネートされた夢アイデア応募作品の発表、審査、表彰を行います。交流会では、夢アイデア作品の発表のほか、夢アイデア座談会の開催、まちづくりの提案に関するポスターや模型の展示を行います。どうぞお楽しみに！

- | | | | |
|-------|---|----------|----------------------|
| □開催日時 | 2019年11月30日（土） | □タイムテーブル | |
| □会費 | 【交流会】無料
【懇親会】1,000円 | 13:00 | 第1部（夢アイデア・プレゼンテーション） |
| □会場 | 天神スカイホール
（西日本新聞会館16階）
福岡県福岡市中央区天神1丁目4-1 | 15:00 | 第2部（夢アイデア座談会） |
| | | 17:00 | 表彰式・懇親会 |
| | | 18:30 | 終了 |

□参加申し込み・問い合わせ

建設コンサルタンツ協会九州支部「夢アイデア交流会」事務局
TEL: 092-434-4340 / FAX: 092-434-4342 / MAIL: qsinfo@jcca.or.jp
HP: <http://www.jcca.or.jp/kyokai/kyushu/dream/index.html>



【夢アイデア交流会会場：天神スカイホール地図】

ながたに暮らし体験記

一緒に、地域の植物を 楽しみませんか！

地域おこし協力隊として、平成 29 年の 9 月に豊後大野市に移住してきました。

地元は日田市ですが、高校卒業を機に大分県を離れ、鳥取の大学に進学し、植物について勉強してきました。大学卒業後、東京の会社に就職しましたが、都会の雰囲気苦手で、すぐに緑豊かな豊後大野市に引っ越してきました。

協力隊の活動として、生物多様性やユネスコエコパークに関することを中心に、豊後大野市の植物を調べたり、環境学習や植物観察会などを通して地域の自然を伝えたりしています。

長谷地区には、地域おこし協力隊の先輩である後藤聡美（旧姓：関根）さんの「コダワリトーク」の時に、初めて足を運びました。

その時は、初めての参加でもとても緊張していましたが、長谷地区のみなさまの温かさやアットホームな雰囲気がとても心地よく感じることができています。

昨年の 8 月には、長谷地区の小学生を対象とした「親子植物観察会」の講師もさせていただきました。身近な植物を子どもたちと一緒に観察し、毎日見ている植物には一つ一つ名前があることを伝えることができたかなと思います。また春の植物や秋の紅葉などを一緒に楽しめたらいいなあと思っています。

これからも長谷地区もふくめた豊後大野市の植物をみなさんに知ってもらえる活動をしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。
(岩里 実季)



▲ 第 8 回「私のコダワリ」トークは、広々とした「ながたに振興協議会」会議室で開催。(2/2 参加者集合写真)

2019 年 2 月 26 日発行

来ちみなあ 20 号

「来ちみなあ」伝言板

- 次回は、新年度を迎えて少し落ち着いた 5 月頃の開催を予定しています。
- 年号が、平成から新しい年号に移ってすぐのトークとなりますので、トークネタもこれからの時代を予感させるものできれば、と考えています。ふるってご参加ください。

新しい活動拠点の活用に向けて。

来ちみなあハウスの玄関先に白梅が咲き誇る 2/2 (土) に、第 8 回「私のコダワリ」トークを開催しました。しかしながら立春前の厳冬期とあって、トーク人の岩里さんには寒い場所でのトークで申し訳ないと思縮していたところ、「ながたに振興協議会」の会議室を利用させていただけることになり、本当に助かりました。

この施設は冷暖房装置完備で、今後トイレ・シャワー等の設備も充実すること。この素晴らしい環境により、当日はトークもその後の新年会 (40 名参加) も大変盛り上がりました。

以前、都市と地域が関わりを持つ「関係人口」と言う言葉を紹介しましたが、地域内外の人々が気軽に立ち寄り寄ってお互いの関係を深める場として、この振興協議会の施設が活躍しそうな予感があります。この施設の愛称を、地域の皆さんで考えてみませんか？
(波木 健一)

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」(和洋室 5 室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅)での活動を紹介する通信です。
発行：「来ちみなあハウス」店子グループ

ながたに風

長谷のこと

17 歳 (高校生) と 15 歳 (中学生) の娘たちに「長谷」について聞いてみました。

彼女たちから見た「長谷」は、なんとも自然が豊かであり、始どの人と顔見知りなので安心して生活できる地域だなあと答えてくれました。特に上の娘は、長谷幼稚園を卒業して閉校する長谷小学校に 2 年生まで通いました。

その頃のこと一番印象深かった事を尋ねてみると、散歩をしたことが遠足や運動会、社会見学よりも心に強く残っていると返ってきました。都会では決して味わうことのできない「長谷」ならではのふるりの風を胸いっぱい吸いながら、色々な植物や顔なじみの地域の方々との触れ合いが、幼いながらも楽しかったのかもしれせん。

少人数ながらも先生方や上級生に学校生活で守るべきことなどを教わったなあと、懐かしく話してくれました。登下校時にも優しく声をかけてくれたおじちゃんやおばちゃん、恐かった三浦のおじちゃん、友達と一緒に登下校時は毎日冒険だったようです。

子供達と保護者のみならず、地域の皆さんや卒業生達が、少しでも盛り上げようと参加して下さった運動会は、今でも一番の思い出と言います。環境が人を育てると聞きますが、まさにその通りだなあと思っています。

今、長谷地区で暮らしている子供たちが故郷を離れた時も、子どもころに過ごした長谷の山や川のことを忘れずについて、次の世代へ伝えていって欲しいと思います。

いつもジジババの投稿でしたので、今回はちよつと若い(とは言っても、5 月には還暦を迎えますが、汗) 私が書いてみました。
(甲斐 克彦)



お礼の気持ちを込めて、「みんなの田んぼ」を整備 (2/3)



“来ちみなあ”と声かけられて

●「来ちみなあハワスの思い出」
 初めて「来ちみなあハウス」にお邪魔させていただいたのは、平成29年11月の私のコダワリワークでした。当時は知名度の低かったコダワリワークについてお話をさせていただきました。嬉しかったことを覚えています。トーク後は皆さんと杯を交わしながら親睦を深めさせていただきました。
 その後も、お花見に招いていただいたり、植物観察会を開いていただいたりする中で、「柴北川を愛する会」の皆さんの地域を愛するお気持ちに接して、益々長谷が好きになりました。
 4月より歴史民俗資料館に異動になりました。仕事では勿論ですが、それ以外でもお邪魔させていただきたくるので、宜しくお願いいたします。
 (豊後大野市 社会教育課 神志那 庸一)



●「長谷、大好き！」
 初めて「来ちみなあハウス」に足を運んだのは、後藤聡美(旧姓：関根)さんの「コダワリワーク」の時でした。初めての参加でも緊張していましたが、長谷地域の皆様の温かきやアットホームな雰囲気がとても心地よく感じました。
 また、昨年8月には「親子植物観察会」の講師もさせていただきました。豊かな自然と皆様の温かい心であふれている長谷地域が大好きです。
 (地域おこし協力隊 隊員 岩里 実季)



●「3年間の思い出」
 来ちみなあハウスで最初に会議を行ったのは平成28年7月。あれから約3年経ちました。
 3~4か月に1回の「愛する会」の皆様との会議では、ハウスのDIY、農園、ぶらこる食堂の開設、新長谷探検隊など活発な議論がされました。私のコダワリワークでは多くの人と新しい交流もありました。まだまだ皆さんの夢がありますが、「ながたに振興協議会」の事務所に引き継いで実現できれいと思います。3年間ありがとうございました。
 (共助研 柴北川"0" エコリーダー 森脇 亨)



●「フオーエバー「来ちみなあハウス」」
 ご近所さんが誰でも立ち寄れる小さな拠点にしたい、という思いからスタートした「来ちみなあハウス」。“これからどんなふうになるの？”と、和風ベースのおしゃれなカフェ風がいな”と、ピフオー・アフター的な夢が膨らんでいました。
 まだ何も変わってなかったけど、ともかく一泊のチャヤンスが訪れ、女性でも宿泊利用可能ということを証明しました。若い地元的女性が引き続きご利用されることで、逆に嬉しい結果となった気がします。
 (共助研 柴北川"0" エコリーダー 石橋 美樹)



第9回「私のコダワリ」トークの予告

●次回は、6月下旬に、長谷地域近辺で地域づくり活動を行っている方によるコダワリワークを予定しています。
 ●場所は、「ながたに振興協議会」です。皆さん、気軽に立ち寄り高ってください。
 和やかな雰囲気のコダワリワークの様子 ▶




来ちみなあ 21号
 (新旧の店子でハウスの引継ぎ)

「来ちみなあ」の心を新しい活動拠点へ

平成28年8月、柴北上の加藤邸を借家して、地域内外を問わず気軽に「来ちみなあ」と呼びかける「来ちみなあハウス」を開設。それから約3年間、このハウスは長谷地域皆さんの交流の場として、また「柴北川を愛する会」及び「共助研」の活動拠点として活用されてきました。
 一方、このハウスでの活動と同時並行的に「ながたに振興協議会」の活動が活発化する中、その拠点となる旧長谷幼稚園施設の設備改良工事がこの3月で完了しました。

この振興協議会施設の充実を機に、4月から「来ちみなあハウス」の役割を振興協議会施設に移すこととし、同ハウスは「平成」の年号が終わる一月初の3月30日に閉じまします。
 この3年間、「来ちみなあハウス」建物を快く貸与していただいた加藤久さんには、厚くお礼申し上げます。

本号では、地域内外の方々から、これまで「来ちみなあハウス」で培われた「来ちみなあ」のおもてなし心や交流体験など、そしてこれからの活動について感想を寄せていただきました。
 これからも、この「来ちみなあ」マインドを持って、長谷地域の拠点として「ながたに振興協議会」を盛り立てていきましょう。

「来ちみなあハウス」での活動を紹介してきた本通信も、この21号をもって終了します。これまで、ご愛読いただきありがとうございました。
 (「来ちみなあハウス」管理人：渡邊 雪法・波木 健一)
 ……上の写真の左側二人が管理人でした。が、よくわかりませんか？

(地域の拠点「ながたに振興協議会」 満開の桜と)



いつでも、長谷に「来ちみなあ」!

●「交流の輪も広がり、長谷の素晴らしさを再認識。」
 長谷地域はもとより、豊後大野市全体において、人口減少による空き家が増加しています。「来ちみなあハウス」は「柴北川を愛する会」が交流の拠点と考え、また空き家の活用や地域の活性化に繋がればとの思いで利用させて頂きました。交流の輪も広がり、柴北川を始め長谷の自然の素晴らしさを再認識するいい機会を外部の人から教わりました。
 「ながたに振興協議会」の拠点整備が完了し、宿泊施設や一時遊憩所施設ができることが、今後「柴北川を愛する会」を始め、各団体の利用受け入れが可能とあります。これからは、長谷地域全体の拠点としての役割を「来ちみなあハウス」から引き継げればと考えます。
 (ながたに振興協議会 会長 赤峰 映洋)



●「ハウスでの活動を、引き続き振興協議会で。」
 「来ちみなあハウス」閉鎖は残念ですが、場所を「ながたに振興協議会」の拠点に移して活動は続けられるということで、安心しました。
 紙面をお借りして、振興協議会が定期的に行っている行事を紹介させていただきます。



- ① 「ながたに」歌ごえ体操教室 毎週火曜日 9:30~
- ② 第2火曜日 体操後、歌の講師による歌ごえ教室
- ③ 第3火曜日 体操後、昼食と午後からカラオケを楽しむ会
- ④ ハンコウ教室 毎週第3木曜日 13:00~
- ⑤ その他の2019年度活動予定

・史跡巡り
 ・親子植物観察会 (柴北川を愛する会主催)
 ・大分県「里の暮らし事業」今年度も400万円の事業費で拠点整備
 皆様のご参加を、お待ちしております。(ながたに振興協議会 地域支援員 甲斐 照昭)

●「私のコダワリワーク」では楽し交流。
 活動の拠点として「来ちみなあハウス」を返還することになりました。片づけと清掃の呼びかけをしたところ、多くの参加をいただききれいにまりました。作業中、壁に貼られた「来ちみなあ通信」が目にとまり、手を止め少し読みました。「私のコダワリワーク」には「共助研会員」「市職員」「地域おこし協力隊員」「元長谷探検隊員」等から講演をいただきました。その後の懇親会で楽しく交流でき、地域活性化にも大きく貢献できたのではと思います。
 活動の拠点を「ながたに振興協議会」が使用できますのでこちらで活動を続けたいと思います。後の借主さんも若い人が決まり、安心しました。家主の加藤久さんには、感謝申し上げます。
 (柴北川を愛する会 会長 穴見 純一)



●「もう少しレディーズの腕ふるってみたいかった。」
 「来ちみなあハウス」閉鎖を聞いた時に真っ先に浮かんだのは、あれだけ「家具や食器類など処分するのどうしよう」ということでした。中には「共助研」の皆さんが福岡から運び込まれた物もあり、また、福岡まで持って帰るのどうだろうか?等々。
 然し、杞憂に終わりました。幸いにも次の借り主が見つかり、殆どの家具類を引き受けて下さることになり、ほっとしました。ガスコンロやトースター類は「ながたに振興協議会」の備品として、食器類の大半は「ハイウェイブル」さんに引き取っていただきました。
 「台所で、もう少しレディーズの腕ふるってみたいかったなあと」、最後の掃除もおが思いました。
 (柴北川レディーズ 会長 甲斐 能美)



柴北川プロジェクト通信 令和版 第1号

2019年7月29日発行 作成者：石橋

21号をもって最終回となった『来ちみなあ』に代わって、令和版『プロジェクト通信』第1号を発行します。柴北川プロジェクトとは、豊後大野市犬飼町長谷地区で活動する『柴北川を愛する会』のみなさんと、【共助研】(九州郷づくり共助ネットワーク研究会)の協働活動の名称です。

ここでは過疎、高齢化が進む地域活動の活発化を考え、様々なチャレンジをしています。またそれは、都市部で生活しては得られない自然を感じ、そこで暮らす人々との温かい交流を深める場でもあります。

今回は恒例の行事となった田植え会をはじめ、前日に開催した私のこだわりトークなど盛りだくさんの内容をお送りします。

開催日：令和元年（2019年）6月22日（土）・23日（日）
参加者：共助研会員 7名、建コン協会員 2名、
その他ご家族・ご友人 7名 計16名

① ピザ釜設営&ピザ生地作成（22日15：30～17：40）

※今回はピザ釜を設営しながらの合同会議となりました。

主な協議内容↓

- ・ 火入れ開始から1時間ちょっとで釜の温度OK
- ・ 寒い時期は薪のほかに炭を併用すると釜の温度を保てる
- ・ 釜内部はピザ1枚分程度なので、2段にして効率化の提案があった
- ・ ピザピールの柄が短かったので改造
- ・ 生地作成時間は約1時間（今後レシピに写真を追加する）
- ・ 釜の温度が十分上がっていたので5分ほどで焼き上がった
- ・ 次回はピザにのせる野菜は地元で調達する（買ってこなくてもたくさんある）



▲これがピザピール

【ピザづくりレポート①】



ピザ窯の組み立てはとても簡単！



置くだけなので何処にでも設置できます



1時間待つと窯はアツアツに



窯の様子を見ながらアイデア出し



ベテランがそろっています



一方、厨房ではピザ生地づくり



こねたらしばらく寝かせます



生地は2回に分けて作りました

【ピザづくりレポート②】



季節の野菜を切って



生地を仕上げます



麺棒で生地をのばす



ソースをたっぷり



具もこぼれそうなほどたっぷり



きれいに仕上がりました



窯の火も準備 OK!



あとは焼くだけです

② 「私のこだわり」トーク（22日 18:00~19:00）



「ファインダーから見える、自分だけの世界」

豊後大野市役所商工観光課 山田哲平さん

愛用のカメラの紹介と好きな写真の世界感、写真展への挑戦、受賞した写真について語っていただきました。質問タイムでは撮り鉄のマナーについての熱い議論もありました。

【私のこだわりトーク】



【山田さんの写真ギャラリー】



③ 問う食うタイム ピザ試食（22日19：00～21：00ごろ）

こだわりトークの後は、山田さんを囲んで、お集りの皆さんと「問う・食う」タイム。欲張って8枚も焼いたので皆さんにご試食いただけたことと思います。作りたて、焼きたてのピザはやっぱりおいしい！ オープンでも焼いてみましたが、窯の方が断然早くておいしいこともわかりました。翌日は田植えの準備やレディース弁当の仕込みでお忙しい中、差し入れまで頂きありがとうございました。

【問う食うタイム】



④ 宿泊：ながたに振興協議会（旧長谷幼稚園）（22日～23日）

トークも終わりこの日はお開きです。宿泊チームは貸布団をひいてお泊り。リニューアル後なのでエアコン、シャワーも利用させていただきました。

【シャワー施設状況】



⑤ 花いっぱい長谷まつり Part・19（23日 10：00～14：00）

翌日は、過去最高ではないかと思われる参加人数で大盛況の田植えとなりました。晴れたり曇ったりの絶妙な田植え日和でした。今年は子どもさんたちも熱心で、最後まで頑張って植えていました。そして、いつものように生き物を観察したり、遊んだり元気いっぱいでした。

【田植え会①】



【田植え会②】



ドローンで撮影



一番奥は最後まで頑張った人たち



終わったら川で足を洗いました

【ランチタイム】



副市長のあいさつ



恒例のレディース弁当は大人気のカレー付き



朝から大忙しだった厨房の様子



我々も少しだけお手伝い



【物産販売】



産直お野菜と手作り民芸品（ぼうしが人気）



ピーマンやシイタケの詰め放題

【黒松神楽鑑賞①】



ちびっこに大人気の黒松神楽鑑賞



しっかりと若手に受け継がれています



【黒松神楽鑑賞②】



【閉会式】



最後はいつものきよしのズンドコ節にのせて体操！



今年もたくさんの笑顔で、元気に『花いっぱい長谷まつり』を開催することができました。次の稲刈りで皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。ありがとうございました。

	企業名	所在地	電話
1	(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 九州支社	812-0872 福岡市博多区春町 1-6-6	092-571-5681
2	朝日開発コンサルタンツ(株)	892-0847 鹿児島市西千石町 5-1	099-226-6800
3	朝日航洋(株)九州空情支社	812-0013 福岡市博多区博多駅前 3-12-1	092-437-5905
4	朝日テクノ(株)	840-0203 佐賀市大和町大字梅野 280	0952-37-9300
5	アジアエン지니어リング(株)	815-0031 福岡市南区清水 1-14-8	092-553-2800
6	(株)アジア建設コンサルタント	815-0082 福岡市南区大楠 2-8-13	092-521-5931
7	アジア航測(株) 福岡支店	812-0011 福岡市博多区博多駅前 4-9-2	092-441-1480
8	(株)有明測量開発社	861-4108 熊本市南区幸田 2-7-1	096-381-4000
9	いであ(株) 九州支店	812-0055 福岡市東区東浜 1-5-12	092-641-7878
10	(株)ウエスコ 九州支社	812-0016 福岡市博多区博多駅南 2-4-11	092-483-3291
11	エイコー・コンサルタンツ(株)	815-0083 福岡市南区高宮 5-10-12	092-534-8150
12	(株)エイト日本技術開発 九州支社	812-0018 福岡市博多区住吉 3-1-80	092-686-9941
13	(株)エース 九州支社	812-0013 福岡市博多区博多駅前 2-9-25	092-292-0821
14	(株)エスケイエンジニアリング	818-0072 筑紫野市二日市中央 1-1-50	092-925-4880
15	(株)エスジー技術コンサルタント	840-0805 佐賀市神野西 4-18-25	0952-31-7881
16	(株)エム・ケー・コンサルタント	812-0882 福岡市博多区麦野 6-14-19	092-573-2777
17	(株)オオバ 九州支店	810-0074 福岡市中央区大手門 1-1-12	092-714-7521
18	扇精光コンサルタンツ(株)	851-0134 長崎市田中町 585-4	095-839-2114
19	応用地質(株) 九州事務所	811-1302 福岡市南区井尻 2-21-36	092-591-1840
20	(株)オービット	812-0894 福岡市博多区諸岡 1-25-41	092-589-3418
21	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支社	812-0011 福岡市博多区博多駅前 3-2-8	092-411-6209
22	(株)片平新日本技研 福岡支店	810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-2-22-3F	092-771-1170
23	川崎地質(株) 九州支社	812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-8-34	092-292-4386
24	(株)技術開発コンサルタント	812-0036 福岡市博多区上呉服町 12-8	092-271-2518
25	基礎地盤コンサルタンツ(株) 九州支社	814-0022 福岡市早良区原 2-16-7	092-831-2511
26	九建設計(株)	876-0822 佐伯市西浜 3-43	0972-22-4126
27	(株)九州開発エンジニアリング	862-0912 熊本市東区錦ヶ丘 33-17	096-367-2133
28	九州技術開発(株)	849-0937 佐賀市鍋島 5-7-23	0952-32-1112
29	九州建設コンサルタント(株)	870-0946 大分市大字曲 936-1	097-569-9595
30	九州工営(株)	880-0015 宮崎市大工 2-117	0985-28-1122
31	九州電技開発(株)	810-0005 福岡市中央区清川 2-13-6	092-533-5177
32	(株)九州土木設計コンサルタント	880-0123 宮崎市大字芳士 3701-59	0985-39-3330
33	九和設計(株)	806-0068 北九州市八幡西區別所町 2-38	093-641-3773
34	協同エンジニアリング(株)	870-0876 大分市大字三芳 1238-1	097-545-2111
35	(株)共同技術コンサルタント	880-0824 宮崎市大島町山田ヶ窪 1926-1	0985-29-0240
36	(株)橋梁コンサルタント 西日本支社	812-0013 福岡市博多区博多駅前 1-9-11	092-461-2011
37	(株)キョウワ	879-0627 豊後高田市新地 1952-3	0978-24-3062

	企業名	所在地	電話
38	(株)協和コンサルタンツ 九州支社	810-0001 福岡市中央区天神 3-11-20	092-733-1241
39	(株)熊本建設コンサルタント	862-0917 熊本市東区榎町 16-52	096-367-4111
40	(株)ケイディエム	883-0005 日向市中堀町 3-119	0982-52-0696
41	(株)ケー・シー・エス 九州支社	812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-4-4	092-472-4521
42	(株)建設環境研究所 九州支社	812-0023 福岡市博多区奈良屋町 2-1	092-271-6600
43	(株)建設技術研究所 九州支社	810-0041 福岡市中央区大名 2-4-12	092-714-2211
44	(株)建設技術コンサルタンツ	890-0007 鹿児島市伊敷台 1-22-1	099-229-2800
45	(株)建設技術センター	812-0023 福岡市博多区奈良屋町 1-1	092-283-6610
46	(株)建設コンサルタントサニー	870-0952 大分市下郡北 3-18-43	097-567-8600
47	(株)晃和コンサルタント	880-0925 宮崎市大字本郷北方 3009-1	0985-51-5818
48	(株)興和測量設計	861-5501 熊本市北区改寄町 2141-1	096-272-7711
49	国際技術コンサルタント(株)	849-0203 佐賀市久保田町大字新田 3797-3	0952-51-3711
50	国際航業(株) 九州支社	812-0013 福岡市博多区博多駅前 3-6-3	092-451-5001
51	(株)国土開発コンサルタント	880-0015 宮崎市大工 3-155	0985-24-6487
52	(株)国土技術コンサルタンツ	890-0008 鹿児島市伊敷 2-14-10	099-229-0030
53	(株)コスモエンジニアリング	843-0001 武雄市朝日町大字甘久 3796	0954-23-0200
54	(株)五省コンサルタント	812-0027 福岡市博多区下川端町 9-12-4F	092-281-4210
55	(株)コンサルハマダ	861-8034 熊本市東区八反田 1-1-15	096-385-1171
56	(株)サザンテック	876-0802 佐伯市日の出町 2-10	0972-23-2616
57	(株)佐藤設計コンサルタント	879-7111 豊後大野市三重町赤嶺 902	0974-22-6432
58	産業開発コンサルタント(株)	812-0044 福岡市東区筥松 3-13-9	092-621-7118
59	(株)サン建コンサルタント	879-5502 由布市挾間町向原 1298-1	097-583-4218
60	サンココンサルタント(株) 九州支社	810-0802 福岡市博多区中洲中島町 2-3-6F	092-271-2903
61	(株)サンコンサル	812-0888 福岡市博多区板付 2-5-4	092-582-1290
62	(株)三洋コンサルタント 九州支店	800-0031 北九州市門司区高田 1-3-1	093-342-8240
63	ジーアント・エスエンジニアリング(株)	812-0007 福岡市博多区東比恵 3-24-9	092-481-3100
64	JR九州コンサルタンツ(株)	812-0013 福岡市博多区博多駅前 1-1-14	092-413-1021
65	シビックアーツコンサルタント(株)	815-0041 福岡市南区野間 1-27-1	092-555-4151
66	(株)新栄設計事務所	857-0051 佐世保市浜田町 2-27	0956-25-1549
67	新日本開発工業(株) 九州事務所	812-0038 福岡市博多区祇園町 8-12-1027	092-273-2300
68	(株)新日本技術コンサルタント	890-0034 鹿児島市田上 8-24-21	099-281-9143
69	(株)親和コンサルタント	849-0933 佐賀市卸本町 7 番 25 号	0952-32-1348
70	(株)スリーエヌ技術コンサルタント	812-0043 福岡市博多区堅粕 4-24-14	092-482-7800
71	精巧エンジニアリング(株)	879-5103 由布市湯布院町川南 11-3	0977-85-3344
72	(株)精工コンサルタント	847-1211 唐津市北波多岸山 611 番地 16	0955-64-2237
73	(株)西部技建コンサルタント	886-0004 小林市細野 4158	0984-24-0511
74	(株)西部技術コンサルタント	812-0016 福岡市博多区博多駅前 4-18-12	092-437-5711
75	セントラルコンサルタント(株) 九州支社	812-0013 福岡市博多区博多駅前 3-11-28	092-432-5385
76	(株)総合技術コンサルタント 九州支店	812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-9-3	092-432-0555

	企業名	所在地	電話
77	(株)第一技術コンサルタント	815-0036 福岡市南区筑紫丘 2-6-11	092-554-1773
78	第一復建(株)	815-0031 福岡市南区清水 4-2-8	092-557-1300
79	ダイエーコンサルタント(株)	879-0311 宇佐市大字森山 1813-5	0978-32-0584
80	(株)大進	890-0016 鹿児島市新照院町 21-7	099-239-2800
81	(株)大進コンサルタント	861-2102 熊本市東区沼山津 4-2-22	096-365-0112
82	大成ジオテック(株)	830-0038 久留米市西町 1174-10	0942-34-5622
83	大日本コンサルタント(株) 九州支社	812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-10-35	092-441-0433
84	大福コンサルタント(株)	890-0068 鹿児島市東郡元町 17-15	099-251-7075
85	(株)太平設計	802-0023 北九州市小倉北区下富野 1-6-21	093-551-1413
86	(株)ダイヤコンサルタント 九州支社	812-0044 福岡市博多区千代 5-3-19	092-645-1280
87	太陽技術コンサルタント(株)	882-0062 延岡市松山町 1170-1	0982-33-2107
88	大洋測量設計(株)	879-0444 宇佐市大字石田 44	0978-32-4234
89	(株)高崎総合コンサルタント	839-0809 久留米市東合川 3-7-5	0942-44-8333
90	玉野総合コンサルタント(株) 福岡支店	812-0007 福岡市博多区東比恵 1-2-12	092-451-6141
91	(株)地圏総合コンサルタント 九州支店	810-0041 福岡市中央区大名 2-4-12	092-731-1121
92	中央開発(株) 九州支社	814-0103 福岡市城南区鳥飼 6-3-27	092-831-3111
93	(株)中央技術コンサルタンツ 西日本支社	862-0950 熊本市中央区水前寺 6-27-25	096-383-5353
94	中央コンサルタンツ(株) 福岡支店	812-0039 福岡市博多区冷泉町 2-1	092-271-2541
95	中央復建コンサルタンツ(株) 九州支社	812-0038 福岡市博多区祇園町 4-61	092-282-0441
96	(株)長大 福岡支社	810-0004 福岡市中央区渡辺通 1-1-1	092-737-8360
97	(株)千代田コンサルタント 九州支店	812-0018 福岡市博多区住吉 2-2-1-3F	092-262-0770
98	(株)テクノ	839-0809 久留米市東合川 3-1-21	0942-44-8700
99	(株)テクノコンサルタント	870-0108 大分市三佐 1-5-14	097-527-5111
100	東亜建設技術(株)	819-0046 福岡市西区西の丘 1-7-1	092-892-7710
101	(株)東亜コンサルタント	812-0007 福岡市博多区東比恵 3-28-10	092-415-1313
102	東亜コンサルタント(株)	870-0150 大分市東原 1-20-17	097-558-4884
103	(株)東京建設コンサルタント 九州支社	812-0016 福岡市博多区博多駅南 2-12-3	092-432-8000
104	(株)東光コンサルタンツ 九州支店	812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-3-3	092-472-3323
105	(株)トーチコンサルタント 九州支店	812-0011 福岡市博多区博多駅前 2-6-10	092-686-7300
106	東洋技術(株)	870-0856 大分市大字畑中 433	097-554-5330
107	東洋測量設計(株)	879-2421 津久見市大字津久見 515	0972-82-5646
108	(株)トキワ・シビル	812-0882 福岡市博多区麦野 1-22-3	092-571-3737
109	豊福設計(株)	857-0136 佐世保市田原町 9-15	0956-41-4333
110	内外エンジニアリング(株) 福岡支社	812-0016 福岡市博多区博多駅南 3-20-3	092-431-2851
111	(株)西田技術開発コンサルタント	880-0911 宮崎市大字田吉 6186-5	0985-52-1227
112	西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	815-0033 福岡市南区大橋 2-8-1	092-235-9140
113	西日本・開発コーポレーション(株)	810-0022 福岡市中央区薬院 3-13-23	092-526-8887
114	西日本技術開発(株)	810-0004 福岡市中央区渡辺通 1-1-1	092-781-2831
115	西日本建技(株)	812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-13-6	092-441-7676

	企業名	所在地	電話
116	西日本コンサルタント(株)	870-0852 大分市大字奥田 646-1	097-543-1818
117	西日本総合コンサルタント(株)	849-0902 佐賀市久保泉町大字上和泉 3114-3	0952-98-2141
118	(株)西日本測量設計	830-0051 久留米市南 1-14-11	0942-32-2323
119	(株)日建技術コンサルタント 九州支社	812-0024 福岡市博多区綱場町 8-23	092-263-5250
120	(株)日建コンサルタント	870-0018 大分市豊海 3-7-7	097-534-0313
121	日進コンサルタント(株)	871-0025 中津市万田 602-2	0979-24-5436
122	(株)日水コン 九州支所	812-0038 福岡市博多区祇園町 7-20	092-282-1354
123	(株)日設コンサルタント	812-0024 福岡市博多区綱場町 9-28-3F	092-262-2377
124	日鉄鉱山コンサルタント(株) 九州本社	812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-6-23	092-451-6467
125	(株)日本インシーク 九州支店	812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-9-3	092-433-2771
126	日本工営(株) 福岡支店	812-0007 福岡市博多区東比恵 1-2-12	092-475-7131
127	日本交通技術(株) 九州支店	812-0012 福岡市博多区博多駅中央街 8-20	092-433-3070
128	(株)日本港湾コンサルタント 西日本事業本部九州支店	812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-13-28-7F	092-482-0354
129	日本振興(株) 九州支店	812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-5-21-2F	092-481-0264
130	日本地研(株)	812-0894 福岡市博多区諸岡 5-25-25	092-571-2764
131	(株)ニュージェック 九州支店	810-0001 福岡市中央区天神 2-8-30-4F	092-715-3301
132	(株)萩原技研	892-0816 鹿児島市山下町 16-20	099-222-8700
133	パンフィックコンサルタンツ(株) 九州支社	812-0012 福岡市博多区博多駅中央街 7-21	092-418-8020
134	(株)パスコ 九州事業部	812-0007 福岡市博多区東比恵 3-5-2	092-451-3522
135	(株)東九州コンサルタント	882-0861 延岡市別府町 4209-2	0982-33-1120
136	(株)久永コンサルタント	890-0007 鹿児島市伊敷台 1-22-2	099-228-6600
137	日向測量設計(株)	883-0013 日向市新生町 1-72	0982-52-5445
138	フェニックスコンサルタント(株)	880-0121 宮崎市大字島之内字境田 6652	0985-39-2914
139	(株)福山コンサルタント	812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-6-18	092-471-0211
140	(株)富士設計	870-0942 大分市大字羽田 930-1	097-574-5318
141	(株)復建エンジニアリング 福岡支社	810-0041 福岡市中央区大名 2-12-15-2F	092-716-6262
142	復建調査設計(株) 九州支社	812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-12-24	092-471-8324
143	(株)ホープ設計	903-0813 那覇市首里赤田町 3-5	098-911-9073
144	(株)間瀬コンサルタント 福岡支店	812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-6-28	092-471-6610
145	(株)松尾設計	805-0061 北九州市八幡東区西本町 2-5-5	093-661-4970
146	松本技術コンサルタント(株)	871-0161 中津市大字上池永 1285-10	0979-23-3636
147	(株)水野建設コンサルタント	862-0933 熊本市東区小峯 2-6-26	096-365-6565
148	(株)溝田設計事務所	830-0032 久留米市東町 480-16	0942-38-6548
149	三井共同建設コンサルタント(株) 九州支社	812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-14-1	092-441-3872
150	(株)宮崎産業開発	880-0022 宮崎市大橋 3-225	0985-27-7103
151	八洲開発(株)	862-0920 熊本市東区月出 1-1-52	096-384-3225
152	八千代エンジニアリング(株) 九州支店	810-0062 福岡市中央区荒戸 2-1-5	092-751-1431
153	(株)ワコー	861-4172 熊本市南区御幸笛田 3-19-1	096-370-3333

(令和元年7月1日現在 153社)